男の隠れ家　2020年6月号（毎月27日発売）4月27日発売
第24巻第6号 通巻285号

古いクルマに乗る喜びってな〜んだ?

男の隠れ家

2020 JUNE
6
定価750円

こっちもクラシカル!
クラシックバイク
大好き10人

Contents

祝! 50周年
トミカに見る
クラシックカー

買えなきゃ借りる
レンタルクラシックカー

歴史を知ればなお楽しい
クラシックカー博物館

大事な愛車をいつまでも……
クラシックカー&
ガレージ

カッコいい
クラシックカー
オーナー
50人が登場!

絶対に手放したくな〜い!

古くて新しい
クルマ大集合!!

わたしが
クラシックカーに
乗り続ける、その理由。

I DON'T INTEND TO LET THAT GO! THERE'S A REASON I KEEP ON A CLASSIC CAR.

CONTENTS

6
2020 JUNE

発行人◎星野邦久　編集人◎栗原紀行
表紙撮影◎本林昭吾、金盛正樹
株式会社三栄

カッコいい
クラシックカー
オーナー
50人が登場!

Column

MONTHLY TOPIC

REGULAR COLUMN

KAKUREGA INFO

今月のパーソン 205

ヴォーカリスト

鈴木雅之

「40年間の出会いは音楽の神様のギフト」

シャネルズ、ラッツ&スターを経てソロヴォーカリストとなった鈴木雅之さん。ラヴソングの王様と讃えられる歌唱力で、音楽シーンの第一線を走ってきた。シャネルズ「ランナウェイ」からデビュー40周年を迎えた心境を語っていただいた。

サングラスに口髭、洗練された風貌は40年という歳月を感じさせない。

「鈴木雅之の歌を愛してくれた人や、一緒に“音”を作ってくれたアーティストやスタッフ。奇跡的な巡り会いの積み重ねが、この40年という時間を作ってきたことに感慨深いものがあります。シャネルズ時代からずっとワンレーベルで歌い続けたことによって得た人脈が誇りであり宝物ですね。40周年はそんな人達との出会いが音楽の神様からのギフトかな」

「グループ時代は井上大輔さんや湯川れい子さんというヒットメーカーに出会い、ソロになってから最初の3枚のアルバムを大澤誉志幸、山下達郎さん、小田和正さんといった才能あふれるアーティストたちにプロデュースしていただきました。それがソロヴォーカリスト鈴木雅之の方向性を示してくれた。最初から自分に無いものを持っている人たちと音楽を作ってきたことが、その後の僕の財産、引き出しになりました。だから今でも色々なアーティストと新しいことにチャレンジすることはワクワクします」

大瀧詠一さんはアマチュア時代から世話になった師匠のような存在だった。

「『夢で逢えたら』はずっと語り歌い継いでいきたい楽曲として今回も2020年バージョンとして収録しました。ラッツ&スター時代にプロデュースしてもらった『Tシャツに口紅』は色んな意味で心の中に残る大切な楽曲です。その続編のつもりで『ガラス越しに消えた夏』というバラードを作り、ソロになってもメンバーの思いを背負って歌っているところもあるし、大瀧さんの存在もずっと共にあるという気持ちですね」

40周年アルバムは、豪華アーティストとのシャネルズ再録やシャネルズ、ラッツ&スター、ゴスペラッツのベスト、さらに新曲も含めた鈴木雅之の過去・現在・未来の全てが詰まっている。

「鈴木雅之なりのロックンロールということです。僕にとってのロックンロールとは音楽とビジュアルが二つでひとつ。10代の頃から音楽仲間と徒党を組んで、ハーモニーやステップを合わせたり、お揃いのスーツを仕立てたりして楽しんでいましたね。鈴木雅之の音楽はみんなで楽しむものが大前提なんです」

大切にしているのは“言葉”だ。

「ヴォーカリストとして言葉を届けることをとても意識しています。歌い続けてくると、歌い方を崩す人がいますが僕は崩さない。聴いている人は本来の音源を聴いて育ったわけですから、僕がステージで歌っていると声に出さなくても、心の中で一緒に思いながら歌ってくれている。一緒に楽しむものだから“言葉”を大切に歌うことを意識していますね」

すずき・まさゆき

1956年東京都生まれ。80年シャネルズでデビュー。83年ラッツ&スターに改名、「め組のひと」など多くのヒット曲を残した。86年「ガラス越しに消えた夏」でソロヴォーカリストとしてデビュー。以後、高い歌唱力でJポップの第一線で活躍を続けている。“マーチン”、“リーダー”の愛称で親しまれる。

『ALL TIME ROCK 'N' ROLL』
CD:4591円+税（初回生産限定盤）、3636円+税（通常盤） 発売中 EPICレコードジャパン

●ライブ情報
masayuki suzuki taste of martini tour 2020
〜ALL TIME ROCK 'N' ROLL〜
※詳しくは鈴木雅之 公式サイトにてご確認ください。https://www.martin.jp/40th/

鈴木雅之が定義するロックンロールをコンセプトにしたデビュー40周年記念アルバム。Disc1はシャネルズのデビューアルバムを彷彿とさせる内容。Disc2は「め組のひと」などシャネルズ、ラッツ&スター、ゴスペラッツのヒットナンバーを収録。Disc3は最新シングル「DADDY！DADDY！DO！feat. 鈴木愛理」などを盛り込んだ豪華ラインアップ。

 取材・文◎阿部文枝

いつか出会った郷土の味

〈第四十七食〉

夢枕 獏

local dishes letter

東京・兵庫 宝塚劇場売店の「梅ジェンヌ」がたまらん

昭和46年(1971)、世界で初めて「カリカリ梅」の開発に成功した赤城フーズ。地元群馬県産の青梅を中心に日々新たな商品開発に努めている。

甘いぞ。

甘くて酸っぱいぞ。

衝撃的で暴力的で、口の中で甘みと酸味が獣のように舌に噛みついてくるぞ。今こうして書いていても、頬の内側——つまり口の中にじゅくじゅくと唾液があふれ出てきてしまうのだぜ。知らず口がすぼまって眉が寄って、目がしょわしょわになっちゃうのだ。

それが、「梅ジェンヌ」なのである。今回の隠し球なのである。

これをここで紹介すべきかどうか、半年迷った。迷ったあげくについに我慢できず、スカイツリーのてっぺんからダイビングするつもりで書くことにしたのである。

これ、いわゆる「カリカリ梅」である。しかし、私がこれまで食べたカリカリ梅のどれよりも激しく、この宝塚エロスが私の味覚に闘いを挑んできたのである。

東京宝塚劇場で、隣りの人からどうぞと勧められ、ひと口食べてぶっ飛んでしまったのである

たぶん、調べたわけではないのではっきりしたことはわからないが、これ宝塚劇場の売店でしか売ってないのではないか。そういうことにしておこう。その方がインパクトがあるからだ。

何故、これが宝塚劇場の売店で売られているのか。それは、この「梅ジェンヌ」を販売している赤城フーズの社長が、元宝塚、宙組の遥海おおらこと遠山昌子氏であるからである。この方は、二〇〇〇年に上演された「源氏物語あさきゆめみし」が初舞台で、男役の女優さんである。そのおおらさんが、実家の家業を継いで社長になったのである。だから「梅ジェンヌ」が、宝塚の売店で売られているのである。この商品が入っている袋にプリントされているキャッチがいいぞ。

「お菓子がなければ梅を食べればいいのに」

わかるか。

これは宝塚最大のヒット作品「ベルサイユのばら」のヒロイン、マリー・アントワネットが実際に口にした言葉のパロディである。

国民が飢えて苦しんでおり、パンも食べることができないという話を耳にしたマリー・アントワネット、

「パンでなくケーキを食べればいいのに」

と本当に言ったというのである。

この元ネタをふまえ、袋にプリントされているキャッチや、梅ボシ顔のヒロインの絵などをしっかり鑑賞してから、これを食べるのだ。できれば、食すのは東京宝塚劇場の座席がよろしい。ぼくはそうであった。

食べて腰をぬかしてほしい。

作家、1951年神奈川県生まれ。「魔獣狩り」「キマイラ」「餓狼伝」「闇狩り師」「陰陽師」シリーズ等の作者。89年『上弦の月を喰べる獅子』で日本SF大賞、98年『神々の山嶺』で柴田錬三郎賞。『大江戸釣客伝』で2011年に泉鏡花文学賞と舟橋聖一文学賞、2012年に吉川英治文学賞を受賞。2017年に菊池寛賞、日本ミステリー文学大賞受賞。18年、紫綬褒章受章。

 イラスト◎大崎吉之

知花くらら エッセイ

31文字の

日々是好日

HIBI KORE KOUJITSU

【第34回】

CHIBANA KURARA

生まれ出でむつきめに春さくら色に
透けしわが子の耳たぶに問ふ

知花くらら

「この世界に生まれて、今のところどーお?」

親友が生後半年の娘に楽しげに話しかけている。娘も相手をしてもらえるのが嬉しいのかにこにこ上機嫌。この頃は、母友たちとわが子の進路をどうするかという話題になることが多い。〝将来を決めるんだから。親がちゃんと選ばなきゃ〟と言われ、なんだか大変なことになってきたぞと、ピコーンピコーンとアラームが頭に鳴り響く。娘の将来を決める……?私なんて、大人になってもまた大学に入り直して学生をしているわけで。来年の自分すら予想できないのに、0歳の娘っ子の将来を今決めるなんて、責任重大すぎる。

沖縄出身の私はごく普通の家庭に育って、受験や留学、就活……、人並みに人生の岐路があった。そんなとき両親にはいつも、自分で決めたなら責任を持ちなさいと言われて。突き放されたように感じたこともあったけど、そういえば、頭ごなしに否定されたことは一度もない。私は、誰の顔色を伺うこともなく、自分で決めて、意思を貫いてきた。自分なりに必死に答えを出してきたし、それを尊重してくれた両親に今では感謝。

あづかれる宝にも似てある時は
吾子ながらかひな畏れつつ抱く

これは上皇后の歌。母としての感覚が瑞々しく美しい。もちろんお立場あった上での一首だけれど、今の私にふと、刺さる。子の命は、親が自由にできるものではなく、一時的に預かっている宝ものなのかも。娘っ子もいつか、自分で決断し、選びとり、人生を歩むようになる。新しい世代の価値観の中、彼女の戦いが始まるわけで。きっと、親がハラハラすることもあるだろう。でも、私たちにできることは、それまで娘の人生を全力で預かること。選択肢をできるだけ残してあげられるように。

そのいつかのために、今決めなくちゃならないことがたくさんあるらしい。育児とは情報戦よと言う友に、ふむふむとメモ取り顔の新米母。一歩ずつなり。

Profile

1982年生まれ。沖縄県出身。数々の女性ファッション誌でモデルを務めるほか、TV・ラジオ・CMなどで活躍。第63回角川短歌賞で佳作を受賞するなど歌人としても活動。WFP国連世界食糧計画(国連WFP)の日本大使も務める。

前略、高座から――。

第六十六回

「この瞬間が貴重で大切な経験となる」

いやはや、大変なことになってますね。ええ、新型コロナウイルスの猛威です。オリンピック・パラリンピックまで延期になり、世界中で人々の生活がおびやかされることになるとは……。

前回少しお話したとおり、落語界も相当数の催しが中止や延期となり、上野・新宿・浅草・池袋、四軒の定席も通常興行していましたが、3月28・29日は東京都の中止要請により休席を決めました。

寄席文字(当連載の「柳家三三」の字がそれですね)書家の橘右楽師匠は江戸時代からの寄席の歴史を調べ、資料を収集している方です。去年NHKの大河ドラマ「いだてん」で明治期や昭和の寄席が実に見事に再現されていたのも、右楽師匠の資料なくしてはできなかったことだそうです。先日、お目にかかった折に「三三よ、このコロナ騒ぎで寄席の世界がどんな目に遭ったか記録を残しておきたいんだ。3月の仕事の状況を教えてくれるかい?」とのこと。そこで仕事の予定と、中止や延期の実態をお伝えすると「想像以上だなぁ、ほとんど仕事なくなってるぜ」「仕方ないとしか言いようがありませんよね」「まったくなぁ……」なんて、

二人でため息。この厄災は後世どう伝わり、未来の人たちは何を思うんでしょう。

ご依頼いただいたお話が流れただけではなく、自分が主催する会も、リスクのあるところへお客様に集まってくださいとは言えず中止に。それでも指をくわえて黙ってもいられず、会が予定されていた当日同時刻にカメラの前で落語を演じ、YouTubeで無料のライブ配信をしてみました。発案時は大相撲のむこうを張って〝無観客落語〟なんて笑っていましたが、「笑い声や拍手が画面から聞こえてきたら、より雰囲気良く見てもらえるんじゃないか」という助言をもらい、数人のスタッフ・身内の前での口演となりました。

当日の番組は三三の落語「加賀の千代」と「花見の仇討」の二席、会に出演予定だった二ツ目・立川吉笑さんの新作落語「舌打たず」、出囃子を毎回演奏してくれる長澤あや師匠の寄席囃子実演という内容で、いろどりも良かったのではないかと。目の前にお客様がいると、その反応によって自分の噺が臨場感のある状態で導いてもらう感覚――これは通常の高座と同じ気持ちですね――を味わいながらおしゃべりができました。画面を通してご覧になった皆さんにも、少しでも現場でライブを体験している空気を感じていただけたなら幸せだけど……どうだったかなぁ?

簡素な機材だったので充分な映像・音声ではなかったこと、本職が無料で芸を公開することに異論はあると思います。けれど、その瞬間しか見られない生配信のために皆さんが気持ちと時間を割いてくださる、それが落語を演じる心のよりどころになりました。私にとって、とても大事な体験となりましたよ!

やなぎやさんざ●1974年、神奈川県生まれ。落語家。1993年、18歳で柳家小三治に入門。5月は5日(火祝)新宿、8日(金)池袋、10日(日)沖縄、11日(月)横浜、17日(日)福岡、20日(水)霞ヶ関、26日(火)中野で独演会あり。※変更・中止の場合あり

 寄席文字◎橘 右橘 イラスト◎根本 孝

レアな名車の数々に会いに行く

一度は訪ねておきたい クラシックカー博物館

全国には歴史あるクルマを保存している自動車メーカーや、
数々の外国車をコレクションしている博物館がいくつもある。クラシックカーの世界に浸りたい。

2 スバルビジターセンター
3 那須クラシックカー博物館
4 東北大学 自動車の過去・未来館
5 WAKUI MUSEUM
6 日野オートプラザ
7 スズキ歴史館
8 トヨタ博物館
9 福山自動車時計博物館
10 四国自動車博物館
11 九州自動車歴史館

貴重な名車たちを間近で見学できる夢の空間

クラシックカーを愛車にしていても、いくつも手に入れることはなかなか難しい。またクラシックカーに乗りたくても様々な理由で所有できない人もいるだろう。そんな人にお勧めなのが博物館だ。メーカーのアイコンとなった名車、一世を風靡した外国車などレアなクルマに出会える。クルマの歴史も学ぶことで新たな発見もあるだろう。訪れれば、さらにクラシックカーが好きになるはずだ。

※開館情報は各HPでご確認ください。

上／展示室に並ぶ名車は、クルマに詳しくない人でも見たことがあるものも少なくないはず。右下／その形から「テントウムシ」と呼ばれた「スバル360」。左下／幻のクルマ「スバル1500」は試作されたが、販売はされなかった。

群馬県

名車を生み出し続けるメーカーの歴史をのぞく

スバルビジターセンター

日本車の中でも人気の高いスバルは、まさしく名車揃い。その博物館は工場の中にある。まず目に飛び込んでくるのは、入口にあるジェット練習機「初鷹」。スバルの前身である富士重工業が製造し、引退したものを展示してある。1階は1フロアにスバルの歴史的なクルマたちが並ぶ。昭和33年(1958)に生産開始され、昭和30〜40年代を代表するクルマとなった「スバル360」はもちろんのこと、「スバル1500」や「アルシオーネ」、ピックアップトラックの名車「スバルブラット」など、個性的な技術を反映したクルマたちが勢揃いしていて、思わず一台一台立ち止まって眺めてしまう。ビジターセンターへの入館は、工場見学とセットになっているため予約が必要だが、ボディ溶接、最終組み立てなどの生産工程も一緒に見学できるので楽しみも倍増だ。

すばるびじたーせんたー
群馬県太田市庄屋町1-1
☎0276-48-3101
開館時間／要予約
休館日／土曜、日曜、年末年始
入館料／無料　アクセス／(電車)東武鉄道「太田駅」より車で約20分。(車)北関東自動車道「太田桐生IC」より約30分

栃木県

海外の名車のコレクションを見るなら

那須クラシックカー博物館

栃木県のリゾート地である那須に建つクラシックカー専門の博物館。航空機の格納庫を思わせる特徴的な半円状の建物は「IRON DOME」の愛称で親しまれているが、その内部にはたくさんのクラシックカーが並んでいる。特に注目したいのは外国車だ。クルマによってはオートモービルなど100年以上前のクルマや、昭和5年(1930)に作られて当時のスピード記録を出した「MG-EX120 RACER」など歴史的に貴重なものも展示されている。他にもロールスロイス、フェラーリ、ジャガーなど世界各国様々なメーカーによって製造された多種多様な名車を一度に見られるとあって、全国だけでなく外国からもクラシックカーファンが訪れるという。展示品は撮影が可能な上、実際に触るだけでなく乗ることもできるクルマもあるので、博物館の隅々まで散策してみよう。

なすくらしっくかーはくぶつかん
栃木県那須郡那須町大字高久甲5705
☎0287-62-6662
開館時間／9:00〜18:00(10月〜3月は9:00〜17:00)
休館日／無休　入館料／一般1000円　アクセス／(電車)JR「黒磯駅」より車で約25分。(車)東北自動車道「那須IC」より約10分

上／世界のクルマが並ぶ様子は、まるで別の国にいるよう。右下／昭和30年前後のわずかな期間だけ製造された希少なクルマ「ハドソンクーペ・ホーネット」。左下／映画「スピードレーサー」で実際に使われたクルマも。

スタッフお勧め
ロールス・ロイス 25/30Hp

コレクションのなかには、なんと吉田茂元首相の愛車もある。歴史的に重要なものも展示されているから驚きだ。

埼玉県

圧巻のロールスロイス／ベントレーコレクション

WAKUI MUSEUM

元々はロールスロイスとベントレーを専門に販売していたが、平成20年(2008)、ついにそのプライベートコレクションの展示室をオープンした。堂々たる威厳を誇る２種類のクラシックカーがズラリと並ぶのは圧巻のひと言。特に中央に構える「シルヴァーゴースト」シリーズの3台、ロールスロイスの名車たちはファンにはたまらない光景だ。また、近接する「WAKUI MUSEUM HERITAGE」でも常時40台近くのクルマを展示販売しているので、名車の数々をじっくりと見て、購入できる。

わくいみゅーじあむ
埼玉県加須市大桑2-21-1
☎0480-65-6847
開館時間／11:00～16:00
休館日／月曜～金曜　入館料／無料
アクセス／（電車）東武鉄道「花崎駅」より徒歩約30分。（車）東北自動車道「加須IC」よりすぐ

注 目
教員や学生が整備

展示されたクラシックカーを丁寧に整備する。当然、部品ひとつ一つが貴重なため、メンテナンスは慎重に行われる。

宮城県

オープンキャンパスでエンジンの始動実演も

東北大学 自動車の過去・未来館

東北大学創立100周年を記念して創られた小さな博物館。大正15年(昭和元年、1926)に作られた「T型フォード」、および昭和6年(1931)に作られた「A型フォード」の2台に、トヨタ製のF1エンジンが展示されている。注目したいのは、寄贈されたクルマを同大学の教員や学生が整備していること。オープンキャンパスなどのイベント時には、実際にエンジンを始動させている。実際にクラシックカーがエンジン音を鳴らしているところを見ることができる貴重な機会に立ち会える。

とうほくだいがく じどうしゃのかこ・みらいかん
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
東北大学 青葉山東キャンパス内
☎022-795-4043
開館時間／8:00 ～ 20:00　休館日／12月29日～1月3日　入館料／無料　アクセス／仙台市営地下鉄「青葉山駅」より徒歩約15分。（車での来館は不可）

昭和54年(1979)に発売された初代「アルト」はセカンドカーブームに貢献。スズキを語るうえで欠かせない名車だ。

静岡県

軽自動車メーカーの車作りを学ぶ

スズキ歴史館

モノづくりが盛んな静岡県浜松市の自動車メーカー、スズキの博物館。織機メーカーとして創業した同社がクルマ作りへと発展していく歴史を学べる。特に主力製品に関しては様々な展示方法を用いて、その技術について深く知ることができるのが特徴だ。クルマの展示室で最初に目を引くのは、やはり昭和30年(1955)に発売された日本初の量産型軽自動車「スズライト」。そこから「ジムニー」、「スイフト」と眺めていくと、現在まで歴史がつながっていることを感じられる。

すずきれきしかん
静岡県浜松市南区増楽町1301
☎053-440-2020
開館時間／9:00～16:30（要予約）
休館日／月曜日、年末年始、夏季休暇等
入館料／無料　アクセス／（電車）JR「高塚駅」より徒歩約10分。（車）東名高速道路「浜松西IC」より約30分

スタッフお勧め
コンテッサ900スプリント

展示されている「コンテッサ900スプリント」は当時の展示会で注目されたものの量産に至らなかった希少なクルマ。

東京都

トラック・バスメーカーのクラシックカーを見る

日野オートプラザ

日野と言えば、今ではトラックをイメージする人が多いかもしれない。だが、一時期は乗用車も製造しており、現在でも多くのファンを持つ。展示スペースで一番目立つのは、やはり昭和41年(1966)製造のバスBH15 型。高度経済成長期を支えたボンネット型バスが懐かしい気持ちにさせてくれる。その反対側に並ぶのが名車「コンテッサ」だ。昭和30年代に発売した「コンテッサ900」をはじめとしたシリーズが揃う。今では製造されていない大手メーカーの乗用車に思いを馳せよう。

ひのおーとぷらざ
東京都八王子市みなみ野5-28-5
☎042-637－6600
開館時間／10:00～16:00
休館日／第1・3・5土曜、日曜、年末年始、5月、夏季連休
入館料／無料　アクセス／（電車）JR「八王子みなみ野駅」より車で約15分。（車）中央自動車道「八王子IC」より約30分

スタッフお勧め
マツダ号PB型三輪乗用車

昭和30年頃まで利用され、「三輪タクシー」・「バタンコタクシー」の愛称で親しまれたマツダの三輪乗用車。

広島県

触れる、乗れる体験型博物館

福山自動車時計博物館

広島県福山市にあるクラシックカーや時計をはじめとし、楽器や家電など今では希少価値の高いレトロな物を取り揃えた見た目も情緒あふれる博物館。クラシックカーも多種にわたって収集されており、大正4年(1915)製の「T型フォードスピードスター」から、日産自動車が昭和10年(1935)製造した「ダットサンフェートン」、昭和30年代に作られた日野のボンネットバス「BA14型」・「BH15型」、昭和30年(1955)製造の陸王サイドカーなど日本車、外国車、バス、サイドカーと様々。

ふくやまじどうしゃとけいはくぶつかん
広島県福山市北吉津町3-1-22
☎084-922-8188
開館時間／9:00～18:00
休館日／無休　入館料／一般900円
アクセス／(電車)JR「福山駅」より徒歩約15分。(車)山陽自動車道「福山東IC」より約15分

スタッフお勧め
マツダコスモスポーツ(左)

昭和42年(1967)に発売開始した「マツダコスモスポーツ」は世界で初めて量産ロータリーエンジンを搭載した名車。

大分県

懐かしの名車が揃い踏み

九州自動車歴史館

昭和63年(1988)に大分県の温泉地である湯布院にオープンした30年以上の歴史がある博物館。展示されているクラシックカーの歴史も古く、「T型フォード」は明治42年(1909)製と、そのコレクションの奥深さに感嘆させられる。国産者、外国車に限らず、幅広く収集しているが、特に映画やテレビドラマに登場するクラシックカーを多く集めており、作品のシーンを彷彿とさせるような展示方法も魅力的だ。レトロな風景に溶け込むオート三輪の数々にもノスタルジーを感じる。

きゅうしゅうじどうしゃれきしかん
大分県由布市湯布院町川上1539-1
☎0977-84-3909
開館時間／9:15～17:15
休館日／木曜　入館料／一般800円
アクセス／(電車)JR「由布院駅」より徒歩約15分。(車)大分自動車道「湯布院IC」より約10分

スタッフお勧め
TOYOPET Crown

現在、誰もが知る著名なクルマである「クラウン」の初代にあたる「TOYOPET Crown」は、昭和30年(1955)に発表された。

愛知県

トヨタ車だけでなく世界の車が集まる博物館

トヨタ博物館

トヨタ博物館で特筆すべきは、その規模と約140台にのぼるコレクションの豊富さだろう。何より自社のクルマのみに限らず、世界中から歴史のあるクルマを集めて展示することによって、クルマの歴史を体系的に学ぶことができる。また、文化館2階の「クルマ文化資料室」では、模型やクルマに関するポスターの他、自動車に取り付けられたカーマスコットが180点ほど展示されており、こちらも見逃せない。クラシックカー好きな人もそうでない人も楽しめる博物館。

とよたはくぶつかん
愛知県長久手市横道41-100
☎0561-63-5151
開館時間／9:30～17:00　休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始　入館料／一般1200円　アクセス／(電車)リニモ「芸大通駅(トヨタ博物館前)」より徒歩約5分。(車)名古屋瀬戸道路「長久手IC」よりすぐ。

スタッフお勧め
TOYOTA 2000GT

昭和42年(1967)に、日本初の本格的なスポーツカーとして開発された「TOYOTA 2000GT」もヒストリックカーのひとつ。

高知県

希少なヒストリックカーたちが並ぶ

四国自動車博物館

レーシングカーやラリーカーを中心としたクラシックカーが展示されている四国自動車博物館。特徴的なのは展示されているクルマそれぞれの歴史を取り上げていることである。例えば「LANCIA DELTA S4」や“デイトナ”の愛称を持つ「Ferrari 365GTB/4」などは、それぞれカーレースで歴史を彩った名車たちである。レースだけでなく純国産車として製造された「TOYOPET Crown」など、展示されているクルマそれぞれのストーリーがわかるので、一層クラシックカーへの愛着が湧いてくる。

しこくじどうしゃはくぶつかん
高知県香南市野市町大谷896
☎0887-56-5557
開館時間／10:00～17:00
休館日／月曜(祝日の場合は開館)　入館料／一般800円　アクセス／(電車)土佐くろしお鉄道「のいち駅」より徒歩約10分。(車)高知自動車道「南国IC」より約25分

カッコいい
クラシックカー
オーナー
50人が登場!

撮影◎本林明香（1963 ダットサン・ブルーバード 石川和男所有）　文◎高地 梓、編集部

絶対に手放したくな〜い！

わたしがクラシックカーに乗り続ける、その理由。

I DON'T INTEND TO LET THAT GO! THERE'S A REASON I KEEP ON A CLASSIC CAR.

忙しく行き交うたくさんの現代の流麗なクルマの中に、40年も50年も生きながらえてきた1台の古いクルマ。
それだけで町の風景ががらりと変わってしまう。そして、そこだけ違う時間が流れているような感覚に陥る。
そうした特別な存在であるクラシックカー50台と共にオーナー50人が持つ喜びと意義を語ってくれた。

●撮影協力／しらこばと公園 クラシックカーフェスティバル2020／ダムサンデー／Jack Historic Car Club／昭和・平成のクラシックカーフェスティバルinキャッセ羽生

①ヨーロッパ車を長年乗り継いできた江口さんが一目惚れしてその場で即決購入したシトロエンの優雅なスタイル。②3速マニュアルのミッションはいたって快調。普段の足にもしている。③運転席周りの美しいウッドパネルが特徴だ。④エンジンは直列4気筒の1901cc。

No. 01 CLASSIC CAR LIFE

| CITROEN LIGHT FIFTEEN |

一期一会の出合いを信じて手に入れた愛車

江口修一さん（ジャズ喫茶経営・69歳） シトロエン ライトフィフティーン［ 1956／フランス ］

真っ赤なシトロエンでタイムスリップを味わう

茨城県の笠間市内で鉄道貨物車両の車掌車を利用してジャズ喫茶を営んでいる江口さん。昭和歌謡を知る世代には懐かしいロス・インディオス&シルビアの元メンバーだ。長年音楽の世界で暮らしてきたためか、店内はレコードや昭和の香り溢れるグッズで埋め尽くされている。江口さんはクラッシックカー、特にヨーロッパ車への造詣が深く、10代で免許を取った時の愛車がトライアンフスピットファイヤーだった。その後もフィアットやワーゲン、BMW、アウディ、MGA、アルファロメオなどを乗り継いできた。現在所有しているシトロエン・ライトフィフティーンは「4年前に京都で見つけて、即購入を決めて自走して帰ってきたんです」と江口さん。クルマを見るだけで1950年代にタイムスリップできる、このスタイルにひと目惚れしたらしい。「世界中のクルマに乗るのが夢でしたが、2CVと出逢い、その発想力に感動してシトロエンと恋に落ちてしまったって感じですかね」。ジャズ喫茶の名前も「2CV」。シトロエンへの愛が貫かれている。

①いつもは自宅のガレージに停めているが、シトロエン仲間たちが店に集まる時には店まで持ってきて、クルマの話で盛り上がるという。②③どこから見ても50年代のデザインは、いつまで見ても飽きない。④⑤昭和のグッズで溢れている店内にはロスインディオスのゴールドディスクも飾られている。ジャズ喫茶『2CV』営業時間は未定、火・水曜が定休。

シトロエン ライトフィフティーン
製造開始年／1934年
排気量／1901cc
エンジン／直列4気筒OHV

前輪駆動を意味する「トラクシオン・アバン」シリーズの4気筒中型車。仏名は11CV。意味は「15馬力」。英語名は15馬力のショートボディとなる。

Owner's voice

クラシックカーとは一期一会を大事に

京都で一目見たとたん、インスピレーションでこのクルマを絶対手に入れたいと思いました。買ってすぐ自走で持ってきたのも、この機会を逃したら二度と会えないと思ったからです。

MORRIS MINOR PICKUP

自作のガレージでクルマに手を入れる

小畑 進さん（自営業・66歳） モーリス マイナー ピックアップ ［ 1961／イギリス ］

アメ車と違う雰囲気満載の欧州車のピックアップ

オーナーの小畑さん曰く「以前から小さなヨーロッパ車のピックアップを探していたんですよ」。ホームセンターの仕事を長年勤め上げ、定年後にその経験を生かして、念願のガレージを自分で造り上げた。しかし、欧州車のピックアップにはなかなか巡り会えず、ようやく3年前に日本ではほとんど見ないモーリスピックアップを手に入れた。アメリカ車のパンプキンタイプのトラックをそのまま小さくしたようなデザインがとても気に入っていると話す。「特に小さくてもボリューミーなボンネットやフェンダーの形状が気に入っています」。ガレージ内には整備工場にも引けをとらない工作機械をズラリと揃えて、ほとんどの整備は自分で行っているという。ドアサイドのペイントは、イギリスで実際走っている車両の写真を見て、それを参考にして塗ったそうだ。またピックアップベッド（荷台）のカバーもイギリスで仕事に使われている同タイプの写真を参考にして製作したとのこと。車検なども自分で点検修理して取得しているというのも納得だ。

Owner's voice

**英国車なので
パーツ供給は安心**

古いクルマですが、英国車だけにパーツは十分流通しているので安心です。いまのところ困らないですね。近い将来、同時期に生産されていたMINIのピックアップトラックが欲しいです。

①②ヨーロッパの街中で今でも普通に仕事車として走っているような、何のてらいもない自然体のフォルムがお気に入りだ。オリジナルのライトブルーの車体色もそのままキープしている。③ガレージは写真に映っているほぼ3倍の広さ。好きな小物を飾る事務スペース、工具や工作機械がぎっしり入っている作業場。すべて自分で造ったという。ボディの下回りを見る作業のために、潜って作業ができるように、小型ユンボを使って自分で穴を掘り3年かけて造った。ガレージには三輪のミゼットも同居している。

**モーリスマイナーピックアップ
製造開始年／1953年
排気量／1090cc
エンジン／直列4気筒OHV**

モーリス・マイナーのバンのバージョンと共に1953年から73年まで造られたクルマで、ミニのアレック・イシゴニス氏が設計した小型車だ。

①運転席周りは商業車・トラックだけにとてもシンプルな造り。それがなんとも良い味になっている。ダッシュボード真ん中にはモーリスMINIと同じ様な大型丸メーターを装備している。②③エンジンはMINI系と同じ直列の4気筒1090CCを積んでいる。トラックハッチには英国旗とチェッカーフラッグを模して、雰囲気を盛り上げている。

①②特にこのフロント周りの顔と全体のフォルムが気に入っているという。③イベントなどだけではなく、普段の足代わり、そしてロングドライブにも使うので、ウッドパネルの雰囲気は残していてオリジナルのラジオもそのままだ。真冬でも幌上げてエンジン音を聞きながらドライブを楽しむ。

| TRIUMPH TR4 |

風を感じてドライブする喜びを満喫

森 利明さん（無職・64歳）トライアンフ TR4A［ 1965／イギリス ］ TR4A

足代わりにも使える念願のトライアンフ

森さんが免許を取って最初に乗ったクルマは親のカローラ30系だった。その後24歳の時に自分で購入したスバルレオーネをはじめとして国産車を乗り継いできた。しかし子ども時代の趣味だったプラモデルの影響でアメ車や英国車にも、常に憧れを持っていたのだという。そして40歳頃になってオースチンヒーリーや、MGAなどの古いクルマを手に入れ、念願のクラッシックカーを楽しんできた。オープンカーも20年以上乗ってきたが、定年を機に、長年にわたり憧れていたトライアンフを手に入れた。4年前に個人オーナーから譲ってもらい、2年前には長く乗り続けるためにと、フルレストアを敢行。今は安心して一年中、幌を上げて風を感じながらのドライブを楽しんでいる。最近はクラシックカーのイベントに参加したりするが、ロングドライブも欠かさない。「気に入っているのは全体のフォルムとフロントグリル周りがいいですね」と顔がほころぶ。今後は、この車は大事に持つと同時に、セダンタイプの古くて珍しい車を探したいのだそうだ。

Owner's voice

小気味よく走るクルマが好きなのかも知れません

20年前頃、オースチンヒーリーで、クルマ好きの仲間と一緒にレースに参加していました。その経験があってMG、そしてトライアンフなどのドライブフィールにつながっていきました。

トライアンフTR4
製造開始年／1965年
排気量／1991cc
エンジン／直列4気筒OHV

イタリアのジョヴァンニ・ミケロッティによるデザイン。前モデルの寄り目のヘッドライトは受け継いだものの、全く新しいボディを与えられて登場。

①近代的な風景の中でも、歴史を感じる風景の中でもトライアンフのフォルムはよく似合う。②気に入っているフロントグリル周り。普段は足代わりにも使うが、休日は遠乗りしてドライブフィールを楽しんでいる。③シンプルなテールランプと官能的なテールから流れる直線的なボディラインを見ていると時間を忘れてしまうという。④エンジンは1991ccの直列4気筒。4速マニュアルとの組み合わせで小気味よく走る。

「乗って楽しく、見て美しい走るTR4の官能的なフォルム」

ドライブを楽しむ森さん。オープンにして走る気持ち良さを味わう。

NISSAN AUSTIN A40

戦後日本成長の証の貴重な1台

千葉金二さん（無職・87歳） 日産・オースチンA40 ［ 1954／日本 ］

Owner's voice

国産車の進化の過程がこのクルマに現れています

日産が生産するにあたって、日本で手に入れやすいタイヤを考慮して英国本土よりワンサイズ小さな口径のタイヤホイールなど、日本仕様にするための手が入っているんですよ。

①オーナーの千葉さんとオースチンはとてもよく似合っている。②フロントグリルトップに冠されたオースティンマークやオーナメントはイギリス仕様と同じものだ。③運転席周りもイギリス本国と変わらないが、ブレーキやクラッチペダルには日産のマークらしきかたちが。④このショットぷっくりしたリア周りのデザインが今では新鮮だ。

日本がまだ戦後間もない頃、国産のオリジナル自動車の製造が始まる前、各メーカーは英国車やアメリカ車をノックダウンで生産・販売していた。その一環で、日産が英国オースチン社からのノックダウンで生産していたのが日産オースチンだ。このクルマを所有している千葉さんは全日本ダットサン会の相談役という日産のクラッシックカーオーナーの中でも有名人だ。千葉さんがこのクルマを前オーナーから手に入れたのは30年前。ラッキーなことにほぼ新車の状態だったという。それから現在までほぼ当時のままのオリジナルコンディションで大切に所有している。「このフロント周りの愛嬌ある顔が良いでしょう」と千葉さん。わずか2年しか製造されなかった日産製のオースチン。今なお現役で動態保存されている貴重な一台なのだ。

日産・オースチンA40
製造開始年／1953年
排気量／1200cc
エンジン／直列4気筒OHV

当時の価格は112万円。「だるまオースチン」と呼ばれていた。分厚い鉄製の車体やペイントは当時の日本には真似できないクオリティだったという。

| NISSAN CEDRIC ESTATE WAGON |

クルマ遍歴はセドリックと一緒に

椥野大輔さん（団体職員・47歳）日産・セドリックエステートワゴン［1965／日本］

Owner's voice

結局は高校時代から好きだったクルマです

日本車でも当時からフルサイズ系車両にはステーションワゴンがラインナップされていましたが、セダンに比べると数が極端に少なくなかなか現存するクルマにお目にかかれませんでした。

①横目4灯は初代後期型だ。②ハンドルまわりを見るとコラム式の3速ミッションでウッドパネルはオリジナル。懐かしい運転席周りだ。②エンジンは1900ccの直列4気筒を載せている。③後ろ下開きのリアゲートは、当時のアメリカ車ステーションワゴンのようで、その影響を強く受けている。同時期の日本製のバンとは明らかに違う雰囲気だ。

1965年の日産セドリックならセダンタイプでもかなり貴重だが、このワゴンタイプはさらに現残数が少ない。オーナーの椥野さんは、元々同年式のセダンを高校生時代に実家の愛知で見つけ、その威厳あるボディーに憧れたという。「免許を取って、そのクルマのオーナーに交渉して手に入れました」と熱い思いを笑いながら語る。結局そのセダンには20年以上乗り続けた。その後、大分へと移り住んだときにセドリックのクラブ仲間でこのワゴンを持っている旧友から、2年間ほど交渉して譲ってもらった。貴重なクルマであることはもちろん、運転していても楽しいとのこと。パーツが少ないことが悩みだが、大切に乗り続けていきたいそうだ。車体は塗り直しはしたが、当時と同色。ホワイトルーフのツートンは今でもおしゃれだ。

日産セドリックエステートワゴン
製造開始年／1962年
排気量／1900cc
エンジン／直列4気筒OHV

ワゴンは荷室にジャンプシートが設けられて8人乗り。マイナーチェンジでヘッドランプが縦から横並びに変更された。オートクラッチ付きもあった。

1

Owner's voice

今では貴重になっている少し変わったクルマ好き

このクルマを乗る以外には趣味はゴルフくらいしかないですね。ちょっと変わったクルマが好きなので、沖縄変換前に輸出されていた左ハンドルのスバルR2なども実は所有しているんです。

4

3

2

①④現在では考えられない丸パイプのフレームの周りをホロでカバーするだけの構造なので、風も入るし静粛性など無いに等しいものだが、そこがいいという。②360ccながら、車体自体が軽いのでまだまだ十分な走りを見せてくれ、不満はないという。③鉄板プレート剥き出し運転席周り。そのシンプルなデザインがいつまでも飽きさせない。

★★★ No. 06 CLASSIC CAR LIFE

| VAMOS HONDA |

みんなが微笑んでくれる楽しいクルマ

戸枝靖博さん（会社員・57歳） バモス ホンダ ［1971／日本］ Vamos

今大人気の軽自動車SUVの元祖のようなクルマ、それがバモスホンダだ。幌を外せばフルオープンにもなってしまう遊び心満載のクルマとしてホンダが送り出した。オーナーの戸枝さんはハイラックスやシルビア、シボレーなど独身の若者が好むクルマを乗り続けてきたのだが、結婚して子どもができたことで遊びにも使えるクルマとして選んだのがこのバモスだった。家族4人でのドライブなどいろいろな思い出を作ってきた。バモスもまた家族だという。持ち続けている理由は「もう現在ではとても希少なクルマです。街を走れば子どもから大人まで誰もが微笑んでくれるのが嬉しい」とのこと。さすがにパーツの入手が難しくなってきているが、ホンダのN系と共通のパーツも多いので、クラブなど横のつながりでなんとかなっているそうだ。

バモス ホンダ
製造開始年／1970年
排気量／360cc
エンジン／空冷直列2気筒OHC

「TN360」の空冷エンジン、トランスミッション、サスペンション、ブレーキなどを流用してここまでイメージの違う遊び心満載のクルマにした。

1

希少なクルマを持つのは人生を豊かにします

ほとんど言っていいほど同じクルマを見かけないのが良いですね。顔とお尻のキュートさが大好きです。この愛らしさのおかげで「なんていうクルマ？」などよく声をかけられますよ。

4

3

2

①②角ばったボディに角目ライトは当時のデザイナーの試行錯誤のデザインといわれているが日本車にはない愛嬌のあるスタイルは多くの人の目を惹く。③リア周りは、その後のパンダへと続くデザインを彷彿させる雰囲気がある。④タコメーターや電圧計などは新たに装着しているが、エアコンはないので、お約束の扇風機を装備している。

| FIAT126 |

このクルマの魅力は日本車にない愛らしさ

金井基喜さん（団体職員・45歳）フィアット126［1973／イタリア］ FIAT

フィアットの小型車といえば500やPANDAなどを思い浮かべるが、そのちょうど間をつなぐ存在となったのが126だ。それまでの500の丸いボディーから角ばったデザインに変更され、そしてパンダへと続くことになる。フロントライト周りがパンダのような異形ヘッドではなく、規格品のライトだったり、時代の流れの狭間でデザイン的には苦労したモデルだ。オーナーの金井さんは2019年、この車を購入した。FIAT500などに比べるとほとんど見かけないクルマで、その愛嬌のあるスタイルから「どこのクルマですか?」とよく尋ねられるという。「エンジンも非力だけれど、頑張って走るところが逆に愛おしいです」という。現在トラブルもなく、パーツも問題なく手に入るので、これからも末永くのんびり走らせたいそうだ。

フィアット126
製造開始年／1972年
排気量／594cc
エンジン／空冷直列2気筒OHV

フィアット500のメカニズムを流用したクルマ。594cc、652cc、702ccの3種類のエンジンがあった。軽自動車登録が可能なサイズのクルマだ。

SUBARU1000 SPORTS SEDAN

先進メカの塊だったスバルを愛して50年

長澤光治さん（自営業・75歳）スバル1000スポーツセダン［1968／日本］

1

Owner's voice

メカもすごかったが デザインも秀逸だった

スバル1000はフランス車のような合理的なデザインを感じさせてくれるところがよかったね。そこに惚れて、それから50年も乗り続ける理由になったのかも知れないですね。

4

3

2

①ガレージの中でオールドバイクと共に置かれている。②「このエンジン音がいいんだよね～」と、長澤さん。水平対向ならではのエキゾーストノートだ。③ほとんどのメンテナンスは自分で行うという。パーツもずいぶんストックしているそうだ。④砲弾型3連メーターが目を惹く。ハンドルも細くスポーティーな雰囲気に溢れるデザインだ。

スバルが３６０の「てんとう虫」で4輪車デビュー後、普通車クラスとして初めて発売したのがスバル１０００。オーナーの長澤さんはその当時24歳。それまでにマツダ３６０を始め、ダットサン、ヒルマンなど数台のクルマを乗り継ぎ、初めて新車で購入したのがこのスバル１０００だった。水平対向エンジンとFF車だったことも惹かれた点だった。「とにかく水平対向のエンジンの音がいいし、インボードブレーキなど先進技術が詰まっていた」と感じたという。その後、様々なスバル車が出たが、結局はこのクルマに50年も乗り続けてしまった。最近は部品などで苦労することはあるが、クルマ自体には不満は全くないという。50年前の大阪万博にこのクルマで行ったので、２０２５年の大阪万博にも同じくこのクルマで行くことを楽しみにしている。

スバル1000スポーツセダン
製造開始年／1967年
排気量／1000cc
エンジン／水平対向4気筒OHV

富士重工が当時としては画期的なFFや4輪独立のサスペンションを採用したモデル。スバル1000のエンジンをチューンしたのがスポーツセダンだ。

| MITSUBISHI DEBONAIR A31 |

アメ車の匂いがするクルマに乗り続ける

坂元陽一郎さん(自営業・44歳) 三菱デボネアA31 [1973/日本]

1

Owner's voice

デボネアから膨らむ カーマニアの夢と希望

部品取りを含め同型車を3台持っています。その内1台のエンジンを下ろして、電気自動車にすることを計画中です。三菱自動車本社にある充電器で充電することを目指しているんです。

4

3

2

①②今は希少な直線的デザイン。特にフロントマスクのデザインがインパラを彷彿とさせて、そこが気に入り夢中になってしまったと言う。③L型テールはデボネアの中でもこの機種だけで、特に気に入っているフォルムだ。④元来高級車だけに静粛性や乗り心地は文句のつけようがないくらい最高。車内もアメ車に引けを取らないくらいの広さだ。

建築業を営む坂元さんは若い頃からロカビリーが大好きだった。となるとやはりクルマはアメ車となるのが必然。ところがシボレーインパラと同じ匂いのする三菱のデボネアに目が奪われ、10数年前から探し続け、ようやく7年前に見つけたのがこのクルマだ。「フロンとマスクや、L型テールランプがインパラを感じるんです」という。販売台数も少ないので部品の調達には苦労するが、現在部品取り用のクルマを3台所有し、常にメンテナンスをしながら乗り続けているという。このクルマを乗り続けて良かったことはイベントなどに参加して、年上の友人が多く出来て情報を得られた事だと話す。そうして知り合ったつながりを通して、同じくデボネアのパーツや修理に苦労しているオーナーのためにも専門のお店を開きたいと考えているのだそうだ。

三菱デボネアA31
製造開始年/1964年
排気量/2000cc
エンジン/直列6気筒OHV

1964年から86年までの22年間生産され続けた長寿命車。1960年代のアメリカ車の雰囲気を感じる。実は小型車扱いの5ナンバー規格に収まる。

| Morgan 3-Wheeler |

まるでバイクのような走行性と爽快感

田島保夫さん（塗装業・73歳） モーガン 3ホイラー ［ 1933／イギリス ］

バイクから3輪まで風を感じて乗ってきた

埼玉県で塗装業を営む田島さん。工場の傍の2段式のパーキングには、上段にホンダNSX（2002年）、下段にはエンジンがむき出し状態で装着されているモーガンの3ホイラーが鎮座している。工場横の倉庫にはクラシカルなレース仕様のバイクがたくさんある。バイクのレースに長年参加されていた田島さんは「これらは私の歴史、人生の一部分みたいなものですよ」と話す。

16歳で軽免許を取得し、バイクと共にクルマ歴は愛知工業の360CCのKONYから始まり、トヨタ800、日産スカイラインGTA、ブルーバードSSSなどを乗り継ぎ、ロータスエラン、ジャガーEーtypeなども手に入れた。そして到達したのが、5年前にオープンエアーが楽しめる3輪のクラッシックカー、モーガンなのだ。「バイクに近いクルマで小さなウインドスクリーンに流れる景色が楽しみです」と言う。ただ90年近く前の車だけに、日本の車検を通すのも大変だったという。もちろんパーツも苦労の種で、現在も右のシリンダーを探している。

Owner's voice

バイクとモーガンは大きな共通項があります

何より、囲われたクルマにはない爽快感を感じられるので、このクルマを探したんですよ。根はバイク好きなんでしょうね。スポーティーに風を感じて走ることは譲れないんですよ。

モーガン 3ホイラー
製造開始年／1932年
排気量／1000cc
エンジン／V形2気筒OHV

モーガンは3ホイラーの製作・販売で始まった自動車メーカー。この車の成功が今につながっている。当時はバイクのエンジンが載せられていた。

①2段式駐車場に鎮座するモーガン。②現在、モーガンより発売されている新車で買える3ホイーラーではなく90年前のオリジナル車両。③今でも元気に走ってくれる。ジェットヘルメットにゴーグルというスタイルはこの車がバイクに近いということの証なのだ。前2輪後ろ1輪というレイアウトは、現在の最新3輪カーにも踏襲され、いわゆるトライクなどよりも安定したコーナーリングを実現させた。④古いクルマの話を始めると、どうしても流れはトーハツ時代のバイクのレースに繋がってしまうという田島さん。

①エンジンがフロントグリルよりも前に装着されているド迫力マシン。②当時はバイクのエンジンを搭載することが多かったようで、マチレスの水冷1000ccVTwinサイドバルブが装着されている。③まだシンクロもつかないギアーはハンドチェンジ、回転を合わせるのにコツがいる。④後ろは1輪になっている。

子ども時代の憧れを50代になった今、実現できた喜びを感じている。

| DATSUN BLUEBIRD |

思い出に残るクルマに乗る醍醐味

石川和男さん（会社員・57歳）ダットサンブルーバード［1963／日本］

子どもの頃の思い出を今に蘇らせるクルマ

最近海外で人気の日本のパイクカーと呼ばれるクルマがある。いわゆるレトロな雰囲気が漂う旧車を現在の技術で蘇らせたモデルで、特に欧米で人気なのが日産フィガロだ。そのフィガロのデザインのモチーフになったのが、石川さんの所有する1963年式ダットサンブルーバードだ。デザインのコンセプトは英国車を踏襲したもので、スクエアの中にも各所に丸みを持たせた柔らかさが特徴だ。今見てもデザインは素晴らしいの一言に尽きる。当時のままの淡いブルーと白のツートーン塗装も美しい。全日本ダットサン会副会長の石川さんは「子どもの頃実家で乗っていた同年式のブルーバードワゴンの思い出が鮮明で、18歳で免許を取得した時からブルーバードファンです」と語る。H510ブルーバードを手始めに途中色々浮気はあったが、88年には71年式を購入、そして6年前、念願の63年式310ブルーバードを手に入れたのだ。部品の入手には苦労するが、デザイン、乗り味、経済性、耐久性、そして憧れを満たしたこのクルマに石川さんはぞっこんだ。

①やっぱり、昭和の香りのする街並みにはとても似合う310ブルーバード。映画などにも何度か借り出されたそうだ。②縦型テールとツートン塗装がいい。③ダットサンロゴの入るラジオや時計がそのまま残るのがとても貴重だ。④エンジンは1200cc4気筒、今でも快調である。

①オースチンなどを生産していた日産だからか当時のヨーロッパ車のデザインを引き継いだところが各所に現れている。②当時このカラーリングのままよくタクシーなどにも使われていた。③室内も外装と同じツートーンを採用している点がおしゃれだ。④自分で最初に手に入れたH510と子供時代からの憧れの310の2台が並ぶ、夢を実現したガレージだ。

ダットサンブルーバード
製造開始年／1959年
排気量／1000cc、1200cc
エンジン／直列4気筒OHV

エンジンは先代のダットサン・セダン210型・988ccのものを使用。オースチンのエンジンをベースにしていた。初代は20万台以上売れた人気車。

Owner's voice

思い出とクルマは美しくなければならない

クルマへの憧れからか建設機械／産業車両メーカーで働きました。趣味の延長で今では全国ダットサン会の副会長をしています。イベントでも何度か優勝したことがあります。

①1964年頃ともなると、国産車の品質基準は、ほぼ世界基準になったといわれている。②フロントの重厚感がいい。③細く白いハンドル。コラムシフトは4速マニュアルとなる。④エンジンは1500cc水冷4気筒を採用。⑤メータ周りも時代を物語っている。

No. 12 CLASSIC CAR LIFE

| HILLMAN MINX |

乗り続けてわかる旧車の魅力と楽しみ

武石渉さん(会社員・54歳) ヒルマンミンクス [1964/日本]

ヨーロッパフォードから始まったクルマ遍歴

戦後日本の自動車メーカーは、一時期自社製造が難しく、外国車のノックダウン(現地組み立て)でクルマを製造していた。その時代にいすゞ自動車がイギリスルーツ社からライセンスを受けて製造していたのがこのヒルマンミンクスだ。オーナーの武石さんは18歳で運転免許を取得した時、ひょんなことから、その当時でも珍しかったヨーロッパフォードの小型車、プリフェクトを親戚より譲り受けて乗り始めることになる。それがきっかけで、その後フォードポピュラーなど英国車を乗り継ぐことになった。一時期はアメリカ車への傾倒もあったが、31年前このヒルマンミンクスに出会うことになる。「購入した時点では特別な思いを持って手に入れたわけではなく、足として必要だっただけだったんです」と武石さん。

手に入れて2週間目には北海道旅行に利用して、乗り心地、操作性、そしてデザインなど大変気に入ったそうだ。「乗っていて楽しいですね」と武石氏、現在も自分で色々手を入れて、普段の足として走らせているそうだ。

①②③当時のヨーロッパ車とアメリカ車のデザインが融合されたようなクルマの造り。この流れは、当時の国産メーカーのクルマ造りにもかなり影響があったようだ。前後とも5ナンバーの割には重厚感はある。④⑤整備などはなるべく自分でというのが武石さんのポリシー。メンテナンスしやすいように自作でLEDの作業ライトを製作したりしている。

ヒルマンミンクス
製造開始年／1956年
排気量／1500cc
エンジン／直列4気筒OHV

いすゞ自動車がルーツ自動車とノックダウン方式で製造していたクルマ。その後に出たベレットが登場しても人気は衰えず1964年まで製造された。

Owner's voice

足として使えるクルマとして入手

自分らしくないクルマには乗りたくないですよね。このクルマはかなり気に入っており、長くにりたいんですよね。最初に乗ったフォードプリフェクトはもう一度手に入れてみたいですね。

No. 13 CLASSIC CAR LIFE

| GINETTA G4 |

60年代のレーシングカーに憧れて

坂根忠己さん（TV通販プロデューサー・53歳） ジネッタG4［1997／イギリス］

Owner's voice

夢を叶えたくるまに長く乗っていたい

とにかくヨーロッパのレースカーに乗りたかったんですよ。それもクラッシックカーフォルムをした。その夢を叶えたのがこのクルマです。いつまでも長く付き合っていくつもりです。

①スタイルはまさに60年代のレーシングカー。②60年代当時のコクピットをそのまま再現しているので、狭いがホールド感は抜群、操作系も昔のままなので大変だが楽しんでいるという。③古くはロータスなどにも使われるKENT社の1750ccエンジンは5速ミッションと組み合わせだ。④自宅近くの欧州車専門店にて長年面倒を見てもらっている。

イギリスのオークレット兄弟が1957年に競技用のカスタムマシンとして製作し、その後現在まで復刻車や新型車などが生産し続けているジネッタ。紹介するのは1961年にオリジナルが製作されたG4モデルで1997年に復刻されたクルマだ。オーナーは通販番組などのプロデュースを手がける坂根さん。「クラシックカーに興味を持ったのは30歳を迎える前だったと思います。ベンツやボルボなど欧州車を乗り始めてからですね」。クラシックなレースカーに乗りたいという希望を持って探し始めるが、文化財クラスの値段は当たり前。そこで30歳になって見つけたのが61年ジネッタの97年版だった。それから23年、以前はレースにも参戦していたが、今はクラシックカーイベントを中心にこのジネッタG4とのドライブを楽しんでいる。

ジネッタG4（オリジナル）
製造開始年／1961年
排気量／1000cc
エンジン／直列4気筒OHV

当時のヨーロッパ車に多く使われていたフォード105Eエンジンを使用。1968年に生産停止となったが、様々なフォードエンジンを積んだモデルがあった。

| CHEVROLET CORVETTE C3 |

映画の影響で手に入れたマッスルカー

新井洋一さん（会社員・54歳）シボレー コルベットC3［1968／アメリカ］

1

Owner's voice

人生最後まで つきあえるクルマ

このクルマはアメリカで船に積み込んだ時から、船の現在位置を毎日確認するほど楽しみにしていたんです。人生最後まで付き合えるクルマとしてこの3代目コルベットを選びました。

4

3

2

①エンジンはビッグブロック。427と呼ばれる6997cc・435hpを誇った。③運転席は、ボディーカラーに合わせてブルーレザーで統一。ホールドの良さは、まさにアメリカンスポーツカーのそれだ。④コルベットの後に続く「スティングレー」が付くのは1963年から76年まで。2代目では"Sting Ray"で3代目では"Stingray"となる。

アメ車の中でのスポーツカーといえば、ほとんどの人が思い浮かべるであろうクルマがこのコルベット。1953年に初代が産声を上げ、現在は8代目が2019年発表されている。所有するのは68年の3代目シボレーコルベットだ。オーナーの新井さんは、子どもの頃見たアメリカ映画「バニシングin60」や「トランザム7000」の影響を受け、18歳で免許を取得すると真っ先にアメ車を探し、20歳でファイヤーバードトランザムを購入。その後、仕事の関係でアメリカに駐在する機会も得て、当然アメ車生活が続いていき、2006年には、C5コルベットも日本に持ち帰るまでに心酔してしまった。そして2年前に新たにC3コルベットをアメリカで見つけ輸入。「気に入っているのはボディデザインとエンジンパワーです」。それが現在の愛車だ。

シボレー コルベットC3
製造開始年／1968年
排気量／7000cc
エンジン／V形8気筒OHV

シボレー・コルベットとしては3代目。68年式は唯一「スティングレー」のバッジが付いていないが、当時のカタログには"Stingray"と記載がある。

Owner's voice

偶然見つけたこのクルマとの縁

若い頃に散々乗り回していたクルマだから青春はコンテッサと共にかな。それもあってこの3台目を見つけた時には埃はかかっていたし、不動車ではあったけれど嬉しかったね。

①コンテッサ愛が半端じゃない粕川さん。②シルバーパネルのダッシュボードもウッドステアリングもストックのまま。60年の年月を感じさせない。③Sモデルは同時に販売されたクーペと同じ1300cc・65馬力仕様、4速トランスミッションを採用。④特徴があるのでリアスタイルを愛するファンも多く、フロント好きと人気を二分している。

HINO CONTESSA 1300

偶然の出合いを大事に持ち続ける

粕川真澄さん（自営業・62歳）日野コンテッサ1300［1967／日本］

若い頃から日野コンテッサ一辺倒の筋金入りの粕川さん。最初の2台はクーペと4ドアのSだった。当時は色々とカスタムしたり、エンジンを他社製に載せ変えたりしていたそうだ。写真のクルマは3台目。これは「25年前に知り合いの納屋で20年以上眠っていたコンテッサを見つけて譲り受けました」。ワンオーナーで、新車で数年乗っただけで走行距離も1万6千㎞しか走っていなかったそうだ。その後ゆっくりレストアして2年前に完成。現在はもう一台所有のトヨタパブリカ800と共に大事に乗っていきたいとのこと。コンテッサについては「なんといってもスタイル。特にフロントマスクが気に入っています」。クラシックカーオーナー共通の悩みだが、部品の入手にやはり苦労しているので、そのために部品取り車をキープしたとのことだ。

日野コンテッサ1300
製造開始年／1964年
排気量／1300cc
エンジン／直列4気筒OHV

4ドアセダンとして「コンテッサ1300」が発売されたのが1964年。ジョバンニ・ミケロッティデザインで、イタリアのコンクール・デレガンスで複数回受賞。

1

Owner's voice

3台の古い軽自動車の調子を保つのが大変

所有している3台の古い軽自動車のコンディションを保つために、ローテーションしています。このキャロルでは広島のマツダ本社で開かれたキャロル集合のイベントにも自走しました。

4

3

2

①マツダの初代軽自動車のR360が2人乗りだったが、このクルマは完全4人乗車が可能になった。②スチールパネルに一眼メーターはシンプルだが、美しい状態でレストアされている。レースのシートカバーもおしゃれだ。③マツダのマークと共にキャロルのエンブレムが素敵だ。④リアウインドウを垂直に立てたクリフカットスタイル。

No. 16 CLASSIC CAR LIFE

| MAZDA CAROL |

現代にない愛らしいスタイルに惚れて

布施 章さん（自営業・54歳） マツダキャロル360 ［ 1966／日本 ］

昭和30年代後半から40年代、先発の大会社トヨタ、日産以外のメーカーはまず軽自動車の個性豊かなモデルを発売していた。そんな中、大ヒット中のスバル360に対抗して、マツダ（東洋工業）が送り出したのが、完全4人乗りのキャロルだった。オーナーの布施さんが、このクルマを手に入れたのは31年前。マツダの初代軽のR360や、ダイハツフェロー、ハイゼットキャブなど「昭和40年代の軽の大ファンなのでそれらを現在でも保有していいます」。キャロルに関しては、後輪駆動ながら4気筒水冷4サイクルエンジンを採用するなど、先進的なところがとても気にいっているという。このクルマをコツコツと修理している時がいちばんの楽しみだという。パーツの入手に苦労するところも今は逆に探す楽しみになっていると笑う。

マツダキャロル360
製造年／1962年
排気量／358cc
エンジン／直列4気筒OHV

R360クーペの空冷V型2気筒エンジンが今ひとつ人気が出なかった。これに代わり1961年の東京モーターショーで「マツダ700」として発表された。

No. 17 CLASSIC CAR LIFE

| FORD F100 |

カリフォルニアのビーチによく似合う

山本信一さん（無職・69歳） フォードF100 ［ 1956／アメリカ ］

Owner's voice

今から乗りたいクルマは VWのタイプ3かな

もうリタイヤしたので、クルマもあんまりいじらなくなりましたが、日本で20歳の頃初めて乗ったVWタイプ3にはまた乗ってみたい気もするんですよ。こちらにはたくさんありますから。

①②この車はカリフォルニアのビーチが似合う。後ろの荷台にサーフボードでも立て掛ければ最高だ。③メーター周り、ダッシュボードなどはこれまでも色々カスタムしている。多くのカスタムパーツが販売されていることもアメリカならでは。④ボディの色は購入した時からそのまま。結構やつれてきているが、そこがまた良いのだという。

オーナーの山本さんは「私たちの年代はアメリカに憧れた世代なんですよ」と言う。憧れのまま、22歳の時にはカナダへ。そしてその後、渡米を決意。そのためには何か手に職をつけなければと、カナダにいる間に造園業などで修行して79年に渡米。そのアメリカでは当時大流行りのワーゲンビートルや、ＶＷバスなどを乗り継ぎ、30年前に海岸沿を走るＦ１００の姿にひと目惚れ。オリジナルモデルを＄２４００で購入した。それから現在まで乗り続けている。その後、エンジンをオリジナルからシボレー３５０（５・７ℓ）に載せ換え、ムスタングのブレーキや、カマロの足回りに換装。パワステも装着している。仕事はリタイヤしているので「あと5年はこの車に乗りたいよね」。古い外観とは裏腹に、メーターをデジタルに交換していきたいそうだ。

フォードF100
製造開始年／1953年
排気量／5700cc（換装）
エンジン／直列6気筒OHV

アメリカでは、今でも元気で走り回っていて、アチコチで目にするFシリーズ。100、110、250、260、350、360、500、900がラインナップされていた。

No. 18
CLASSIC CAR LIFE

| Datsan 240Z |

ポテンシャルの高さを維持する楽しみ

Sinzo Ishiiさん（メカニック・62歳）ダットサン240Z［1970／日本］

1

Owner's voice

今から乗りたいクルマは無いほど気に入っている

現在は、古い車の修理をしてくれるところが減りました。キャブレター車の微妙な調整をできる人もいないからか、そんな修理ばかりがやっていて、クルマに乗る暇がありません（笑）。

4

3

2

①②この車でレースに出ていたこともあるので、内張が外されたレース仕様のままの運転席周り。ミッション周りの断熱もレース使用のまま。③エンジンはL24からL28に換装し、3.1ℓまでボアアップして、レース仕様となっている。④アメリカでは珍しいマニュアルミッション。小気味よく決まるシフトでメリハリのある運転を楽しんでいる。

アメリカで「SINZO AUTO」を営んでいる石井さん。日本での実家の仕事がガソリンスタンドで、そこで覚えたのが車の修理技術。21歳の時にアメリカを旅行し、偶然その技術を現地で披露することになった。その時にできた友人から「シンゾーは車を修理できるんだからアメリカで働いたらいい」という誘いに乗り、82年、本格的に渡米。日系の修理工場で働きながら腕を磨き、その後独立してシンゾーオートを営むことになった。「うちは基本普通の町の修理屋なんです」。しかし当時レースで大人気だった240Zをいじり始め、お客さんがその噂を聞き集まるようになったそうだ。もちろん石井さんもZにはまり、グッドコンディションの69年を乗り回している。「日本でサンダーバードの乗っていたんで、アメ車も好きなんだけれどね」。

ダットサン240Z
製造開始年／1969年
排気量／2400cc
エンジン／直列6気筒SOHC

1969年に先代モデルであるオープンのフェアレディ次のモデルとして発売された。高額なスポーツカーと同等以上のスペックとスタイル大ヒットした。

1

Owner's voice

**オリジナルよりも
自分の好みに仕上げる**

オリジナルにこだわりません。オレンジカラーは塗りかえました。レースにも出ていたのでエンブレムなど余計なものは全部外しているので、どこのクルマか分からない人もいます。

4

3

2

①今見てもかっこいいデザイン。②ルノーの香りを残すウッドパネルが美しい運転席周り。左右対象のラウンドダッシュボードがいい。③この2代目コンテッサから自社エンジンを積んでいる。1251cc直列4気筒エンジンだ。④RR駆動なのでリアのエアスリットが印象的なデザインだ。篠塚さんはこの後ろ姿に惚れて45年も乗り続けている。

★★★ No. 19 CLASSIC CAR LIFE

| HINO CONTESSA COUPE |

抜群のリアスタイル、そこに惚れて

篠塚 淳さん（無職・76歳）日野コンテッサクーペ1300 [1966／日本]

現在ではトラックメーカーとして知られている日野自動車も、昔は乗用車を製造していた。それが１９６１年から67年まで製造されたコンテッサだ。ルノーとの提携で４ＣＶなどを製造していた日野が満を侍して自社開発したのがコンテッサ１３００だ。デザインはジョバンニ・ミケロッテイ。自社開発のエンジンを乗せて64年から発売された。篠塚さんのクルマは45年前に氏が勤めていた自動車販売店に入ったものを購入。決め手はそのバックスタイルだったという。その後、この車で日本全国の旅を楽しんだり、レースにも参加したりしてコンテッサライフを楽しんだ。「整備も全て自分で行い、運転し続けることが、これまで快調に動いてきたことにつながっています」と篠塚さん。これからも、このコンディションを維持して持ち続けたいと語る。

日野コンテッサクーペ1300
製造開始年／1961年
排気量／900〜1300cc
エンジン／直列4気筒OHV

1965年に2ドアのクーペが発売。エンジンの出力を65psにアップして、最高速度は145km/hとなっていた。スタイルの美しさは、評判だった。

1

Owner's voice

**オリジナルでも
毎日乗れる快適さです**

酒蔵の5代目を継いで25年。クルマ以外では音楽と酒をこよなく愛しています。子供の頃からの夢は生産台数たった68台のジャガーDタイプなんです。金銭的に夢のままでしょうけど…。

4

3

2

①②創業明治元年という歴史のある造り酒屋。建物も、蔵も昔から変わっていないという。③大柄で、対米輸出も行われたモデルだけにゆったりと乗れるおおらかさがある。④オートマチックシフト、4ドア、そしてクーラーが標準装備の最もかっこいいクルマを探したらこのジャガーになったという。しかしクーラーの効きはイマイチだそう。

No. 20
CLASSIC CAR LIFE

JAGUAR XJ6

使ううちに出る“やつれ感”を大切にする

磯貴太さん（造り酒屋・47歳）ジャガーXJ6［1972／イギリス］ JAGUAR

茨城県の笠間市で、稲田石と呼ばれる花崗岩の岩盤から滲み出る水で、明治元年から日本酒を造り続ける酒蔵の5代目の磯さん。子どもの頃から古い車に興味を持ち、22歳の時に初めて買った車はヒーレー・スプライト。モーリス・マイナー、ポルシェ356、BMW2002と乗り継いで、4年前にこのジャガーを手に入れたとのこと。ちなみにヒーレーは今も所有している。歴史のある造り酒屋の倉庫には、最初に乗ったヒーレーから、カワサキZ1、W3など若い頃から乗っているバイクもいつでも乗れる状態で保管されている。このジャガーはオリジナルのノンレストア。使っているうちにやれてくるのが良いという。「別に英国車にこだわっている訳ではないんですけれど、自分の好みに正直にしていたらこうなったんです」と笑う。

ジャガーXJ6
製造開始年／1968年
排気量／4200cc
エンジン／直列6気筒DOHC

直列6気筒DOHCのエンジンは2800ccと4200ccの2種類が用意されていた。トランスミッションは3速のオートマチックと4速のマニュアルがあった。

★★★
No. 21
CLASSIC CAR LIFE

NISSAN SUUNY 110GX

サニークーペにぞっこん。もう1台を

大村誠市郎さん(自営業・58歳) サニー110GX [1970／日本] Sunny coupe GX

Owner's voice

趣味はサニーです いつまでも乗りたい

クルマ以外の趣味はないですね。サニーの他にも古いクラウンとホンダライフも持っているので、それらを交互に乗ってイベントに参加して、いろいろ情報を得ることが現在の楽しみかな。

①ピカピカの2台のサニー②黒で統一された車内にはレーシーな3連メーターなどはストックのまま。ハンドル中央のGXマークが美しい。③エンジンは専門店でしっかりレストアしてもらった。A12・4気筒エンジンは快調だ。④クーペスタイルはやっぱりリアビューがいい。でも遠乗したときにマフラーが落ちたり、ドアが壊れたりの経験も。

1970年のサニーのオーナー・大村さん宅のガレージに、ピカピカに磨かれた赤と白のクルマが並べられていた。中学生の頃、母親がこのサニーのセダンに乗っていたので、その時の影響か「高校を卒業して東京に出てきた時、最初に買ったクルマがこのサニークーペGXだったんですよ」。その後はフロンテクーペ、117クーペ、ケンメリのスカイラインと乗り継いできたが、10年前に再度サニーを手に入れたそうだ。「とにかく軽くて、速くてガソリンも喰わないところが気に入っています」とのこと。古い車だけにパーツの心配もあるので、現在約5～6台分の部品はストックしているという。しかし年式が古いと税金が高いのが悩みだとか。それでももう1台同じB110のラインアップにあったサニーの2ドアセダンを手に入れたいそうだ。

サニー110GX
製造開始年／1970年
排気量／1200cc
エンジン／直列4気筒OHV

「プラス100の余裕」で登場したカローラ。その後「隣の車が小さく見えま～す」で1200ccのサニーを発売。CS戦争が高度成長期をリードした。

| CONY 360 |

昭和を支えてきた小さなピックアップ

杉浦年春さん（自営業・70歳） コニー360 [1965／日本] CONY

1

Owner's voice

数少なくなった希少車を乗れる状態で持ち続ける

若い時から乗ってきたバイクとクルマを数えると100台以上になりますね。コニーはイベントへの参加が主ですが、珍しくなったこのクルマを大事に整備して、長く楽んでいくつもりです。

4

3

2

①昭和のような風景には似合っている。②外装業を生業にしているのでガレージは全部自分で完成させてしまった。友人のクルマもいじってあげている③計器周りもシンプルそのもの。水平対向360ccエンジンは、シート下に収まるいわゆるミッドシップカーだ。④小さな荷台にカバーを掛けて、いかにも現役で活躍している雰囲気を出している。

16歳で軽免許をとって「最初に乗ったのはマツダのB360でした」と杉浦さん。当時は16歳で軽自動車の免許が取れたのだ。その後ホンダT360に乗り換えて、仕事を終えたあとによくナイトドライブに行っていたとのこと。16年前にN360を手に入れてから、若い頃に乗っていた古いクルマに興味が湧いてきて、10年前にホンダS800、そしてトヨタS800を手に入れた。自動車部品メーカー・愛知機械工業が製造したコニーは4年前に旧車愛好会の知人から譲ってもらった。現在ではとても珍しいクルマなので大事にしているという。バイクも好きで、自分で造ったガレージにCB92、93など旧車バイクもずらり並んでいる。もし新たに手に入れるとすれば最初に乗ったB360など「小型や軽自動車のピックアップかな」と杉浦さん。

コニー
製造開始年／1962年
排気量／360cc
エンジン／水平対向2気筒OHV

1962年から1970年までの間、愛知機械工業が製造販売していた軽のピックアップトラック。ライトバンもあった。同社は65年に日産自動車と業務提携。

愛され続けて50年
トミカのクラシックカー大集合

販売開始から今年2020年で50周年を迎えたトミカのミニカー。ここでは数あるトミカシリーズの中から、旧車ラインアップが豊富なトミカリミテッドヴィンテージをピックアップ。戦後からバブルまでの日本の街を彩った、国産車のトミカが大集合!

TOMICA LIMITED VINTAGE

トミカリミテッド ヴィンテージとは?

「もしも、トミカが昭和30年代に誕生していたら……。」をテーマに、新規金型で製作された対象年齢15歳以上の大人向けディスプレイ専用1/64スケールモデル(販売元:トミーテック)。

CAR MODEL 1950s

日本最初の国民的大衆車
スバル360
LV-173b 2530円 スバル 1958年

1958年に誕生し、1970年までの12年間に約39万2000台が生産された初の本格的軽乗用車。独特なヘッドライト形状の初期型は「デメキン」と呼ばれ親しまれた。

6人乗りの国産高級セダン
プリンス スカイラインデラックス
LV-46a 1320円 プリンス自動車 1957年

現在も続くスカイラインシリーズの記念すべき初代モデル。当時人気の高かったクラウンの対抗馬として発売された。ヘッドライトには国産初のシールドビームを採用。

日本初のオートマチック車
トヨペット マスターライン
LV-90b 1430円 トヨタ自動車 1959年

車体の多くやフレームなどをS20系クラウンと共通化することで、乗用車並みの居住性を確保した商用車。前半分はクラウンとほぼ同じ外観だった。日本初のオートマチック車が設定されたことでも知られる。

初代クラウンの後期型
トヨペットクラウン1500 スタンダード
LV-24a 1078円 トヨタ自動車 1958年

デビューから3年後の1958年に初のマイナーチェンジが行われた、クラウンのRS20型。エクステリアの大規模な意匠変更を実施し、オーバードライブ機構も採用された。

可愛らしい雰囲気で親しまれた
レオバン
LV-60a 1078円 三菱自動車 1959年

ベンチシート下にエンジンを置くことで広い荷台を確保した軽三輪「ペットレオ」をベースにしたバンモデル。軽オート三輪の中でも最速の約74km/hを誇った。

大村崑の生CMで不動の人気に
ミゼット
LV-143c 1980円 ダイハツ工業 1959年

大ヒット軽自動車規格三輪自動車。「ナショナルのお店」など様々な企業にも使われた。写真のベース車はサイドドア付きキャビンを採用した1959年製バーハンドル型。

戦後初の本格的純国産乗用車
トヨペット クラウン
LV-147a 1870円 トヨタ自動車 1955年

1955年1月に発表された、戦後初の本格的純国産乗用車・初代クラウンの初期型モデル。後部座席が乗り降りしやすい観音開きのドアが特徴。公称最高速度は100km/h。

誕生50周年を迎えた男の子の定番おもちゃ「トミカ」

トミー(現・タカラトミー)の二代目社長・富山允就(まさなり)氏の「国産車のダイキャスト製ミニカーを作りたい」という強い思いから生まれたトミカ。戦後の昭和30年代、それまでの日本で流通していたダイキャスト製ミニカーは海外製の外国車ばかりで、允就氏が「なんとか国産車を」と夢見たのは至極当然のことだった。だがバリを出さなければキレイに仕上がらないという常識があり、それにヤスリをかけて品物にする製法では安価な玩具は作れなかったという。転機は昭和40年頃。海外製品の製造工程を見学するチャンスを得た允就氏は、そのノウハウを活用した定価180円(当時)のダイキャスト製ミニカーを発売した。製品名は「トミー」の「カー」だから「トミカ」。昭和45年のことだった。今年は発売開始からちょうど半世紀の50年。これまでの累計販売個数は6億7000万台を超え、繋げると地球1.3周分の長さに。

1970年に発売した初代トミカ6車種を、現在のトミカに合わせた仕様・金型で再現したトミカ発売50周年コレクションモデル。左からブルーバードSSSクーペ、コロナマークⅡ ハードトップ、クラウン スーパーデラックス、クラウン パトロールカー、トヨタ2000GT、フェアレディZ 432(各770円、販売元:タカラトミー)。

CAR MODEL
1960s

ヨーロピアンスタイルで人気に
ルーチェ ロータリークーペ
LV-22a　1078円　マツダ　1969年

ベルトーネデザインの2ドアハードトップクーペ。「ハイウェイの貴公子」と称されたヨーロピアンスタイルが特徴的で、発売前年の東京モーターショーでも人気を博した。

第2回日本グランプリを制覇
プリンス スカイライン
LV-07a　1078円　プリンス自動車　1963年

1963年に発売された2代目スカイライン。第2回日本グランプリではT-Vクラスの1～6位は、全て同車が制覇した。のちに開発された2000GTのベース車としても有名。

巨匠ジウジアーロの傑作
117クーペ
LV-145a　1760円　いすゞ自動車　1968年

ボディ製造に手作り工程が多く、「ハンドメイド」と呼ばれ珍重される初期型モデル。ジウジアーロの傑作ともいわれるデザインは、半世紀が経った今でも評価されている。

国産コンパクトカーの元祖
パブリカ
LV-08a　1078円　トヨタ自動車　1961年

1961年6月発売の大衆車。レースにも参戦し、第1回日本グランプリではクラス優勝を飾った。応募総数108万通の公募で付けられた車名は「パブリック・カー」の合成語。

タクシーにも使われたセダン
ダットサン ブルーバード1200
LV-05a　1078円　日産自動車　1961年

日本の代表的なミドルセダンとして親しまれたブルーバードの初期型。ブルーバードとコロナの販売競争は「BC戦争」と呼ばれた。1961年モデルではフルシンクロメッシュ方式の3段トランスミッションを採用。

人気の高級ファミリーカー
スバル1000 2ドアセダン
LV-76b　1320円　スバル　1968年

サイドウインカーが付いた1968年以降のモデル。ドア幅が1053㎜と当時の国産同クラスの2ドア車では最大で後部座席への乗り降りしやすく、さらに大人5人がゆったりと乗れる車内の広さで高い人気を誇った。

未来的プロポーションが美しい
コスモスポーツ
LV-169a　2860円　マツダ　1967年

マツダが生み出した代表作のひとつ。実用車として世界初の量産ロータリーエンジンを搭載。全日本自動車ショウの会場に、当時のマツダ社長が乗りつけた逸話は有名。

スズキ軽デザインの原点的一台
フロンテSS
LV-157b　1980円　スズキ　1969年

軽自動車として当時最高の36馬力を発揮し、速さと運転の痛快さで走りにこだわる人に人気に。フロントグリルの形状がマイナーチェンジした後の1969年式を再現。

日本の大衆車の代名詞
サニー1000 2ドアセダンDX
LV-83c　2200円　日産自動車　1966年

大衆車時代の主役であり、乗用車の域を超えて「もうひとりの家族」として愛されたサニー1000の初期型モデル。カローラとの販売競争は「CS戦争」と呼ばれた。

先進的なメカニズムが話題に
ベレット 1600GTR
LV-150c　2530円　いすゞ自動車　1969年

「日本初のGT」の座をスカイラインと争った名車。「ベレG」の愛称で親しまれ、数々の名曲にも歌われた。4輪独立サスペンションなど先進的メカニズムも話題に。

開発者が語るトミカリミテッド ヴィンテージ（TLV）の魅力

実車の魅力を再現すべく軟質タイヤや金属製シャーシなどを採用し、彫刻類、彩色なども限界に近い精度で作り込んでいます。1970年のトミカ誕生以前の車種をTLV、以降の車種をTLV-NEOとしてシリーズ展開し、歴史的名車はもちろん、いつしか街から消えた車も多数モデル化しています。メーカーや年代ごと、家にあった車など、いろいろな形で心に残る車のコレクションを楽しめるのが魅力だと思います。

縮尺はトミカの標準に近い1/64で統一（一部除く）。乗用車は概ね全長7㎝前後ですが、軽自動車は5㎝程度、大型トレーラーなどは20㎝以上のものもあり、車両運搬車などは実車の迫力が味わえます。市販ケースで飾る方が多いですが、入れずに飾る場合はホコリを払う際の細かい部品の破損に注意が必要です。保管や移動時も、ティッシュなどを巻くと塗装やタイヤに悪影響が出やすいので要注意です。

トミカから実車に興味を持ってほしい

株式会社トミーテック
各製品及び弊社企画担当
圓道 智さん

トミーテックのクオリティを具現化するために、日々実車を熟知することに努めている圓道さん。この情熱が商品となっている。

※トミカリミテッド ヴィンテージは初回生産のみですので、掲載商品の中にも現在では販売終了しているものがあります。

7年間も販売された初代モデル
カリーナ1600スーパーデラックス
LV-N14a　1320円　トヨタ自動車　1970年

千葉真一出演のCMが有名なカリーナの初代モデル。シャーシはスペシャリティカーのセリカと共用で、カーコンセプトは「スポーツ感覚を忘れない4ドアセダン」。

伝説の「羊の皮をかぶった狼」
スカイライン2000GT-R 70年式
LV-177a　2530円　日産自動車　1970年

ファミリーカーのスカイラインをベースにレーシングカー直系のS20型エンジンを積み、サーキット50連勝を達成した「羊の皮をかぶった狼」。通称「ハコスカGT-R」。

ゼロヨン16.3秒のホットマシン
コルト ギャランGTO MR
LV-N204a　2750円　三菱自動車　1970年

日本初のスペシャリティカー。最上位のMRは三菱初のDOHCエンジンを搭載。航空機の操縦席のような運転席は「フライトコックピット」と呼ばれた。実車誕生＆トミカ誕生50周年記念モデル。8月発売予定。

米国車の雰囲気漂う大型セダン
ルーチェレガート スーパーカスタム
LV-N33a　1320円　マツダ　1978年

スポーティー路線の2代目ルーチェに対し、高級路線の3代目の名称は「ルーチェレガート」となった。全体的にサイズアップし、米国車の影響を受けた外観から「ミニ・キャデラック」とも呼ばれた。

北米でも人気を博した510型
ダットサン・ブルーバード1800SSS
LV-138b　1650円　日産自動車　1970年

新開発L型エンジンを搭載した3代目510型の最高性能モデル。SSSは「スーパー・スポーツ・セダン」の略。翌年の610型発売に伴い、1年ほどで生産が終了した。

曲線的スタイルでファンを魅了
バイオレット 1400DX
LV-N13a　1320円　日産自動車　1973年

ブルーバード510型の後継車として開発された初代710型バイオレット。曲線を多用したボディのスタイリングから、発売当初のキャッチコピーは〈しなやかなクルマ〉。

大ヒットした3代目セドリック
セドリック 2000GL
LV-N205a　2970円　日産自動車　1971年

オーソドックスなスタイルが受け、ヒットした3代目230型。この世代からグロリアと姉妹車に。セドリック誕生60周年＆トミカ誕生50周年記念モデル。6月発売予定。

Z初の4人乗りモデル
フェアレディZ 2by2
LV-N41a　1320円　日産自動車　1974年

2シーターモデルの全長を310㎜延長して新たに追加された、4人乗りモデルのGS30型。延長されたルーフのラインとリアサイドウィンドウの形状が2シーターと異なる。

軽ボンネットバンブームを牽引
アルト
LV-N18c　1320円　スズキ　1979年

「アルト47万円」のキャッチフレーズで華々しくデビュー。軽ボンネットバンブームの火付け役となり大ヒットし、ワゴンR登場までスズキを代表する軽自動車だった。

大ヒットした3代目ギャラン
ギャランΣ 1600GL
LV-N103b　1870円　三菱自動車　1977年

車名に「Σ」が付いた3代目ギャラン。中級クラスながら、スタイルや居住性などが優れたハイグレードセダン。その美しいデザインで人気となり、大ヒットを記録した。

TOMIKA TOPICS 3

神奈川県
加藤博人さん

トミカ欲しさに勉強し、5カ国語をマスターしたコレクター

史上最年少の5歳9カ月で英検2級合格、現在は5カ国語を操る加藤博人さん（19歳）。そんな天才を生み出したのはトミカだった。1歳半からトミカなどのミニカーを1日1台与え続けた、自動車生活ジャーナリストの母・久美子さん。物心ついてからは英語問題50問正解で1台開封できるポイントカードを作ったり、検定試験合格でご褒美に、という生活を繰り返すうちに英語力はアップし、合格した検定は100以上に。同時にミニカーコレクションは5000台以上、トミカだけでも1000台を超えた。博人さんが現在通っているのは、自動車に関する授業が豊富で、さらにクルマ通学できるからという理由で選んだ慶應義塾大学。将来は車に関わる仕事に就きたいという夢を叶えるには、ここが最適と判断したのだという。常識を超えた天才の歩むべき道を決定づけた根本にトミカがある、そう考えると実に興味深い。

右／博人さんのコレクションの一部。左／レアトミカももちろん所有。トヨタハイラックス 郵便車（1973年発売／上）、AMCペーサー（1977年発売／左）、トヨタのコンセプトカーMP-1（1977年発売／右）。

CAR MODEL
1980s

おしゃれなデートカーの代表格
プレリュード 2.0Si
LV-N146c　2750円　本田技研工業　1982年

80年代を象徴するデートカー。最上級2.0Siの特徴は、DOHCエンジンを搭載するために盛り上がったボンネット。日本初のABSを搭載し、安全面でも画期的だった。

バブル期の若者の憧れの的
マークII2.5GTツインターボ
LV-N178b　2530円　トヨタ自動車　1985年

豪華さと高性能を両立させたハイソカーブームの王者格。80年代後半に登場したX80系は全車DOHC化、ダブルウィッシュボーン・サスの採用で大ヒットを記録した。

倒産危機を救った立役者
レガシィRS
LV-N06c　1650円　スバル　1989年

自社の強みである水平対向エンジン、4WDセダンを採用して大ヒット。富士重工(現スバル)を倒産危機から救った。発売前の10万km耐久走行では、当時の国際記録となる走行平均速度223.345km/hを樹立。

VTECを初搭載した歴史的車種
インテグラXSi
LV-N193a　2640円　本田技研工業　1989年

マイケル・J・フォックスが登場する「カッコインテグラ」のCMが話題となった2代目インテグラ。最高級グレードのXSiは、のちにホンダ車の象徴となるVTECエンジンを初めて搭載したことでも知られる。

若者に人気の小型スポーツ車
バラードスポーツCR-X Si
LV-N35e　2530円　本田技研工業　1985年

シビックの姉妹車バラードの派生車種として誕生。1985年にマイナーチェンジした初代後期型はヘッドライトが固定式に変更され、バンパーは大型化された。

大ヒットを記録したハイソカー
クレスタ スーパールーセント
LV-N156a　2530円　トヨタ自動車　1984年

トヨタの最上級パーソナルサルーンとしてデビューしたクレスタの2代目にあたるGX71系。姉妹車のマークII、チェイサーとともにハイソカーとして大ヒットした。

パワー論争に終止符を打った
セリカ 1800GT-T
LV-N73c　1540円　トヨタ自動車　1984年

NAかターボかの論争の最中に登場した3代目後期型。ツインカムとターボの両方を備えた3T-GTEUエンジンを搭載し、ゼロヨン15.85秒、最高速度190.98km/hをマーク。

革新的な丸いデザインが特徴
Be-1
LV-N39b　1430円　日産自動車　1987年

初代マーチのシャーシにレトロな外観を乗せた、パイクカーの先駆け。採用されたデザイン「B-1案」をBe動詞化したのが車名の由来。限定1万台は2カ月で予約完了。

トヨタのフラグシップスポーツ
スープラ 2.0GTツインターボ
LV-N106c　2420円　トヨタ自動車　1988年

200台が限定発売された、初代(セリカXX時代からは3代目)A70前期型の2.0GTツインターボ ブラックリミテッド。ブラックとグレーでまとめられた内外装が特徴。

GTとは別の怪物スカイライン
スカイラインRSターボ
LV-N85c　1760円　日産自動車　1983年

キャッチフレーズは「史上最強のスカイライン」。ターボ付きDOHC 4バルブエンジンは190馬力を誇った。「西部警察」に登場するマシンRS-1のベース車としても有名。

TOMIKA TOPICS 4

昭和情景ジオラマ職人
としさん

いつまでも飽きずに眺められる、トミカに似合う昭和情景ジオラマ

「電飾の灯りだけで一杯やるのもなかなか乙なものですよ」とは、トミカを使った昭和情景ジオラマ職人・としさん(58歳)。その作品は、いつかどこかで見たような懐かしさと、ちょっとしたストーリーが自然と思い浮かぶものばかり。そもそもはリタイア後の副業としてジオラマ制作を始めたそうで、今ではひと月に1～2作品ペースでヤフオクに出品している。「お酒片手にジオラマを眺めて『明日もがんばろう！』と感じられる作品づくりが目標です」と作品に込めた思いを語ってくれた。

左2点／トミカを効果的に使用することで、としさんの作るジオラマはさらにいきいきとした表情を見せてくれる。右2点／まず小物類から作成。ある程度出来上がったらスケッチブックにラフな平面図を描いて大体の配置を決めた後、一気に外観を作って仕上げていく。

★★★ No. 23 CLASSIC CAR LIFE

| ISUZU BELETT |

オーバルラインに惚れて34年

小林茂貴さん（会社員・65歳） いすゞベレット1600GTR ［ 1970／日本 ］

製造開始年／1969年
排気量／1600cc
エンジン／ 直列4気筒DHOC

右／当時のままのコンソールが小林さんのお気に入り。左／この曲線の魅力的なフォルムがたまらないのだという。

ベレット1600GTRのオーナーの小林さんは「後部の楕円形のセクシーなオーバルラインが昔から好きだった」と話す。このクルマのほかにも1966年式のGTも所有するというベレG好きだ。このGTRは34年前に個人売買によって手に入れた。購入当初にはジムカーナにも挑戦したという熱い思いは今も変わらない。クルマを愛し続けたことから、ベレット好きの仲間も増え、ツーリングにも出かけるそう。〝ベレG愛〟はこれからも続いていく。

「走ってこそ意味がある」と話す小林さんは今も毎日愛車を走らせているそう。当時友人から購入した愛車。少々高かったがベレットに惚れていたことから購入を決めたそう。それから同車を4台所有しながらベレット一筋だ。

★★★ No. 24 CLASSIC CAR LIFE

| MAZDA CAPELLA ROTALY COUPE |

ロータリー好きを魅了し続ける1台

若生忠浩さん（会社員・56歳） マツダ カペラロータリークーペ ［ 1974／日本 ］

製造開始年／1971年
排気量／573cc×2
エンジン／12Aロータリーエンジン

カペラはマツダの創立50周年を記念して造られたクルマである。発売当初は「風のカペラ」と謳われ、最高速度は190km／hなのだという。マツダは「人馬一体」を売りにし、若生さん自身もクルマに乗りながらそれを実感している。

カペラロータリークーペに出会ったのは若生さんが20歳の頃。「とにかくロータリーエンジンが好きだった」と話す若生さんは、このクルマの性能とスタイルに惚れ、今もなお所有し続けている。2010年にオーバーホールし、「風のカペラ」と呼ばれた当時と変わらぬ走りで年に数回遠出をしているそうだ。マツダの魅力である「人馬一体」の走りに喜びを感じながら風を切る。ロータリー好きの若生さんは、新型ロータリー車も気になっている。

右／12A型のロータリーエンジン。左／六角型のテールライトがカペラの特徴のひとつ。魅力的なボディラインがとても美しい。

No. 25 CLASSIC CAR LIFE

| CITROEN 2CV |

日常そして長年の相棒となったクルマ

多田 源さん(自営業・54歳) シトロエン2CV [1988/フランス]

製造開始年/1948年
排気量/600cc
エンジン/水平対向2気筒OHV

右/ハンドル周りもシンプルな作りが魅力的。左/世界中の自動車愛好家に支持されるエレガントなシルエットはとても美しい。

多田さんのカーライフはミニクーパー、ボルボ240、ルノー21ターボなど多くの車種を乗り続け、現在の2CVに至る。また2CV以外にも4輪はプジョー406、3輪はトゥクトゥク、2輪は現在、ハーレーなど数台を所有。「2CVは乗り心地とカタチが好きなんです」と話す多田さん。実はこれで2CVは3台目だという。「このクルマの魅力はシンプルさです」と続ける。無駄のない合理的な構造も多田さんを魅了し続けている理由のひとつなのだ。

シトロエン2CVは、フランス語で2馬力を意味する。多田さんは以前、この愛車に乗って奥様と夏に葉山へ行き、屋根にすだれをつけたこともあったそう。そんな思い出を載せて多田さんは普段からこのクルマでドライブを楽しんでいる。

No. 26 CLASSIC CAR LIFE

| DAIHATSU FELLOW BUGGY |

維持し続ける苦労も愛おしい

榎本功さん(会社役員・77歳) ダイハツ フェローバギー [1971/日本]

製造開始年/1970年
排気量/360cc
エンジン/2サイクル直列2気筒

当時限定で販売されたフェローバギー。榎本さんは2期目に販売された26馬力タイプを所有する。これ以外にも多くのクルマをコレクションしている根っからのクルマ好き。休みの日にはイベントに出かけることも小さな楽しみだという。

クラシックカーを愛する榎本さんのコレクションは1971年式のフェローバギーをはじめ、1938年式のダットサンクーペやトヨタのS800など約15台を所有している。このバギーは当時限定100台で販売され、「パワーもあり画期的なクルマだと思いました」と購入を決めた。それからこのクルマは約25年間、家の庭にずっと保管したままだったが、数年前にレストアしてまた乗り始めたという。「まだまだ当時と変わらない馬力」と話す榎本さん。

右/小さくても馬力があるところがお気に入り。左/ドア周りのカバーを新たに追加しようと現在検討中の榎本さん。

★★★
No. 27
CLASSIC CAR LIFE

| BENTLEY S2 SALOON |

クラシックな佇まいに惚れて

粕川一幸（会社役員・67歳）ベンテレーS2サルーン［1960／イギリス］

製造開始年／1959年
排気量／6230cc
エンジン／V型8気筒OHV

ベントレーの名車と呼ばれるS2サルーン。1959年の発売当初から、世界で最も豪華で革新的なサルーンとして注目された。直線的な造りが美しいフロントグリル。このグリル周りが粕川さんの一番のお気に入りなのだという。

右／シックでラグジュアリーな空間。座り心地も抜群だ。左／2019年にベントレーは創業100周年を迎えている。

「エレガントなグリル周りが気に入ったんです」と話す粕川さん。ベントレーS2を所有して7年になるという。無類のクラシックカー好きである粕川さんはこのクルマの他にもジャガーのCタイプをはじめダットサンブルーバード、トヨタの1600GTSを所有する。中でもこのベントレーの渋い見た目は今も粕川さんを魅了し続けている。また、休みの日などにはこの愛車に乗って遠方などのイベントに足を運びながらドライブを楽しんでいる。

★★★
No. 28
CLASSIC CAR LIFE

| DELOREAN DMC-12 |

名作映画に登場するタイムマシーン

近藤竜太朗さん（会社員・27歳）DMC-12 デロリアン［1982／アメリカ］

製造開始年／1981年
排気量／2849cc
エンジン／V型6気筒SOHC

近藤さんは、少年時代に名作映画に登場するデロリアンを観て、「初めて購入するクルマは絶対にこのクルマだと決めていました」と話す。何より近藤さんを魅了したのはデロリアンの代名詞ともいえるガルウィングドアとメタリックなステンレスボディだ。普段使いでこのクルマを使用し、時にはキャンプにも足を運ぶのだという。バック・トゥ・ザ・フューチャーを知る方に話しかけられては会話を弾ませることがこのクルマを所有する喜びだと語った。

右／映画の次元転移装置を再現。左／PRV型6気筒のSOHC2849ccを後部に搭載するリアエンジンのレイアウトになっている。

1985年に公開された「バック・トゥー・ザ・フューチャー」に登場する実在の自動車「DMC-12」。同映画では、このクルマをベースとしたタイムマシンとして進化しつつ登場している。近藤さん自身もこの映画に影響を受けたそう。

| NISSAN CHERRY X1R |

No. 29 CLASSIC CAR LIFE

コンパクトで燃費良いワンオーナー車

黒沢昇さん(自営業・65歳) ニッサン チェリーX1R [1970/日本]

製造開始年/1973年
排気量/1171cc
エンジン/直列4気筒OHV

1970年に発売されたチェリーX1Rは、コンパクトなボディの中にサニーと同じA型エンジンを搭載している。よく回るエンジンは、黒沢さんの楽しいドライブライフを彩っている。発売当初はツーリングカーレースの主役でもあった。

右/この個性的なテールランプが黒沢さんのお気に入りもひとつになっている。左/リアクオーター形状が独特でカッコ良い。

黒沢さんがチェリーX1Rを所有して約30年になるという。以前は日産のスカイラインGT-Rに乗っていた黒沢さん。「女性のワンオーナーで痛みも少なかったのが購入の決め手でしたね」。また、小さくて燃費も良いところが気に入っており休日には軽井沢や日光へのドライブを楽しんでいるという。このクルマでイベントに参加することが増えたことから、クルマ好きの仲間も増え、それが所有する上での喜びのひとつになっているのだそうだ。

| FIAT ABARTH 750GT ZAGATO |

No. 30 CLASSIC CAR LIFE

運転を楽しくさせてくれるパートナー

早迫博光さん(会社員・52歳) フィアット アバルト750GT ザガード [1957/イタリア]

製造開始年/1956年
排気量/747cc
エンジン/直列4気筒OHV

2018年にフィアットアバルト750GTザ・ガードを購入。「何よりの決め手は750ccのアバルトエンジンでした。小さいのに勇ましい走りをしてくれるところがとても気に入っています」という早迫さん。実は初ドライブで故障してしまい、大変な思いをしたそう。いつ故障するかわからない苦労もあるが、それ以上にクルマに乗った際の運転の楽しさが上回ってしまうだという。それはクラシックカーに魅了された早迫さんの愛すべき性なのだ。

右/直列4気筒エンジンを搭載。左/カロッツェリア・ザガードによって手がけられたアルミボディは重量わずか535kgと軽量。

フィアット アバルト750GTは、1950年代のアバルトを代表するGTモデルとしても知られている。当時は多くのレースに参加し、多くの勝利を獲得していた。アバルト愛好家の中でも早迫さんのような同車種ファンが多いのだそうう。

★★★ No. 31 CLASSIC CAR LIFE

| HONDA LN360 |

貴重なリアの横開きドアが魅力的

植原雅幸さん（会社員・55歳）ホンダLN360［1969／日本］

製造開始年／1969年
排気量／354cc
エンジン／直列2気筒SOHC

右／現在は見ることのできない赤ベースのホンダのマークが渋い。左／クリームライトのボディーカラーもとても魅力的だ。

1969年に発売されたLN360。N360をベースとした商用バンになっている、テールゲートは上下開きと横開きの２種があったという。槙原さんはこの横開きのドアがお気に入りなのだ。今後はポーターキャブの360ccも手に入れたいそう。

これまでにミニクーパーやミニのバン、MGミジェットなどを乗り継いできた植原さん。「もともとN360も好きで、バンが欲しかったんです。それに貴重なリアと横開きのドアは魅力的でした」と話す。部品の入手は容易ではないが、こういった苦労も楽しみのひとつだと嬉しそうに語ってくれた。休みの日には、愛車に乗って雑貨屋や骨董市に出かけるのが植原さんの楽しみのひとつ。骨董品もクルマと同じように歴史のあるものが好きなのだという。

★★★ No. 32 CLASSIC CAR LIFE

| HONDA SM600 COUPE |

クーペ好きを惚れさせたリアスタイル

萩原和巳さん（会社員・40歳）ホンダ SM600クーペ［1966／日本］

製造開始年／1964年
排気量／606cc
エンジン／直列4気筒DOHC

1964年にS500の後継として発売され人気シリーズのS600、通称エスロク。その当時にサブマフラーやヒーター、ラジオ、助士席サンバイザーやサイドシルプロテクターなどを標準装備としたのがSM600だ。最高速度は145km。

アルファロメオジュニアザガードを所有しながら、2018年にこのSM600クーペを手に入れた萩原さん。もともとクーペが好きだったことから購入に踏み切ったのだという。「このクルマのリアのスタイルがカッコよくて一番気に入っています」と話す。この愛車に乗ってドライブに行くのが休日の楽しみだと話す。今後はレーシングカーとして知られるオスカMT4のスポーツカーも手に入れたいと目を輝かせながら今後の夢を語ってくれた。

右／当時のままのナルディ風のステアリングハンドル。左／ボディは人気のシックなレッドカラー。萩原さん自身もお気に入り。

★★★ No.33 CLASSIC CAR LIFE

| HONDA Z GSS |

乗る楽しみ、維持する楽しみが味わえる

永嶋剛さん（会社員・57歳） ホンダZ GSS ［ 1973／日本 ］

製造開始年／1973年
排気量／356cc
エンジン／直列2気筒OHC

右／飛行機のコックピットをモチーフにしたインパネ周り。左／クーペだが大人4人が乗れるスペースが確保されている。

永嶋さんさんが35歳の時から乗り続けているというホンダZ GSS。「仲間たちと一緒にエンジンなどを色々いじれるのが楽しいんですよ」と嬉しそうに語る。ここ数年そんなクルマ仲間と大阪や東北一周などロングドライブをするのも今の楽しみのひとつだ。「360㏄ですが、他のクルマと変わらず問題なく走りますよ。スピードは出なくても、何より乗っていて楽しいです」と話す永嶋さん。愛車との日々を重ねながら今日も街を駆け抜ける。

発売当初は「水中メガネ」の相性で親しまれていたホンダZ。個性的でスタイリッシュな内外装が特徴的で、ボディの形状はロングズノーズの2ドア、ピラーレスクーペの2種類。永嶋さんはこのクルマに出会ってから23年ともに歩んでいる。

★★★ No.34 CLASSIC CAR LIFE

| JAGUAR XK150 ROADSTER |

すべてに惚れた運命のXKシリーズ

粕川欣司さん（会社役員・44歳） ジャガーXK150 ロードスター ［ 1958／イギリス ］

製造開始年／1957年
排気量／3442cc
エンジン／直列6気筒DOHC

XK150はジャガーが1957年にXK140の改良型となる2+1シーター仕様のスポーツカー。粕川さんはこのほかにも1970年式の「タテグロ」の愛称で親しまれる日産グロリアを所有しているとのこと。休日には愛車のXK150と共にで出かけている。

2013年からこのジャガーXK150を所有する粕川さん。このクルマのどこに惚れ込んでいるのかと問うと「どこか一カ所というよりも、このクルマの全部が気に入っているんです」と話してくれた。美しく磨かれたモスグリーンの車体を見るだけでも粕川さんのこのクルマへの愛を感じることができる。休日にはオープンスタイルで遊びに出かけるのが楽しみのひとつ。今後はこの愛車に乗って遠出したり、様々なイベントにも参加したいという。

右／ウッドパネルのシックなインパネ回り。左／XK150には排気バルブを拡大した210馬力のSEエンジンが積まれている。

No. 35 CLASSIC CAR LIFE

| HONDA T360 |

軽トラながらも力強い走りがいい

八木橋俊治さん（自営業・69歳）ホンダ T360［1965／日本］

製造開始年／1963年
排気量／354cc
エンジン／直列4気筒DOHC

1963年に発売されたT360。フロントに大きくホンダのロゴが堂々と入っている。「このカラーリングと愛らしい見た目から、かわいいと言ってもらえます」と嬉しそうに話してくれた。コンパクトで馬力のある走りをするところも魅力だ。

右／ハンドルを握ると高校生の頃を思い出してしまうという八木橋さん。左／小型ながらも馬力があるところもお気に入り。

八木橋さんが高校生の頃に家にあったというホンダT360。友人にそんな話をしていたところ、購入しないかと嬉しい知らせが入ったのだという。今では同車を2台所有。「2台のうち1台は1泊2日で琵琶湖一周のドライブなどにも行っています」と嬉しそうに語る。2日で1000km走っても全く問題ないそうだ。もう1台は近距離用として八木橋さんの日常用に使用している。「乗り心地は快適でなくても、乗って楽しいんですよ」と笑顔を見せた。

No. 36 CLASSIC CAR LIFE

| MINI 1.3I |

レースで大活躍の小型の王様

杉森 豊さん（自営業・53歳）ミニ1.3i［1996／イギリス］

製造開始年／1967年
排気量／998cc
エンジン／直列4気筒OHV

2014年にミニ1・3iを購入した杉森さん。「サーキット走行をしたかったのが決め手です」と語る。小さいボディながらでは想像がつかないほど逞しい走りをするミニに杉森さんは惚れ込んでいる。休日には同車でレースに挑み、過去には8位スタートから3位になれたことを嬉しそうに語ってくれた。杉森さんは、このクルマ以外にもロータスMKⅠ6などほか3台を所有し、ミニは主にサーキットを楽しむ為の専用車として活躍しているそうだ。

右／ハンドル周りも至ってシンプル。それこそが走ることに集中することができる。左／ルーフのギンガムチェックもこだわり。

モスグリーンのボディカラーは杉森さんのお気に入りのひとつ。ボンネットやドア横に貼られた番号はレースで使用しているナンバーなのだそう。ライトに貼った十字のテープはレースの際に破損してしまった際の防御用だ。

No. 37 CLASSIC CAR LIFE

| NISSAN PRINCE SKYLINE |

半世紀以上を共にする今も現役の相棒

広瀬三男さん(無職・77歳) ニッサン プリンス スカイライン1500 [1967／日本]

製造開始年／1963年
排気量／1483cc
エンジン／直列4気筒OHC

初代のモデルがプリンス自動車から1957年にリリースされたスカイライン。それから1963年にフルモデルチェンジをして、2代目のS5型に移行したのだそう。今でも問題なく走るこの愛車とのドライブはいつでも心を昔に戻してくれる。

右／当時から変わらぬ全円式ホーンリングのクラシカルなステアリングがお気に入り。左／クリームホワイトのボディ。

1963年に発売された2代目のスカイライン。広瀬さんはこれを1967年からずっと所有し続けている。「購入の決め手は当時は親戚から勧められたことが大きかったですが、乗っていて安定性が良いのが自分でも気に入っています」と嬉しそうに語ってくれた。何より故障が少ないというのは魅力のひとつかもしれない。過去にはこの愛車で九州や北海道にも出かけたほどの相棒だ。今では相棒と共にイベントに出かけるのが楽しみだという。

No. 38 CLASSIC CAR LIFE

| HONDA LIFE PICKUP |

見た目の“ひどさ”はこの車の最大の魅力

村上大祐さん(会社員・51歳) ホンダ ライフ ピックアップ [1974／日本]

製造開始年／1973年
排気量／356cc
エンジン／直列2気筒OHC

ライフピックアップのオーナーの村上さんは「昔、初めに乗ったステップバンを思い出してどうしても乗りたくなってしまったんです」と語る。所有してから約15年。この味のあるボディに「ボロいのにそこそこ走るんですよ。走っている時の周りの目線にも慣れました(笑)」と楽しそうに話す姿は、クルマへの愛情が溢れている。同車をもう一台所有しながらも、この愛車と共に普段から買い物や仕事にでかけ、ドライブを楽しんでいるのだそう。

右／使用感を出した絶妙なサビ仕様はもはや作品レベル。左／荷台のオレンジ色の屋根は後からつけた村上さんオリジナル。

かつて本田技研工業が生産、販売していたピックアップ型の軽規格のトラック。良い感じに錆びさせたスタイルが村上さんの一番のこだわりであり、お気に入りといったところ。後部にはモトコンポなどを載せるなどして活用している。

No.39 CLASSIC CAR LIFE

| NISSAN DATSUN SUNNY1000 |

父も乗っていて2世代で惚れたクルマ

宮川秀樹さん（会社員・57歳）日産ダットサン サニー1000［1969／日本］

製造開始年／1966年
排気量／1000cc
エンジン／直列4気筒OHV

右／インパネ周りも当時のまま。赤のシートがカッコ良い。左／バランスの良いファストバックスタイルが当時人気だった。

1966年に造られた、ダットサン・サニー1000。クリーンなボディに4気筒1000ccA型エンジンを搭載した小型車は当時多くの人気を博した。「メンテナンスが大変だが、何より乗っていて楽しい」という宮川さん。

宮川さんの愛車遍歴はバイロレットに始まり、ブルーバード、そして2016年より現在のダットサンサニー1000に至る。このクルマとは縁が深く、以前に宮川さんの父親も乗っていたのだそう。「このクルマのスタイルもとても気に入っています」。休日にはこの愛車に乗ってドライブを楽しみながら、スポーツ観戦に出かけているという。また「お金があればスカイラインGTRもいいですね」と話す瞳は少年のようにキラキラと輝いていた。

No.40 CLASSIC CAR LIFE

| TOYOTA S800 |

今でも実用的に乗り続けられる喜び

塚越 透さん（会社員・非公表）トヨタ スポーツ800［1965／日本］

製造開始年／1965年
排気量／790cc
エンジン／水平対向2気筒OHV

普段使いとしてトヨタのスポーツ800を乗りこなすのは塚越さん。昔は1953年式のビートルや1987年式のプジョー205 GTIにも乗っていた。スポーツタイプが好きでこのほかにホンダのS600も所有する。「このクルマはとても実用的だし、普通に乗れるところが好きですね」と話す。過去に旧車イベントの帰りにエンジンが焼き付けてしまい、なんとか家に帰ったというのも今となっては良い思い出になっているという。

通称「ヨタハチ」として親しまれた2シーターのコンパクトスポーツカー、トヨタのスポーツ800。数々のレースで活躍し、発売当初から軽やかに走るスポーツカーとして人気を博した。知り合いが売るということで2012年に購入した。

右／エンジンはパブリカのコンポーネンツを使用。左／スライディングルーフを備えている。ハードトップは取り外しも可能。

No. 41 CLASSIC CAR LIFE

| BAMOS HONDA |

子供のころから憧れて探し出した一台

小林 朗さん（自営業・55歳）バモス ホンダ［1973／日本］Vamos

製造開始年／1970年
排気量／360cc
エンジン／直列2気筒OHC

右／シンプルなインパネ周りも外装と同じモスグリーン仕様。左／タイヤの中心部分にロゴが施されれている。

ボディタイプは全部で3タイプあり、こちらは4人乗りのフル幌タイプ。ここも小林さんがこのクルマに惚れた要因のひとつだ。この個性的なスタイルも魅力で、荷台のカバーを外せば、オープンスタイルにしても楽しむことができるという。

このクルマを所有して約8年。「こんなクルマはほかにないし、子どもの頃からウルトラマンタロウのラビットパンダを見て以来、欲しくてずっと探していたんです」と語る小林さん。このラビットパンダはバモスがベースとなっているのだそう。荷物が沢山積めるところも小林さんのお気に入り。暖かい日にはフルオープンにして走らせるのも爽快だ。部品が無く維持にも苦労するが、走行の楽しさにはどんな辛さをも忘れさせる魅力があるのだろう。

No. 42 CLASSIC CAR LIFE

| GINETTA G4 |

曲面が美しいデザインにひと目惚れ

中野洋一さん（会社員・51歳）GINETTA G4［1996／イギリス］

製造開始年／1961年
排気量／1500
エンジン／直列4気筒OHV

ジネッタはイギリスのスポーツカーメーカーのひとつ。エンジンはフォード105Eを搭載している。G4は一旦廃止されたが、1981年にシリーズⅣとして復刻した。クラシックなクルマのため車検にはいつも苦労させられている中野さん。

非日常を感じさせてくれるという中野さんの愛車はジネッタG4だ。「初めて見た時に、ひと目惚れしてしまいました」。何よりこの美しいデザインに惚れ込んでいるのだそう。中野さんはこのクルマ以外にプリウスなどを所有。たまにエンジントラブルなどもあるそうだが、これも所有する上での楽しみのひとつ。普段は近隣に遊びに行く際に使用しているが、運転する際の喜びはまた格別。中野さんにとってまさしく格別な一台になっている。

右／スポーツカーらしい重厚なハンドル周り。左／カーヴィーな美しいラインが中野さんを今でも魅了して止まない。

★★★ No. 47 CLASSIC CAR LIFE

| A110 ALPINE 1600S |

愛すべきスタイル、そしてヒストリー

赤松孝さん（カメラマン・非公表）A110 アルピーヌ1600S［1972／フランス］ ALPINE RENAULT

製造開始年／1968年
排気量／1600cc
エンジン／直列4気筒OHV

右／重厚なインパネ周りも魅力的だ。左／コバルトブルーの流れるような美しいボディラインは赤松さんのお気に入り。

1950年代にルノー4CVのスペシャルからスタートしたスポーツカーメーカー、アルピーヌ。赤松さんが所有するA110は1962年にデビューし、エンジンもR8の1リッター直4 OHVをチューンしてシャシー後端に搭載していた。

赤松さんが19歳だった頃にリアルタイムでWRC（FIAラリー選手権）の活躍を見て惚れ込んだA110。このクルマを所有してかれこれ25年になるという。「スタイルが一番の魅力ですが、歴史そのものも好きなんです」と語る。何よりこのクルマは運転する楽しさを与えてくれるのだという。赤松さんはA110以外にもドカティMHRやカワサキER6Nのバイクも所有。クルマの維持での苦労には慣れている。それら全てを楽しみに変えてくれるのだ。

★★★ No. 48 CLASSIC CAR LIFE

| NISSAN SKYLINE |

青春時代のハコスカを再購入

志村武士さん（運転士・63歳）ニッサン スカイライン［1971／日本］ SKYLINE

製造開始年／1968年
排気量／1500cc
エンジン／直列4気筒OHC

1968年に登場したスカイライン2000GT。このシリーズは人気を博し、この後に登場するケンメリ以降も人気は止まらず、スカイライン神話の礎となった。志村さんはこの愛車に乗って友人達とツーリングに行くのが楽しみなのだという。

志村さんがスカイラインを購入したのは2011年。「若い時にはケンメリ・スカイラインに乗っていたのですが、ハコスカ・スカイラインがどうしても欲しくて」とこのクルマの購入に至ったのだそう。購入後に3年かけて自分でレストアし、今も乗り続けている。2輪車は過去に一からレストアした経験があるが、4輪車は初めてだった。自分でどこまで仕上げられるのかやってみたかったそうで、出来上がった時には喜びもひとしおだったという。

右／四角のテールランプの横には2000GTの文字が刻まれている。左／リアフェンダーにかかるサーフィンライン。

No. 49 CLASSIC CAR LIFE

| NISSAN CEDRIC CUSTOM |

子供時代から憧れた優美なデザイン

鈴木重光さん（自営業・52歳）ニッサン セドリックカスタム［1965／日本］ CEDRIC

製造開始年／1960年
排気量／1900cc
エンジン／直列4気筒OHV

右／エンジンは直列4気筒1900cc。左／グレードは当初スタンダードとデラックスがあり、カスタムが追加された。

フロントのウインドシールドと前傾したAピラーやテールフィンなどは、アメリカ車の影響を受けたスタイルが特徴的。前期型のヘッドランプは縦型、鈴木さんのクルマは後期型でヘッドランプが横型に設置されている。

子どもの頃からセドリックが欲しかったという鈴木さん。2013年に不動車を手に入れて、一から自分でレストアしたのだそう。「所有する上で手がかかることは多いが、私にとっては苦労することも楽しみです」と語る眼差しは少年のようだ。入手後最初の車検では1年かけて整備し、車検を通したことも鈴木さんの自慢のひとつ。思い入れの深いこの愛車に乗ってイベントに出かける際は、思わずクルマ好きの仲間と話が弾んでしまうのだそう。

No. 50 CLASSIC CAR LIFE

| SIMCA 1200S |

クーペ好きを魅了したデザイン

森田学さん（会社員・49歳）シムカ1200S［1971／フランス］

製造開始年／1967年
排気量／1204cc
エンジン／直列4気筒OHV

森田さんを魅了したフランス生まれの美しいクーペ。1962年のジュネーブショウでデビューしたシムカは、1967年に排気量を1200Sへとアップさせた。高速走行に優れたGTカーなのでイベントなどで遠征したりする事も楽しみのひとつ。

1988年式のポルシェ・カレラを所有していた森田さん。そして2017年にシムカ1200Sを購入。「当時ベルトーネに在籍していたジョルジェット・ジウジアーロ氏がデザインした美しいクーペスタイルやリヤエンジンに見えないところが気に入っています」と語る森田さん。このクルマに乗るようになり、たくさんの方々との出会いが増えた事が一番嬉しいという。今のところ故障もほとんどなく、休日のドライブを満喫している。

右／クラシカルなイタリアデザインのインパネ周り。左／当時のジウジアーロデザインがは森田さんのお気に入りのひとつだ。

RENTAL CLASSIC CAR

クラシックカーを借りて優雅な週末を過ごそう!

クラシックカーが欲しいけど買えない、憧れのクルマに乗ってみたい…。
そんな思いを叶える東京近郊でクラシックカーをレンタルできる店舗をピックアップ。
憧れの歴史あるクルマでいつもとは違った車窓を見るのも愉しい。

クルマの歴史を含めて愛されるクラシックカー

ひと昔前より遥かにハイスペックなクルマがあふれているのに、なぜあえてクラシックカーに乗るのか。機能性の他にも、逆に新しさを感じさせるデザイン性、若い頃の思い出など、その魅力はクルマと人の数だけあるのだろう。

今回、クラシックカーを敬遠してしまいがちな初心者から、他の車種も試してみたいというクラシックカー愛好家までが気軽に楽しめるクラシックカーレンタルの世界をご紹介。まずは、一度クラシックカー乗ってみて、その奥深い魅力を体感してみよう。

本当に奥が深い! クラシックカーの魅力とは

見た目や性能も大きな魅力のひとつだが、クラシックカーにはそれ以外の「歴史」という魅力が隠されてる。外国産の車種にはその所有者の歴史がわかる証明書もあり、目に見えない歴史を味わえるのもクラシックカーの醍醐味だ。

クルマを借りる前に クラシックカーをレンタルする際に気になるQ&A

Q1 クルマを借りる時に必要なものは?

運転免許証と現在の住所がわかる確認書類(住民票、公共料金の領収証、健康保険証など)の他、料金。

Q2 故障した場合はどうすれば良い?

そのまま走らず、まずは直ちに走行を中止する。故障の状況をレンタル会社に連絡し、指示を仰ぐこと。

Q3 保険はどうなっているの?

基本料金に基本的に保険や補償が含まれている場合が多い。会社によって異なるため、事前に確認が必要。

Q4 走行距離の制限はある?

会社によって異なるが、返却時にガソリンを満タン返却。また、時間制、走行距離も予め各会社に確認。

Q5 配車はしてもらえるの?

基本的に店舗返却のため、貸出配車サービスは行われない。中にはそういったサービスを行う会社もある。

Q6 初心者でもレンタルできる?

初心者でも基本的にレンタルは可能だが、会社によって乗車前のトレーニングを行うところもある。

Q7 途中で運転手が変わっても良い?

途中で運転手が変わる場合は、予め変更するドライバーを含めた手続きが必要となるので注意をしよう。

Q8 長期間レンタルすることはできる?

基本的には時間や1日単位の会社がほとんど。数カ月など長期間に及ぶ際は各会社に確認をすると良い。

Q9 クルマにペットを同乗させても良い?

ペットを同乗させる場合は、予め確認をしておきたい。車種によってはゲージ内であれば可能な場合もある。

代表・有山さん

フロントマスクが魅力的な ファンも多い英国の名車

1960年式

オースチン
A30

イギリスのGood Woodのワンメークレースで人気のオースチンA30。ほんのりさせるフロントマスクが魅力的。シートは千鳥格子仕様で、走るために機能的なシンプルな構造になっており、キュートなのにスピードもある。

右／インパネ周りのクラシカルでシンプルな造りはクラシックカー好きを唸らせる。左／繰り出し式のウィンカーもとっても愛らしい。

RENTAL SPOT 1

英国車中心のラインアップ

バンブーシュート

主に英国車のクラシックカーの販売や撮影用のレンタルを行っているバンブーシュート。店内にはこだわりの紅茶を楽しめるカウンタースペースがあり、親切なオーナーが丁寧に対応してくれるのが魅力のひとつだ。

住所／神奈川県横須賀市岩戸3-38-3
☎046-884-9359
営業時間／11:30〜17:00
定休／水曜、日曜
アクセス／京急「北久里浜駅」よりバスで約15分

レンタル料金

1回（5時間以内）3万5000円〜
※事前に乗車レクチャーを受けていただきます。※別途車両持ち込み及び回収時の費用（ガソリン代・高速代など）は頂きます。

半世紀前にタイムスリップ

モーリスマイナー
4Dr

1966年式

イギリスで大人気の国民車のモーリスマイナー。純白のボディカラーに内装は赤色でキュートなデザイン。クーラー付きで夏場も安心。

生産台数約25000台の希少車

オースチン
A90

1963年式

市場にほとんど出てこないと言われるオースチンA90。走行もとても静かで乗り心地も抜群。細かいアクセサリーの作り込みも秀逸。

アメリカンな雰囲気の英国車

モーリス
オックスフォード

1969年式

ピニンファリーナが手がけたアメリカンな雰囲気のあるデザインが魅力。5ナンバーサイズの6人乗りで、使い勝手も良いのが魅力だ。

誰もが知っているクラシックミニ

クラシックミニ

1955年式

英国車の代表ともいえるミニは、このコンパクトで可愛らしい形が世界中で愛されている。初めてのクラシックカーにおすすめ。

新たなカタチ

スマホひとつで憧れの名車に乗れる
次世代アプリカーシェアリングサービス

Anyca

レンタカーとは異なる、個人間でクルマをシェアすることができるカーシェアリングサービス。クラシックカーだけでなくスポーツカーなど様々なクルマを利用することが可能だ。1日単位で自動車保険に加入するシステムで安心。

エニカ

住所／東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ
営業時間／24時間（アプリ）　定休／無

サービスへの登録が多いため、車種の選べる幅が広がる。さらに気軽に乗ることができるのも魅力だ。

RENTAL SPOT
2

憧れの国産車に乗れる

Fun2Drive

「楽しいクルマを、楽しい場所で」をモットーに2011年から箱根で営業するFun2Drive。1970年代のクラシックカーから最新のクルマまで多数を提供している。店舗からは箱根の各ワインディングへの玄関口に位置する。

住所／神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1143 ☎050-3693-8090
営業時間／9:00～18:00 定休／無
アクセス／東名自動車道「御殿場IC」より車で15分

レンタル料金
1.5時間（25km）…1万2980円～
6時間（100km）…2万6180円～

走りのメッカの箱根をクラシックカーでお楽しみください

店長・渡辺さん

大人気の初代フェアレディZ

1975年式

ニッサン
フェアレディZ

そのポテンシャルと流麗なボディラインに羨望を集めた名車。見た目は当時のままに、中身は現代風にファインチューンされている。

内装も当時の雰囲気そのまま。6連スロットル化や圧縮比アップ、ハイカムなどを装着。

「ハコスカ」と呼ばれる名車

1971年式

ニッサン
スカイライン ハコスカR仕様

L型2リッターエンジン搭載。デュアルマフラーという、いわゆる旧車チューニングの三種の神器「ソレ・タコ・デュアル」を装備する。

1977年式

ニッサン
スカイライン ケンメリR仕様

「ケンとメリーのスカイライン」のキャッチコピーで一世風靡した4代目スカイライン。先代のハコスカのサーフィンラインを継承しながらもグラマラスなボディラインも魅力。

昭和時代に大ヒットした名車のケンメリR

「ハチロク」と呼ばれるマニアがいるほどの人気車

安心してドライブするための点検、整備は欠かしません

店長・河上さん

トヨタ
AE86 スプリンタートレノ

1983年式

3ドアに白黒のパンダカラーのボディ。前席はレカロバケットシート仕様。強化サスペンションにワタナベAW、柿本改マフラーなども装備。レンタル時にエアコン関係がリフレッシュされるため快適な走りを愉しめる。

ナビゲーションは4ヶ国語対応（日、中、韓、英）楽ナビ、Bluetoothなども装備されているため安心して快適なドライブを愉しめるのは嬉しい。

RENTAL SPOT
3

憧れのクルマに出会える

カーレンタル東京

憧れのクルマで思う存分ドライブしてみたい、そんな思いを叶えるカーレンタル東京。ラインナップはAE86をはじめ、R32、R34などの往年の名車や、最新のGT-R R35 2020モデルなど様々な魅力あるクルマを提供している。

住所／千葉県松戸市河原塚154-1
☎047-391-8484
営業時間／9:00～20:00 定休／火曜
アクセス／JR「東松戸駅」より徒歩で約15分

レンタル料金
6時間…1万2000円～
※お日にちによって料金が変動します。

ファンの多い名車

いすゞ
117 クーペ

1979年式

流麗なデザインを備えた1979年式の117クーペ。クーペは1968年に発売されて以来、人気となり今でも多くのファンを魅了し続ける。

RENTAL SPOT 4

いすゞ好きにはたまらない

ISUZU SPORTS

いすゞ車専門の販売店であるISUZU SPORTS。厳選されたいすゞ車を愉しめることからマニア必見の会社である。利用者は過去に乗っていたリベンジ組も多いが奥様とのデートに使用されるなど、様々な楽しみ方ができる。

住所／東京都羽村市富士見平2-1-1
☎0800-800-4117
営業時間／10:00～19:00　定休／火曜
アクセス／JR「羽村駅」より徒歩で約10分

レンタル料金

8時間…1万1000円～
1日(24時間)…1万6000円～
※超過1時間あたり2300円頂きます。

若かりし頃の思い出を巡ってドライブをどうぞ

担当・フジイさん

ジョルジェット・ジルアーロ デザインの優美なクルマ

直列4気筒のDOHCエンジンを搭載。クラシックな内装も当時のまま。このクルマでドライブすれば一気にタイムスリップ愉しむことができる。

いすゞ
117 クーペ

1975年式

1975年式の117クーペXG。第1期のシリーズから前後のバンパーが若干厚みを増し、美しい流線型になっているのが特徴。シックなパープルのボディカラーも魅力的だ。

RENTAL SPOT 5

様々な車種が迎えてくれる

おもしろレンタカー野田店

千葉県の野田を本店に全国に10店舗を構えるおもしろレンタカー。「レンタカーで車も面白さを追求する！」をコンセプトにトレノAE86のほか、最新型の車種まで幅広く提供しているスポーツカー専門のレンタカーの会社。

住所／千葉県野田市山崎860
☎04-7192-7348
営業時間／10:00～19:00　定休／月曜
アクセス／東武「運河駅」より徒歩で約15分

レンタル料金

6時間…1万80円
※面責補償2200円頂きます。

エンジン音に鳥肌が立つ スピード間がたまらない

若かりし頃の思い出を巡ってドライブをどうぞ

担当・斉藤さん

トヨタ
AE86 スプリンタートレノ

1983年式

「ハチロク」と呼ばれて親しまれているトヨタのAE86。日本だけでなく海外のファンも多い人気の車種だ。当時のカタチを残しているので、若干のサビもあるがこれも味のひとつ。このクルマの取り扱いは野田本店のみ。

ブラックとホワイトのツートンカラーがこのクルマの特徴であり、魅力のひとつ。内装は懐かしさを感じる造りでタイムスリップを楽しめる。

RENTAL SPOT 6

30年～50年前の旧車が揃う

香林坊

「クルマ好きにとって、クルマ遊びはかけがえのないものである」と考えるオーナーが営業する香林坊。クラシックカー好きの利用者から、奥様や友人へ名車でのドライブをプレゼントするなど使用用途も様々だという。

住所／千葉県君津市西坂田2-5-16
☎080-4464-3640　営業時間／10:00～22:00　定休／不定休　アクセス／館山自動車道「木更津南IC」より車で5分

レンタル料金

12時間…1万円～
1日（24時間）…1万1000円
※会員価格、車種によって金額が異なります。

幻の名車240ZG

1973年式

日産
フェアレディ240Z

ヨーロッパ調の高級GTに匹敵するスペックと魅力あるスタイルを兼ね備えるフェアレディ240ZG。北米を中心に大ヒットした名車。

今も多くのファンを魅了する

1976年式

日産
フェアレディSR

数々のレースで優勝を飾ってきたフェアレディSR。後のZの原型となった車種で今でもこのクルマの多くのファンがいる。

イタリア生まれのスペシャリティーカー

旧車スポーツカーや憧れのオープンカーも多く取り揃えています

店長・平野さん

1963年式

フォルクス・ワーゲン
カルマンギア

このスタイルこそカルマンギア！といえる世界中に大ファンがいる名車。このクルマで町に出れば通りの人を釘づけにしてしまうほど。当時を思い出し、アメリカンスタイルでドライブを愉しむことができるだろう。

1955年にデビューしたアメリカ市場で特に好評を博したカルマンギア。水平4気筒OHVエンジンを搭載。美しいボディも魅力。

ジウジアローデザイン

1976年式

いすゞ
117 クーペ

日本を代表する傑作の一台と呼ばれているいすゞの117クーペ。ジウジアローによるヨーロピアンな美しいデザインも魅力だ。

海外で乗車体験

クラシックカーの聖地でクラシックカーに乗ろう

専用車専用ガイドで案内するヘミングウェイが愛したカリブ海の真珠を望む情熱の国キューバ周遊8日間の旅。利用航空会社：アエロメヒコ航空、食事：朝食5回、昼食4回、夕食4回。旅行代金：エコノミークラスにて53万2000円～。詳しくはお問合せ下さい。

名鉄観光　☎052-583-1959

今や伝説のスポーツカー

1972年式

ホンダ
スポーツ800

クルマ好きならば、誰しも知っているであろうホンダS800。世界にも例のないメカニズムを持つホンダの小型スポーツカー。

愛くるしいスタイル

1968年式

トヨタ
スポーツ800

パタパタと気の抜けた2気筒エンジン音を立てながら走る通称「ヨタハチ」。その軽さによる操縦性と燃費の良さも人気のひとつ。

オートバイが輝いていた時代への回帰

時代を超えて男を魅了する ヴィンテージバイク

一世を風靡したオートバイは、時代を経ても輝き続ける。
今も多くの人の心をとらえて離さない、名車の魅力に迫る。

文◎野田伊豆守　撮影◎金盛正樹

ウエマツ東京本店 ☎042-696-6667 www.uematsu.co.jp／タイムトンネル ☎03-3429-3355 timt.co.jp/／ボートラップ ☎03-5329-5320 www.boat-rap.com

「発売当時、世界最速といわれたトライアンフ650ボンネビルをブチ抜いたという話に惚れ込みました」と本庄さん。武勇伝とは裏腹に、実際にはとても乗りやすいとのこと。

右／2ストローク3気筒エンジンは74PSを発揮。車両重量は192kgと軽量なので、今でも加速は文句なし。豪快に白煙を上げるもの魅力。左／左右非対称のマフラーが、後ろ姿を引き締めてくれる。

№ 01 KAWASAKI

MACH 750SS H2

KAWASAKI

世界最速の称号を冠した
モンスターマシン

MACH 750SS H2［1972年／日本］

製造開始年／1971年　排気量／748cc
エンジン／空冷2ストローク並列3気筒

本庄善典さん（自営業／40歳）

速さだけでなくシャープなフォルムにも一目惚れ

〝クレイジーマッハの長兄〟の異名を持つ750SS。あまりに強烈な加速の印象が強調され、結果「曲がらない、止まらない、まっすぐに走らない、3速でもウイリーする」という伝説ばかりが喧伝されたモデル。実際はバイク好きを虜にする魅力が凝縮されたマシンだ。本庄さんの「当時の最速マシンで、後ろ姿がとにかく格好いい」が、すべてを物語っている。

№ 02 KAWASAKI

KZ900

KAWASAKI

北米を席巻した
Zシリーズの集大成モデル

カワサキ KZ900［1976年／日本］

製造開始年／1976年　排気量／903cc
エンジン／空冷4ストロークDOHC直列4気筒

下條和孝さん（自営業／52歳）

完璧なスタイリングと卓越した走りを両立

発売とともに卓越したスタイルと軽量で軽快、加速性に優れたオートバイとして、瞬く間に北米マーケットを席巻したカワサキZ900シリーズの最終モデル。キャブ径がそれまでの28㎜から26㎜に変更され、扱いやすさと燃費が向上。タンクやサイドカバーの形状もスタイリッシュに。マッハ500SSも所有する下條さんも「最後はZだね」と惚れ込んでいる。

右／スピードメーターとタコメーターが左右に配置され、間に各種ランプが並ぶデザインは当時から人気だった。左／最高出力81ps/8500rpmを発揮するDOHC4気筒エンジン。

下條さんのバイク歴は10年。その間にベスパ150、ゼファー400、マッハ350SSと乗り継ぎ、現在はマッハ500SSと2台を所有。バイクグループのリーダーも務めているという。

№ 03 Norton ES2

Norton

英国のジョンブル魂を体感できるヘリテージバイク

ノートン ES2［1946／イギリス］

製造開始年／1927年　排気量／490cc
エンジン／空冷4ストロークOHV単気筒

松野ミツアキさん（非公開／44歳）

右／38年間製造されていたES2。アナログメーター周りはいかにも機械といった造り。左／重厚な排気音を演出するキャプトンマフラーを装着。

英国の伝統を具現化した重量感のある人気モデル

「このノートンES2は、タイムトンネルで入庫予定の写真を見た瞬間に一目惚れしてしまい、購入を即決したものです。もともと伝統を重んじていて、遺産と呼べるようなアイテムには目がなかったんです。さらにこの年式のバイクは機械でありながら、まるで血が通っているような気がして、特別な魅力を感じています」

オーナーの松野さんはなかなかの趣味人で、持ち物へのこだわりや愛着も人一倍だ。毎回、エンジンをかける際には、車体や開発エンジニアに対してリスペクトする気持ちが湧いてくるという。

バイクだけでなく、ウエアもヴィンテージのベルスタッフトライアルマスターでキメている。さらにツーリング中にアイデアが浮かんだ際、バイクを停めてメモをとれるように、モンブラン万年筆を常に懐に忍ばせている。そんな松野さん最大の楽しみは、最近ようやくステップに足が届くようになったという、愛娘との週末ツーリングデートだとか。「その代わりに妻はめちゃくちゃ怒っています（笑）」と松野さん。

右上／フロントフェンダーに付けられたプレートは、松野さんの会社名とイニシャル。右下／ライダー用シートはバネ付きのサドルなのも、時代を感じさせる。左／全体的に当時のオリジナル感が残されているフォルムもお気に入り。信号待ちをしていると、車のドライバーから声をかけられるとか。

SUZUKI
GT380

3気筒4本マフラーのサンパチは今も輝き続ける

スズキ GT380［1978／日本］

製造開始年／1972年　排気量／371cc
エンジン／空冷2ストローク直列3気筒

神田宏典さん（会社員／54歳）

スズキが誇る2サイクル3気筒モデルの末弟

１９７０年代に一世を風靡した、スズキを代表するロードスポーツモデルが、このＧＴ３８０。〝サンパチ〟の愛称は、当時のバイク乗りなら誰もが耳にしたであろう。神田さんも、16歳の時に初めて所有したバイクがこのサンパチだったという。２サイクル３気筒、４本マフラーという独特のメカニズムから発せられる「排気音が気に入っています」とのこと。

水冷2サイクル3気筒のGT750、空冷2サイクル3気筒のGT550とともに、スズキのロードスポーツの中核を成していたモデル。神田さんは現在、カワサキZ400FXも所有している。

右／3気筒ながらマフラーは左右2本ずつ。落ち着いたフォルムとなっているが、軽快そのものの走りで人気。左／最高出力は38ps/7500rpm。2サイクル独特の強烈な加速感を楽しむこともできる。

№ 05

KAWASAKI
500SS MACH III

圧倒的な加速性能を発揮し世界中のファンを虜にした名車

カワサキ 500SS マッハⅢ［1975／日本］

製造開始年／1969年　排気量／499cc
エンジン／空冷2ストローク並列3気筒

三河樹さん（会社役員／45歳）

マッハ・シリーズじゃじゃ馬を乗りこなす

取材日が納車日だった三河さん。他にもカワサキＺ１を所有。さらに過去に所有していたバイクも、ゼファー４００やマッハ２５０という、筋金入りのカワサキマニア。「購入の決め手は見た目。自慢したいポイントは３本マフラーです」と、すっかり惚れ込んだ様子。さらに発売当時、世界最速の称号を手にした伝説のモデルだけに、今も多くのファンを持つ。

バイク歴15年という三河さん。昔のカワサキのデザインが気に入っているそうで、ウエマツでこの500SSマッハⅢを目にした瞬間、購入を決めたというほどの惚れ込みようだ。

右／新車当時、最高速度は200km/hをたたき出した2ストローク3気筒エンジン。4ストロークならば6気筒に相当する。左／スピードメーターは220kmまで記される。

No 06 Triumph T6 thunderbird

一世を風靡したスピードツイン 時を超えても健在なり!

トライアンフ T6サンダーバード［1966／イギリス］

製造開始年／1949年　排気量／649cc
エンジン／空冷4ストロークOHV2気筒

曽田伸一さん（会社員／43歳）

バイク暦23年という曽田さんは、3年前にトライアンフにたどり着くまでにホンダドリーム50、ヤマハTW223、カワサキバルカン400、ホンダレブル250と乗り継いできたという。

現在の道でも輝き続けるかつてのスピードスター

50～60年代、他メーカーの2気筒と比べ加速力や性能面、整備性が秀でていたことで、英国車ながら北米でも絶大な人気を誇ったトライアンフ。曽田さんは「3年前、当時の愛車だったホンダのレブル250をカスタムするため、ボートラップに持ち込んだ際、展示車を見て一目惚れし、購入しました」と話す。3年経った今もそのすべてが自慢なのだという。

右／シンプルなスピードメーターは、日本車とは違って数字が25km/h刻みになっている。左／650ccという大排気量ながら、現行のバイクと違うスリムなフォルム。今も往年の加速力は健在だ。

No 07 KAWASAKI Z1 900

KAWASAKI

半世紀近くの時を越え 今も名車の地位を守り続ける

カワサキ 900 Super4［1973／日本］

製造開始年／1972年　排気量／903cc
エンジン／空冷4ストロークDOHC直列4気筒

石井浩司さん（自営業／40歳）

父親が650RS（W3）に乗っていたこともあり、すっかりカワサキ党となった石井さん。自身も過去にW3にも乗っていた。現在、カワサキの2ストの名車、KH400と2台持ち。

時代を超えて今も輝くビッグマシンの真髄

輸出モデルとして1972年秋に登場するやいなや、世界中で衝撃をもって迎えられた名車中の名車。それがZ1（900スーパー4）だ。「高校生の頃から憧れで、いつかは乗ろうと心に決めていました」と石井さん。50年近く前に出たモデルとは思えないルックスも、虜にさせられた要因という。キャブレター車が好きなので、旧車から離れられないのだとか。

右／砲弾型のメーターも当時はセンセーショナルな存在だった。大口径のライトとの相性も抜群。左／世界初直列4気筒DOHCエンジンと4本マフラーのデザインも秀逸。

No 08 KAWASAKI Z1 900

KAWASAKI

現在も一目惚れする人が続出する空前の人気モデル

カワサキ 900 Super4［1975／日本］

製造開始年／1972年　排気量／903cc
エンジン／空冷4ストロークDOHC直列4気筒

中村勇人さん（会社役員／58歳）

今年3月にオープンした自らの店「カフェ・シュシュ」の看板代わりにもなっている。中村さんはライバル車のCB750フォアやハーレーDXLなどを所有していたこともあるそうだ。

右／フロントからテールへと流れるようなラインを描くスタイリングは、発売から半世紀に迫っても美しさが称えられる。左／当時のライダー憧れの的であったDOHCヘッド。

ノーマルでも安心して乗れる希有な旧車

ライバルであったホンダCB750フォアを超えるべく、コストを度外視して当時最高の技術水準を上回るスペックを搭載したZ1。そこには、妥協なき開発哲学が生きている。「そんな心意気を感じさせるスタイルや、小気味良いエンジン音に惚れてしまって」と中村さん。ノーマル状態が気に入っているので、復刻パーツが充実しているところも安心だという。

No 09 BMW R100RS

世界中が固唾を呑んだフラッグシップモデル

ビーエムダブリュー R100RS［1980／ドイツ］

製造開始年／1976年　排気量／980cc
エンジン／空冷4ストロークOHV2気筒

石井嘉則さん（会社役員／53歳）

快適な高速走行とともに優れた居住性を実現

往年のレーサーと同じRS（レン・シュポルト）のネーミングを冠したBMWのフラッグシップモデル。1976年に登場した際、その異様なまでに大きなフェアリングが、世界中のバイクシーンに衝撃を与えた。アウトバーンを時速200㎞で走行しても、ライダーを走行風から守ってくれる。「ゆったり乗れる軽快なハンドリング」が自慢と語る石井さん。

1976〜84年まで生産。フルフェアリング装着車はその後、世界中のバイクメーカーが模倣したが、現在でもこのフェアリングの性能を超えるモデルは登場していないといわれる。

右／スピード・タコメーター以外に電圧計や時計が並ぶ様は、4輪車のコクピットを思わせる。外観のみでなく、この革新的装備もその後の指針となった。左／最高速200km/hを発揮した空冷OHV2気筒。

No 10 HONDA

DREAM CB750Four

ナナハンブームの先駆けとなった伝説のマシン

ホンダ ドリームCB750Four［1975／日本］

製造開始年／1969年　排気量／736cc
エンジン／空冷4ストロークOHC直列4気筒

高橋弘幸さん（会社役員／44歳）

ライバルの大排気量車にアドバンテージを獲得

昭和43年（1968）の東京モーターショーで発表され、翌年4月から北米を中心に、8月からは国内で販売を開始。搭載されている4ストロークOHCエンジンは、量産車としては世界初の直列4気筒レイアウトを実現。量産オートバイとしては、世界で初めて時速200kmを超えたモデルだ。

機能・装備面は、気筒数分の4キャブレター、4本出しマフラー、前輪ディスクブレーキ、ドライサンプ式の潤滑方式、2輪車初のAC交流発電機など、当時の最高水準の技術が盛り込まれていた。

国内だけでなく、海外からも高評価を得たことで、ナナハンブームが起こり社会現象に。当時、カワサキは同じ750cc4気筒を開発していたが、CBの登場により路線を変更。後年DOHC4気筒900ccのZ1を発表した。

「当時はヤンチャなバイクとして人気だったようですが、今は歴史や味わいが詰まったバイクに昇華しています。加えて自分の生まれ年と同じ年式なのも、購入のキメ手」と高橋さん。後付の集合管の音にも惚れ込んでいるという。

右／その後、当たり前となる前輪ディスクブレーキも、このバイクから採用された。左／ペットネームのドリームは、創業社長本田宗一郎の夢という意味。

右／ドラムも趣味という高橋さんにとって、集合管が奏でるエキゾーストノイズのリズムはバイクを楽しむ上で欠かせない要素だという。後付け集合管はMRS。左上／67ps/8000rpmという最高出力を発揮したエンジン。発売当初は世界を席巻した。左下／小物入れバッグや固定バンドも自慢アイテム。

Classic Car Garage

クラシックカーのある ガレージライフ拝見

レコードや書籍のライブラリー、サーフボードなどお気に入りの品々が並ぶ。長谷川さんにとってこの上なく居心地の良い空間だ。

クラシックカーのあるガレージライフを楽しんでいるオーナーたちを訪ねた。
ガレージは車のコンディションを最良に保つ保管場所であると同時に、
彼ら車趣味人たちにとって格好の「隠れ家」でもあったのだ。

文◎仲武一郎　撮影◎遠藤 純

取材協力◎ジェイスタイル・ガレージ／☎03-5966-8711 js-g.co.jp/

ガレージ前に並んだ長谷川さん所有のエルカミーノとマツダのピックアップトラック。ガレージは「シダーガレージ（18×24フィート）」。ピックアップトラックには木製ガレージがよく似合う。

趣味と思い出を詰め込んだ大人のホビールーム

オーナー：長谷川淨（きよし）さん（千葉県長生郡）
ガレージ：シダーガレージ18×24（ジェイスタイル・ガレージ）

上／愛車を眺めながらくつろぐ長谷川さん。右下／壁面には記念の盾や写真がびっしり。左下／音楽ライブラリーも充実。お気に入りのジョニー・リヴァースに聞き入る。

この地を長谷川さんが別荘地として選んだのは平成25年（2013）のこと。

アメリカ西海岸を思わせる澄み切った青空が広がっている。

九十九里浜に近いこの地を長谷川さんが別荘地として選んだのは平成25年（2013）のこと。その翌年には念願のガレージを完成させた。母屋に合わせてブルーグレーに塗装された木製ガレージには、長谷川さんがこよなく愛する昭和43年（1968）型のシボレー・エルカミーノが格納されている。流麗なクーペルックを採用した2ドアピックアップトラックだ。長谷川さんがこのエルカミーノと出会って以来30年以上、大切に乗り続けている。

ガレージの内部は、長谷川さんの趣味の道具や思い出の品々が所狭しと並べられ、まるでホビールームのようだった。コレクションの一つひとつが長谷川さんの豊かなライフスタイルを物語っている。エルカミーノがその中心的な存在であることは言うまでもない。この空間は長谷川さんにとって単なる「車庫」ではない。メンテナンスの手を休め、ソファに腰を下ろし、お気に入りの音楽をかけながら愛車と過ごす。なんと贅沢なガレージライフであることか。

こだわりチェック

エルカミーノの雰囲気に合わせてアメリカ製の照明カバー（上）やスイッチ（左）を取り付けた。ただし「輸入照明は改造が必要な場合があるので要注意です」とのこと。

お気に入りポイント

屋根勾配を3m延長した軒下空間。バイクやカヌーをはじめ屋外用アイテムはこちらに。雨の日の屋外作業も濡れずに済む便利なスペースだ。ガレージライフがより楽しくなる。

ウッドとメタルの本物感をハンドメイドで表現

オーナー：山﨑哲也さん（埼玉県入間市）
ガレージ：シダーガレージ26×22（ジェイスタイル・ガレージ）

昭和30年代以前のクラシックカー＆バイクを愛好している。古き良き時代の温もりを感じさせるガレージだ。

右／照明スイッチ盤に錆塗装を施してクラシック感を演出。こうした細かい仕上げが随所に見られる。左／蚊取り線香の缶を塗装。ステンシルを入れて雰囲気を出している。

J10型ジープにM38型ボディを架装したジープが日常の足。550スパイダー・レプリカは近日中に整備を済ませナンバーを取得予定だ。

こだわりの愛車に似合う心憎いガレージの演出

軍用M38型ボディのジープと、米国ベック社製のポルシェ550スパイダー・レプリカが並ぶ。2台の奥にはBMW、ハーレーダビッドソン、ベスパといったバイクたち。こだわりのクラシックカー＆バイクをコレクションしている山﨑さんのガレージを訪ねた。「クラシックなジープやバイクなどの雰囲気に合わせて、クラフト感を大切にしています」。

　オーナーのこだわりが随所に感じられるガレージだ。ポイントはウッドとメタルの本物感をハンド

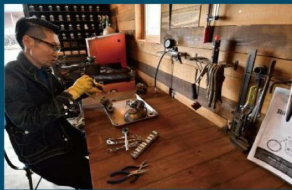
手前のハーレーダビッドソンとBMWが実走可能。ヤマハSR、BSA・C10、ベスパ2台がレストアを待っている。

ガレージは「シダーガレージ（26×22フィート）」。ガレージ前のスペースを広く取ったゆとりあるレイアウトだ。さらにオースチン・ミニ専用のカーポートを追加している。

上／550スパイダー・レプリカはナンバー未取得ながら、コンディションは良好だ。右下／各車種用の油脂類管理棚を設けている。中下／郵便局のハガキ仕分け棚を譲り受けて金具類を分類。左下／サンドブラストやボール盤など工作機械の取り揃えはプロならでは。

お気に入りポイント

金属加工はお手のもので、なんでも自作してしまう山崎さん。なんの変哲もない市販石油ストーブも彼の手にかかればクラシックな味わいをもつ逸品に変身してしまうのだった。

レストアやメンテナンスを行うため、ガレージの一角に作業スペースを設けている。作業机も山崎さんがDIYで製作した。

メイドで表現していること。

カスタムバイクやアイアン家具の製作などの金属加工を得意とするだけに、溶接や塗装はお手のものだ。ガレージ内の設備の多くは自ら製作・取り付けを行っている。ガレージを組み上げる際に余った木材を使用した内壁や、収納棚や照明のチョイスにセンスの良さを感じさせる。手作りの温もりが伝わってくるガレージだ。

一日の多くをここで過ごすという山崎さん。最近ではレストアやカスタムのオーダーが増え、作業スペースをいかにして確保するかが課題とか。今後のガレージライフに思いを馳せる山崎さんだ。

ジープや550スパイダー・レプリカの存在を聞きつけ、遠方からわざわざ見学に来る人も多いとか。ガレージの一角の休憩スペースで、作業の手を休めて来客とのクラシックカー談義に花を咲かせる。

4km離れたガレージへの「通勤」が日々の楽しみ

今日もまた中里さんがガレージにやって来た。ガレージのオーバースライディングドアを上げると、そこにはお気に入りのバイクたちが主人の訪れを待っていた。

すでに仕事をリタイヤしてセカンドライフを謳歌する中里さんは、自宅から約4km離れたガレージに毎日のように通い、バイクの整備やレストアに勤しんでいる。

「自宅から離れた場所にガレージがあるのは不便のようですが、作業に没頭できるので自分にはかえって都合がいい。日々ガレージに通うのが楽しみです」。

ガレージは予算や使い勝手を考慮してキットガレージをセルフビルドで組み立てたという。

「合理的なツーバイフォー工法はパネルを並べて固定するだけ。キットを運んできたトラックのクレーンで固定位置に下ろせば、あっという間に組み立て完了です。経費も抑えられました」。

外装より内装の仕上げに時間がかかったほどだが、それでも2カ月半で理想のガレージが完成。

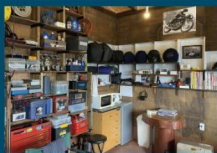
ガレージライフにどっぷりの中里さん。小学生の頃からのバイク

右／ガレージは「シダーガレージ（20×16フィート）」。車両の出し入れや屋外での作業を考えてコンクリートスペースを設けた。左／ガレージまで「通勤」している中里さん。

スティーブ・マックイーンをCMキャラクターとして起用したことで知られるクロスカントリーモデル、1972年型ホンダ・エルシノアも大切な愛車。ゼッケンは車体番号77にちなむ。

上／ガレージ内はよく整頓されて清潔感がある。バイクが並ぶさまは小さな整備工場のようだ。下／メカニックの経験もあるという中里さん。メンテナンスからレストアまでこなす。

上／作業スペースを中心として左右にバイクをレイアウト。右下／本棚など内装を製作。左下／かつて活躍していた四輪レースで使用したタイヤをテーブル代わりに使っている。

こだわりチェック

ガレージの一角をユーティリティスペースとして活用している。テーブルとチェアが置かれ、冷蔵庫やコンロなどもありちょっとした調理も可能。作業の合間の憩いの空間だ。

好きは、今も飽くことなくバイクの楽しさを追求している。

こよなく愛するバイクのレストア基地

オーナー：中里茂雄さん（埼玉県川越市）
ガレージ：シダーガレージ20×16（ジェイスタイル・ガレージ）

壁面は合板を張り塗装して仕上げている。ガレージを組み立てたときに出た端材で棚を製作するなど随所に工夫が見られる

お気に入りポイント

天板に0.7mm厚の鉄板を張って自作した作業台。ここでエンジンやミッションのオーバーホールまで行う。エアホースと電気コードリールは壁面に設置。作業性は良好とのこと。

デッキチェアに腰を下ろしくつろぐ中里さん。壁面にはガレージのシンボルとなるモニュメントが飾られている。

IT'S NO RULE

VOL. 6

17年振りにスープラというネーミングを復活させた2シーターピュアスポーツ、新型スープラ。
何とドイツBMWと共同開発で造ったスープラは随所にトヨタのアイデンティティを採用する。
1978年には初代スープラ（日本名セリカXX）が北米市場を舞台に大きく羽ばたいたのである。

絶大な人気を誇った 初代北米スープラ＝セリカXX

自動車メーカーは……というより、自動車のエンジニアはスポーツカーを創りたがる。これは昔から変わらない。たくさん売れるクルマを製造した方が儲かるのは明白だが、自分達の技術の高さやセンスの良さを示したいのが本音だ。

たとえ買わなくてもスポーツカーを創れるメーカーのクルマだと思えば、ミニバンでもＳＵＶでもセダンでも、高い技術を持っているエンジニアが造ったのだというイメージでユーザーは安心して買うという効果もある。

トヨタを例にとると、筆者がまだ運転免許を持っていない１９６５年からトヨタスポーツ８００を、少し遅れてトヨタ２０００ＧＴを販売。これらのモデルは専用のボディを持ち、そのカッコ良さから憧れの的だった。高校生だった筆者は、学校の帰りに少しだけ遠回りしてディーラーのショールームの展示台の上に飾ってある２０００ＧＴを見るのが日課であった。

その後に登場したのが、セリカ。お洒落なスタイリングだったが、当時の技術の最高峰１・６ℓＤＯＨＣエンジンを搭載し、スポーツ度も満点だった。１９７８年に登場したセリカＸＸ（ダブルエックス）は、景気の良さがクルマの豪華さにも表れていた。

セリカＸＸの２代目は、１９８１年に登場し１９８６年まで販売。スポーツ度とゴージャス度を併せ持ったのが３代目のセリカＸＸ＝初代スープラである。バブルまっしぐらという世間が浮かれた時代の１９８６年に登場したのだ。

バブルが弾けて、１９９３年に４代目スープラ（A80）がデビュー。特に、高いリアウイングが目を引いた。残念ながら、次のステップに渡る橋をつなげることはできず、２００２年に生産終了。

しかしトヨタの中でもまだスポーツカーを、創りたいエンジニアはいた。たくさんの台数が捌けないスポーツカーを効率よく創る方法は共同開発だ。ＳＵＢＡＲＵと一緒に86を創った実績はあるが、今度は一緒にスープラを創ることになったのだ。ちなみにＢＭＷ Ｚ４はオープンカー、スープラはクーペだから市場での位置付けも違う。エンジン、ＡＴ、サスペンションなどの基本コンポーネントなどのハードは共通化しているが、ボディは別。さらに走りの味付けも、スープラとＺ４では別々に開発されている。

というわけで、新型スープラは蘇った。新しいカタチの創り方ではあるが。かつてのように街でスープラのようなスポーツカーを頻繁に見かけることを願ってる。

文◎こもだきよし　撮影◎中島仁菜

トヨタ・スープラ FRピュアスポーツカーの復活！

①センターコンソール周辺のデザインやスイッチ類の配置などBMW Z4との共通点を見出すことができるが、情報を集約した液晶メーターやステアリングなどはスープラ独自のもの。②8.8インチHDDナビゲーションシステムを装備。車載通信機DCMを全車標準搭載し、スープラ専用のコネクティッドサービス「Toyota Supra Connect」を提供する。③アルカンターラ+本革シートのスポーツシートは、運転席&助手席8ウェイパワー＋電動ランバーサポート＋サイドサポート幅調整機能が備わる。④カップホルダー2個が備わる。収納スペースは乏しい。⑤伝統を継承する直6ターボエンジンを搭載したRZ。足まわりのチューニングもスープラ独自の味付けでBMW Z4とは性格が異なる。⑥ラゲッジスペースは290ℓの容量を確保。⑦BMWとの包括提携による初のモデルとなるスープラは、マグナ・シュタイヤー社グラーツ工場で生産される。⑧フロントにはブレンボ製アルミモノブロック4ポッド対向キャリパー＋348mm径ローターを武装。フロント9J、リア10Jの鍛造アルミホイールを標準装備する。⑨B58型3ℓ直6ターボエンジンは340ps/5000rpmの最高出力を誇り（2020年モデル）、0→100km/h加速は4.3秒。ミッションは従来のATのイメージを覆す8速スポーツシーケンシャルシフトを組み合わせる。

History

1978年～1981年	北米名スープラ（初代　セリカXX　A40／50型）
1981年～1986年	北米名スープラ（2代目セリカXX　A60型）
1986年～1993年	3代目　スープラ（A70型）
1993年～2002年	4代目　スープラ（A80型）
2019年～	5代目　スープラ（DB型）

こもだきよし

Profile

1950年11月9日生まれ。神奈川県出身。タイヤメーカーのテストドライバーを経て、フリーランスのモータージャーナリストとしておよそ35年もの間第一線で活躍する。現在は多岐にわたるメディアへの寄稿やテレビでのコメンテーター、ドライビングスクールのインストラクターなどを務め、精力的に活動を続ける。日本ジャーナリスト協会会長など重職を務めている。

PICK UP

TOYOTA SUPRA RZ

「究極の走る愉しさ」を求め続ける!!

直6、FRのパッケージで復活を遂げた新型スープラRZ。ピュアスポーツカーにふさわしいパッケージとパワーユニットを手に入れ、グローバルカーらしい存在感を放つ。さらには先進の予防安全技術や専用のコネクティッドサービスも用意される。

Specifications

●サイズ：全長4380mm×全幅1865mm×全高1290mm ●ホイールベース：2470mm●トレッド：前1595mm／後1590mm●車両重量：1520kg●総排気量：2997cc●エンジン：直列6気筒DOHC24バルブターボ●トランスミッション：8速AT●最高出力：250kW（340ps）／5000rpm●最大トルク：500Nm（51.0kgm）／1600～4500rpm●駆動方式：FR●サスペンション前／後：マクファーソンストラット／マルチリンク●ブレーキ前／後：ベンチレーテッドディスク／ベンチレーテッドディスク●タイヤ&ホイール前／後：255/35ZR19／275/35ZR19●乗車定員：2人●車両本体価格：¥7,027,778／オプション¥398,882（税込み）

㈱トヨタお客様センター　📞0800-700-7700 www.toyota.jp

1

メイドインジャパンの技術とこだわり

WILD MARTINI Great Flame

ワイルド マルティーニ グレートフレイム

[価格]7万9800円 [サイズ]幅520×奥行330×高さ270mm
[重さ]約1.7kg [革素材]マルティーニ(牛革)
[機能]〈外装〉フリーポケットx2〈内装〉フリーポケットx2、ファスナーポケットx1
[カラー]チャコールブラック、ヴィンテージ、キャンプファイヤー、リバーサイド

バッグの外側と内側に合わせて5つのポケットが付く。使い勝手の良さも忘れていない。

CHECK!

スーツにもアウトドアにも合う野性味と上品さを兼ね備えた鞄

世界の高品質な皮革を仕入れて、日本の技術で仕上げる革製品メーカーCOCOMEISTER(ココマイスター)からゴルフやアウトドアまで幅広く使えるLサイズボストンバッグが登場。革鞄の高級感を残しつつもワイルドさを最大限に取り入れ、スーツでもオールドスタイルでも合わせられる上品かつ野性的なバッグに仕上げた。牛革にオイルをゆっくりと時間をかけて染み込ませていくイタリア伝統のバケッタという製法でなめされた素材は心地良い質感と使い込むほどに出る深みが特徴。

ココマイスターオンラインサポート
☎0120-827-117 cocomeister.jp

CHECK!

心地良い目覚めとともにコーヒーを楽しむ至福の時間

寝室に置いてあっても違和感のないスタイリッシュなデザインも魅力のひとつだ。

ベッドサイドにも馴染むシンプルなデザイン

The Barisieur

バリシーア

[価格]7万4580円
[サイズ]幅約280×奥行約177×高さ約94mm
[容量]〈ビーカー〉200ml、〈カップ〉160ml

朝起きるとすぐに淹れたてのコーヒーが飲める幸せ。そんな夢のような時間を現実のものにしてくれるアイテムが目覚まし時計付きコーヒーメーカー「The Barisieur(バリシーア)」だ。寝る前にコーヒーをセットし、時間を設定。コポコポと泡立つコーヒーの音や心地良い香り、そしてコーヒーを味わうことで自然な目覚めを促してくれるため、気持ち良く起床できる。就寝前後のベッドサイドで使うことを想定し、操作しやすい様にボタンの少ないシンプルな構造となっている。

日本橋高島屋S.C.本館2階 ギャラリー ル シック
☎03-3211-4111

2

万が一の時のために状況をしっかり記録

d'Action 360 S

ダクション サンロクマル エス

[価格]5万9800円
[サイズ]幅131×奥行68×高さ99mm
[重さ]約235g [有効画素数]約2706万画素
[対応記録媒体]専用microSDカード

大事な愛車に万が一のことがあった時のために付けておきたいドライブレコーダー。先進的なカー用品を取り扱うカーメイトの「d' Action 360 S」は、上下左右の全方位録画が可能な心強いアイテムだ。レコーダーの前後にひとつずつ全天周録画ができる360°高画質カメラが搭載されており、あおり運転や危険運転のクルマが近づいてきてから、離れていくまで一連の動きをしっかり捉えることができる。さらに別売りのオプション製品を使えば駐車中でも録画できるようになる。

カーメイト
☎03-5926-1212 daction.carmate.jp/

CHECK!

上下左右全てを撮影できる死角のないドライブレコーダー

録画した映像は専用のソフトを使えば、パソコンやスマートフォンですぐに確認できる。

CHECK!

柔らかくシンプルな素材感春らしさを感じる日本限定モデル

遊び心が光るドライビングシューズ

ダブル T シティ ゴンミーニ ドライビングシューズ

[価格]8万3600円
[カラー]イエロー、ブラウン、ブルー
[サイズ]5〜9.5(日本サイズの目安 24〜28.5cm)

カラーは個性的なイエローやブルーの他、シックで使い勝手の良いブラウンが展開。

イタリアのラグジュアリーレザーブランドTOD'S(トッズ)から日本限定モデルの春夏シーズン新作シューズが発売。ブランドの頭文字「T」を2つ重ねた「ダブルT」の遊び心のある定番モチーフを取り入れつつも、ビットモカシンでエレガントさを演出。ビジネスだけでなく、カジュアルなスタイルにも自然と馴染むような風合いに仕上げられている。シンプルなカーフ素材を使用しているため、履き心地も柔らか。気候が良くなるこれからの季節、履いて出かけたくなる一足。

トッズ・ジャパン
☎0120-102-578 tods.com/jp-ja/home.html

CMC

ドイツが誇る老舗自動車模型メーカー。社名は「Classic Motor Cars」の頭文字に由来する。主なスケールは1/18で、1920年代から60年代のクラシックモデルを中心にラインナップ。実車をそのままスケールダウンしたような超精密な仕上がりは、思わずため息が出てしまうほど。開発には徹底的にこだわるため、新作は年間でもわずか4～5種しかリリースされない。

男の隠れ家

SELECT SHOP

老舗メーカーによって
精巧に作りあげられたミニカーの
数々や便利なカー用品をご紹介。

圧倒的な存在感を放つ、CMCの超精密ミニカー

クルマ好きを虜にする優雅でクラシカルなプルマン。実車同様、世界の要人のプライバシーを守ったリアウインドウ用カーテンを装備。

2018年に発表された「メルセデス・マイバッハ S650 プルマン」が証明する通り、「プルマン」の名が冠された車両は、いつの時代もメルセデス・ベンツの最上位モデルであることを意味する。

1／ドアとボンネット、トランクリッドが開閉可能なので、内側のディテールも心ゆくまで鑑賞できる。2／V型8気筒SOHCエンジンも付属品を含め驚異的なクオリティで精密に再現。3／CMCが誇る技術陣の手により、折りたたみ式の補助シート、アームレストも再現。4／世界の王族や政府高官を魅了したラグジュアリーなインテリアは革張りと木製の装飾で美しく復元。

栄光の「メルセデス・ベンツ600」をモデル化

CMC 1/18 メルセデス・ベンツ 600 プルマン リムジン (W100) 6ドア ブラック

9万5000円（税抜） 商品番号 MGR-4997-OT

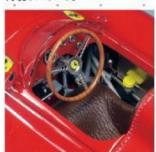
「W100」としても知られる「メルセデス・ベンツ600」は、1960年代から1970年代にかけて、ダイムラー・ベンツが持てる技術の粋を集めて製造した歴史的な高級車だ。"路上で最も速く、安全で豪華な乗物"と評された。3タイプのボディが展開されたが、なかでもロングホイールベースの「プルマン」は、6.2mの威風堂々たる体躯を誇り、時代の先端を行く快適・豪華装備を備えた "ショーファードリブン"の最高峰に位置していた。生産台数は僅か428台。そんな「メルセデス・ベンツ 600 プルマン」を、CMCが満を持してモデル化。1230個以上ものパーツで再現されたハンドクラフトのダイキャスト製モデルで、6ドアに加え、ボンネットとトランクリッドが開閉可能。V型8気筒SOHCエンジンも超精密に再現されている。コレクションに加えたい極上の1台だ。

■サイズ／全長約340×全幅105×全高80mm　■重量／1.9kg　■材質／ダイキャスト

※この商品は予約商品です。ご注文いただいた場合、9月～10月頃の発送となります（生産の都合上、入荷時期は遅れる場合があります）。

情報提供：モデルガレージロム（P108～109）

エンジンフードを開ければパイプピングや配線がすべて精密に再現されたV8 DOHCエンジンを観察することができる。

名手ファン・マヌエル・ファンジオを乗せたコクピットの構造も精密に再現されている。

ワイヤーを一本一本組み上げ、エアバルブも再現されたステンレス製のホイール。

総パーツ数は驚異の1598個！

CMC 1/18 ランチア フェラーリ D50
イタリアGP 1956 2nd（モンツァ）#26
ピーター・コリンズ/ファン・マヌエル・ファンジオ

5万5370円（税抜） 商品番号 MGR-4691-OT

1956年、最終戦のイタリアグランプリ。優勝争いの先頭ファン・マヌエル・ファンジオはマシントラブルでピットイン。するとフェラーリの同僚で2位につけていたピーター・コリンズは、逆転でチャンピオンを獲得するチャンスを捨て彼にマシンを譲った。この結果ファンジオは3年連続4回目のチャンピオンとなった。今も語り継がれる優勝劇を飾ったマシン「ランチア フェラーリ D50」をCMCが1/18スケールでモデル化。1598個という驚異的なパーツ数でD50の全てを再現。またキャップ類には本物のヒンジ、実車通り左右で回転方向が異なるセンターロックナットを採用するなど一つひとつの部品にこだわり抜いている。実車さながらに仕上げられた塗装も圧巻。ため息が出る美しさで、いつまでも眺めていたい一台だ。

■サイズ／全長約210×全幅80×全高55mm ■重量／600g
■材質／ダイキャスト ■限定生産台数／1000台

レース史に名を刻んだ不朽のレーシングカーたち

1155ものパーツで ル・マンを制した ジャガーの傑作を再現

CMC 1/18 ジャガー タイプ C ル・マン 24H 1953
T.ロルト/ D.ハミルトン

5万5370円（税抜） 商品番号 MGR-4819-OT

CMCから初めての発売となるルマンウィナーモデル。第二次世界大戦後、高級車メーカーとしてのブランドを確立したジャガー。その立役者となったXK120をベースに、ル・マン24時間耐久レース参戦のため開発されたのがXK120C、すなわちこのタイプCだ。直列6気筒DOHCXKエンジンと凹凸の少ない滑らかなフォルムは期待通りの能力を発揮し、1953年に見事優勝を果たす。このモデルでは流麗な車体をはじめ、エンジンフードを開けると覗く6気筒エンジンや運転席のディテールに至るまでこだわり抜き、どの角度から見ても惚れ惚れする仕上がりとなっている。

■サイズ／全長約220×全幅90×全高60mm ■重量／約600g ■材質／ダイキャスト ■限定生産台数／1500台 ■カラー／ブリティッシュレーシンググリーン

エンジンフードと運転席側ドア、後部トランクが開閉可能だ。後部トランクの中にはスペアタイヤが収納されている。

エンジンフードを開けると、思わず息をのむ精密さで再現された直列6気筒エンジンが現れる。

フランス・ノレブ社が誇る、クラシック70'sフランス車シリーズ

NOREV(ノレブ)

1946年創業のフランスの老舗玩具メーカー。ミニカーの製作は1950年頃よりスタート。当初はプラスチック製のミニカーを手がけていたが、1970年代よりダイキャスト製を主力商品にしている。スケールは1/43をメインとしながらも1/18も充実のラインナップを誇る。こだわりの開閉ギミックも魅力。高い品質とコレクションしやすい手頃な価格を両立させた、フランスを代表するミニカーメーカーだ。

小型ファミリーカーの代表車をモデル化

ノレブ 1/18 ルノー 12 ゴルディーニ 1971 ブルー

1万2600円(税抜) 商品番号 ED-5017-0T

■サイズ/全長約22×全幅7.5×全高6.5cm ■重量/600g ■材質/ダイキャスト ■仕様/ドア・ボンネット開閉可能、台座付き(取り外し可能)、タイヤ可動

「ゴルディーニ」はかつてフランスに存在したチューニングメーカーで、創設者であるイタリア生まれのアメデ・ゴルディーニは"魔術師"の異名で知られた天才メカニック。1956年からはルノーと提携。1969年に同社に株式を売却し、一部門となった。「ルノー 12」は、ルノーが1969年から1980年までに生産した小型ファミリーカーのシリーズで、「ゴルディーニ」の名が冠されたこのモデルは、フランスのみならずヨーロッパ諸国で人気を博した。白のストライプが「ゴルディーニ・ブルー」に映える。

デザインコンテスト優勝車をモデル化

ノレブ 1/18 シトロエン 2CV 1976 バスケットシューズデザイン

1万3000円(税抜) 商品番号 ED-5019-0T

フランスの自動車メーカー・シトロエンの言わずと知れた世界的大ヒット車両「2CV」。「2CV Basket」は、シトロエンが1976年に主催した2CVのグラフィックデザインコンテストの優勝作品を実車化したもので、優勝した学生は若者らしくバスケットシューズをイメージしてデザインした。フランス国旗を彷彿とさせるトリコロールが目を惹くそんな特別仕様車を1/18スケールでモデル化した。コレクションに加えたいユニークな一台だ。

■サイズ/全長約20×全幅7×全高8mm ■重量/440g ■材質/ダイキャスト ■仕様/屋根(幌)別パーツ、ドア・ボンネット開閉可能、台座付き(取り外し可能)、タイヤ可動

コレクションに加えたい希少車「ディアーヌ6」

ノレブ 1/18 シトロエン ディアーヌ6 1970 ベージュ

9000円(税抜) 商品番号 ED-5018-0T

「シトロエン・ディアーヌ」は、名車「シトロエン・ 2CV」の後継車。2CVの発表からおよそ20年の時を経た1967年に登場し、一時は2CVの販売台数を凌いだものの、1970年代に入ると石油危機などの要因で、優れた走行性能と経済性を有していた2CVの人気が再上昇。次世代へのモデルチェンジを担ったディアーヌだったが、結局2CVよりも先に生産終了となった。それゆえに今ではほとんど見ることのできない希少車となった。そんなディアーヌが辿った運命も相まって、コレクター心をくすぐる一台だ。

■サイズ/全長約20×全幅6.5×全高7cm ■重量/420g ■材質/ダイキャスト ■仕様/屋根(幌)別パーツ、ドア・ボンネット開閉可能、台座付き(取り外し可能)、タイヤ可動

高級な18-10ステンレスの素材感を生かし、余分な装飾を排したシンプルなアッシュトレイが、愛車のインテリアに溶け込む。

清潔感を保ち続ける、18-10ステンレスのアッシュトレイ

CARL MERTENS CALDERA アッシュトレイ

5000円(税抜) 商品番号 FMM-4014-OT

火山のカルデラ(陥没孔)をモチーフにしたアッシュトレイ。熟練の職人が研磨した美しい表面仕上げはカールメルテンスならでは。その名の通り、中心の穴に向かって強い傾斜がついており、火の点いたタバコを穴に差し入れると、押し消す必要もなく自然に消火される。また、吸殻や灰が全て内部に隠れるため、灰が散らばらず、清潔感が保たれる。素材には高級な18-10ステンレスを贅沢に使用。車のカップホルダーにも入るので、愛車での利用もお勧めだ。

■材質／18-10ステンレス、プラスチック ■サイズ／Φ70×高さ90mm ■重量／約280g ■生産国／ドイツ

伝統的な技術を持った熟練の職人が研磨している。

CARL MERTENS(カールメルテンス)

CARL MERTENS SOLINGEN, GERMANY

1919年に設立された、カトラリーを中心に展開するドイツの老舗ブランド。刃物の製造や金物造りの街として世界的に有名なドイツ西部のゾーリンゲンに本拠を構える。その美しいデザインは遊び心と高い機能性を兼ね備え、世界的なデザイン賞を数多く受賞。ニューヨーク近代美術館(MOMA)にも所蔵品として同社の製品がコレクションされている。

愛車での旅行をさらに快適に!

バックアップとザ・シートを併用すればさらに快適に。

天然ラテックスフォームには天然殺菌効果も。

ボディドクター

最上質の天然ラテックスフォームのみを使用し、柔らかすぎず硬すぎない、絶妙な弾力"正反発®"を実現したシリーズ。ヘタリにくい抜群の耐久性があり、素材そのものに天然の高い殺菌性が備わっているため、清潔な状態で末永く愛用できる。権威あるドイツ公立検査テスト機関(LGA)の耐久テストでも最高得点を獲得した。

長く座っても疲れにくい

ボディドクター ザ・シート

3900円(税抜)

商品番号 GIC-4017-OT

■カラー／ベージュ、ブラック、グレー
■サイズ／一辺400×厚さ25mm
■素材／中身:天然ラテックスフォーム100%、カバー:ポリエステル100%

着座姿勢で体の重みが集中すると、毛細血管が圧迫され血行が悪くなってしまう。それらが疲労の原因となり、痛みやしびれを引き起こす。この「ザ・シート」は、薄くても安定感のあるソフトな座り心地を実現。天然ラテックスフォームが体の重みを分散してくれる。単体での使用のほか、バックアップ(GIC-3994)と併用すれば、愛車でのドライブがさらに快適に。

職業ドライバーも愛用

ボディドクター バックアップ

3900円(税抜)

商品番号 GIC-3994-OT

■カラー／ベージュ、ブラック、グレー
■サイズ／幅400×高さ250×奥行75mm
■素材／中身:天然ラテックスフォーム100%、カバー:ポリエステル100%

普段の2倍運転しても苦にならないのがこちら。車のシートと腰の間にこの「バックアップ」をセットすれば、選び抜かれたゴムの樹液を使った最高品質の天然ラテックスの絶妙な"正反発®"クッションが腰をサポート。発泡ゴムの気泡が体圧を分散して身体を優しく支えながら、振動や衝撃を吸収してくれる。これでロングドライブも安心。後部シートにもお勧め。

まだある！ イチオシ商品

SELECT SHOP's
BEST SELLER

小さいながらも細かなディテールにこだわる
「TanaCOCORO［掌］」シリーズの仏像フィギュアが勢揃い。
さらに愛好家もうならせる作務衣にも注目。

運慶の傑作、国宝「毘沙門天立像」がモデル

TanaCOCORO［掌］／毘沙門天
2万3000円（税抜）

商品番号 MRT-2815-OT

モデルは、北条時政の命により建立された寺院に伝わり、2013年に国宝指定された「毘沙門天立像」。1186年に名仏師・運慶の手によって造像された。運慶の新時代への意欲と確かな力量がうかがえる名品を、妥協のないモデリングで再現。毘沙門天は戦国武将たちが篤く信仰したことでも有名。七福神の一尊として財福を授ける福徳神としての一面も持つ。

■サイズ／高さ約205×幅110×奥行82mm
■重量／約380g
■材質／ポリストーン

天平の美少年の突出した美しさ

TanaCOCORO［掌］／阿修羅
2万6000円（税抜）

商品番号 MRT-3651-OT

光明皇后が亡き母・橘三千代のために造らせた供養仏の一体といわれる国宝「阿修羅像」。三つの顔に六つの腕を持つ「三面六臂」で表され、その表情の異なる三つのお顔と六本の細くしなやかな腕の調和、哀愁を帯びたまなざしが見る者の心をとらえて離さない。

■サイズ／高さ約180×幅110×奥行61mm
■重量／約220g ■材質／ポリストーン

ゴールドの彩色が圧巻

TanaCOCORO［掌］
／千手観音～慶派～
3万6000円（税抜）

商品番号 MRT-3309-OT

仏像フィギュアをコレクションする楽しみを広げる"TanaCOCORO[掌]"シリーズ。本品のモデルは運慶の実子・湛慶（たんけい）の銘を持つ京都の重文「千体千手観音立像」。平安様式を踏襲しながらも鎌倉彫刻の張りのある造形が特徴。無限の慈悲を表す穏やかで丸みを帯びた表情と、42本の手が見事に調和した立ち姿が美しい。手に持つ法具まで忠実に再現している。

■サイズ／幅約92×高さ200×奥行52mm ■重量／120g ■材質／ポリストーン、真鍮（宝冠）

運慶工房作と目される量感あふれる不動明王

TanaCOCORO［掌］／不動明王立像
2万3000円（税抜）

商品番号 MRT-4589-OT

長野県諏訪市の古刹、佛法紹隆寺に伝わり、その像容や胎内納入品から運慶もしくは運慶工房作ではないかと目されている魅惑の不動明王像をTanaCOCORO[掌]シリーズで再現。気迫に満ちた憤怒相で岩座に立つ迫力ある不動明王に、火炎光背がさらなる精彩を与える。明王の不動の意志が存分に表現された、鎌倉期の傑作だ。

■サイズ／高さ約208×幅85×奥行50mm
■重量／約265g ■材質／ポリストーン

天才仏師・運慶の処女作

TanaCOCORO［掌］
／大日如来
2万3000円（税抜）

商品番号 MRT-3652-OT

モデルは奈良県円成寺の国宝「大日如来坐像」。高く豊かな髻（もとどり）や肉厚で引き締まった身体表現にはその後の慶派の特徴がすでによく表わされている。金箔の剥落の箇所とその程度にもこだわって仕上げた作品。

■サイズ／高さ約154×幅86×奥行86mm
■重量／約400g
■材質／ポリストーン、真鍮（宝冠）

作務衣愛好家も納得のロングセラー

散策や書斎での「くつろぎ着」に

たてスラブ作務衣

1万6000円（税抜） 商品番号 IDA-4526-OT

表情豊かで和の雰囲気が堪能できるスラブ生地で仕立てた作務衣。着心地も良く、吸汗性など機能性にも優れたロングセラーだ。江戸時代より綿花の一大産地である遠州・浜松で織り上げた生地を、職人が一枚一枚、丁寧に縫製している。作務衣は禅宗の僧侶が日々の雑事を行う際に着用していた和服のため、非常に動きやすいのも魅力。散策や書斎でくつろぐ際の贅沢な和装部屋着としてお勧めだ。自宅での洗濯も可能で、手入れが簡単なのも嬉しい。

■カラー／濃紺、グリーン　■サイズ／M（身長:160～170cm、上着丈:75cm、裄丈:70cm、ズボン総丈:100cm、股下:68cm、ウエスト:64～98cm）、L（身長:170～180cm、上着丈:78cm、裄丈:72cm、ズボン総丈:104cm、股下:70cm、ウエスト:69～106cm）、LL（身長:180cm以上、上着丈:85cm、裄丈:75cm、ズボン総丈:105cm、股下:72cm、ウエスト:77～112cm）　■仕様／上着:左前ポケット1個（内ポケット付き）、ズボン:前側にボタンとファスナー、ウエスト後ろゴム入り、ウエストを絞る共布紐付き、ポケット左右各1個、裾に共布紐付き　■素材／綿100%　■洗濯方法／洗濯機（ネット使用）　■生産国／日本

作務衣と相性抜群のスラブ生地を使用。通年で着用できる。

上着のポケットにはスマートフォンが入る内ポケットもある。

料金受取人払郵便

新宿局承認

8517

差出有効期間
2021年1月
31日まで

切手はいりません

郵便はがき

1 6 0-8 7 9 2

180

東京都新宿区四谷 4-3
四谷トーセイビル 6 階
(株)ジャパンクリエイトワークス
えがおプラス
「男の隠れ家」係行

キリトリ線

ご依頼主様

ふりがな
お名前

お電話番号　－　－

ご住所 □□□-□□□□
都道府県　市区町村

商品番号	商品名	個数	価格
－　－			円
－　－			円
－　－			円
－　－			円
－　－			円

ご注文方法

インターネット（24時間受付）
えがおプラス 検索
https://egaoplus.com
PC、スマートフォン、モバイルからアクセス可能。

フリーダイヤル
0120-007-818
受付時間／月～金曜日、10:00～18:00
土日祝は休み

郵送
切手不要、ポスト投函
左のハガキに必要事項をご記入の上、キリトリ線で切り、ハガキの大きさの厚紙に貼って投函してください。

FAX（24時間受付）
0120-002-506
ご希望の商品番号・商品名・数量と、お届け先のご住所・お名前・電話番号をご記入の上、FAXしてください。

左のハガキに必要事項をご記入の上、FAXしていただくこともできます。

●お支払い方法について
インターネットでお申し込みの場合は、代金引換、各種クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済がご利用いただけます。
フリーダイヤル、ハガキ、FAXでお申し込みの場合は、代金引換のみとなります。

●送料について
1回のご注文につき880円（税込）の送料がかかります。また、代金引換でお支払いの場合、別途代引き手数料が必要となりますのであらかじめご了承ください。

●代引き手数料について
税込合計金額が、1万円以下の場合は330円（税込）、3万円以下は440円（税込）、10万円以下は660円（税込）となります。

●その他
商品はお申し込み後、10営業日前後でお届けいたします。メーカー在庫切れの場合、納期までお時間をいただく場合がございますのでご了承ください。お客様のご都合による返品・交換は原則として受け付けておりません。なお特別な理由がある場合には、返品をお受けする場合がございます。その際の送料はお客様にご負担いただきます。

HOTEL

新たな特別室とレストランで ラグジュアリーな北海道を満喫

北海道・札幌市の定山渓温泉にある「定山渓第一寶亭留 翠山亭」は、館内の一部をリニューアルし、新たな特別室2室と特別食事処をオープン。特別室「松風」・「連珠」はゆったりとした広さの部屋に加えて、自慢の温泉に長くくつろいでいられるよう寝湯が設置されている。食事処「湯相七席(ゆあいしちせき)」では、北海道の旬の食材をふんだんに使った第一寶亭留最高グレードの和食が愉しめる。

問定山渓第一寶亭留 翠山亭
☎011-598-2141
jyozankei-daiichi.co.jp/jyozankei/

HOTEL

気分はまさに城主? 城に宿泊する貴重な体験

伊予の小京都と言われる愛媛県大洲市。その中心にそびえ立つ大洲城に宿泊できるプランが限定で提供されている(ひとり1泊2食付き110万円)。ただ城に宿泊するだけではなく、鉄砲隊や馬など、当時を再現した入城シーンや、重要文化財指定の建築で殿様御前など、歴史を肌で感じられる内容がいくつも盛り込まれている。普通では体験できない、城主になった気分を味わえるチャンスだ。

問大洲城キャッスルステイ
☎0120-210-289
ozucastle.com

HOTEL

美しい海とフクギの並木道 沖縄のヴィラでパワーチャージ

沖縄の美ら海水族館にほど近い備瀬のフクギ並木に「シークレットプールヴィラ・セジ」がオープン。1棟貸しのため、周りを気にせずにくつろげる(ひとり1泊7万5000円〜)。1Fは和室、2Fは開放的な洋室になっていて、客室内から沖縄の美しい海や伊江島、水平線に落ちる夕日を眺めることができる。自然に囲まれたヴィラでゆっくりとした時間を過ごして心も体もリフレッシュしよう。

問シークレットプールヴィラ・セジ
☎098-923-2915
seji.jp

SAKE

アウトドアで楽しむ日本酒 「久保田」がこの春限定で販売

新潟を代表する日本酒「久保田」と、同じく新潟を代表するアウトドアメーカーであるスノーピークがコラボした「爽醸 久保田 冬峰」(3410円)。久保田正規販売店とスノーピーク直営店での限定販売となっている。春の山菜や旬の食材を使ったアウトドア料理と合うような、フレッシュな香りと甘味と酸味の中に、米の旨味がほんのり広がる逸品。春の食材と共に忘れずに持って行きたい。

問朝日酒造
☎0258-92-3181
asahi-shuzo.co.jp

RESTAURANT

物流倉庫街の中に現れる 緑豊かなガーデンカフェ

埼玉県川口市の物流倉庫が立ち並ぶ一画に、緑豊かなガーデンカフェ「1110CAFE/BAKERY」がオープン。職人が丁寧に焼き上げたパンは美味しいだけではない。すべて植物由来の素材を使って作り上げているため、体にも環境にも優しいメニューといえる。素敵な食事や爽やかな風景でお腹も心も満たされるはずだ。なお、現在コロナウイルスの影響でオープン日が延長している。詳しくは公式HPなど。

問1110CAFE/BAKERY
☎048-229-1085
1110cafe-bakery.com

RESTAURANT

フランス料理だからこそ 楽しめる和の味と体験

東京赤坂にある大人のフレンチレストラン「Le FAVORI(ル・ファヴォリ)」では、9月6日(日)まで和の限定コース「Menu JAPON(ムニュ ジャポン)」(1万2100円)を提供する。エスカルゴやフォアグラなどのフレンチでおなじみの食材を、和食をモチーフにした手法や道具を用いて仕上げる。「和の体験ができるのは和食屋だけじゃない」という考えから生み出されたフレンチだからこその和を味わえる。

問Le FAVORI(ル・ファヴォリ)
☎03-6272-3764
lefavori.jp

MUSEUM

クラシックカメラを愛する写真家の充実したコレクション

日本カメラ博物館では「竹内敏信コレクション展 ～時をこえたカメラと風景～」を開催。風景写真の世界に新たな表現を開拓した竹内氏は千数百台ものカメラを所有するクラシックカメラコレクターとしても知られる。その貴重なコレクションから約60点のカメラを展示する。一般300円。コロナウイルスによる影響で6月1日(月)まで臨時休館となっているが、会期は10月4日(日)まで延長が決定。

問日本カメラ博物館
☎03-3234-4650
jcii-cameramuseum.jp

EVENT

愛知県内・最高地の花畑で芝桜と南アルプスの絶景を望む

愛知県最高峰の茶臼山高原の丘の上が、5月から6月にかけての間、芝桜によって鮮やかに彩られる。奥三河の豊かな自然に囲まれた豊根村の茶臼山高原。リフトに乗って標高1358mの頂上まで上がれば、色とりどりの芝桜と南アルプスの雄大な姿の、コントラストが美しい絶景を楽しむことができる。合わせて温泉施設や、万願寺とうがらしなどの特産品が手に入る売店などにも立ち寄りたい。

問茶臼山高原
☎0536-87-2345
chausuyama.jp

EVENT

新橋演舞堂が華やかな料亭に変わる

新橋演舞場で行われる「東をどり」。普段は一見さんお断りの料亭でしか見ることのできない芸者衆の粋で艶やかな歌や踊りだが、その芸を見ることができる年に一度の貴重な機会だ。幕間では料亭の味や芸者衆との記念撮影なども楽しめる。演目のフィナーレでは芸者衆と観客が一体となって大盛り上がりとなる。コロナウイルスの影響で5月開催は中止。今後の情報は公式HPなどを要確認。

問東京新橋組合
☎03-3571-0012
azuma-odori.net

PRODUCT

新シリーズは等高線をイメージ遊び心満載のアウトドアギア

アウトドアギアメーカーのキャプテンスタッグの人気シリーズ「キャンプアウト」より、新たなモデルが登場。等高線をモチーフとした柄に、オールドイエローとオリーブを大胆に組み合わせた配色が印象的だ。柄の中にはキャプテンスタッグのアイコンになっている鹿が隠れているなど遊び心も忘れていない。テントやタープはもちろんシュラフやコンテナまで多種多様なギアを展開する。

問キャプテンスタッグ
☎0256-35-3117
captainstag.net

PRODUCT

米国海軍特殊部隊が使用した名作の腕時計Bushipsを復刻

1940年代～50年代に米海軍特殊部隊用に開発された特殊防水腕時計「Buships(ブーシップ)」(2万5300円)が復刻。水中作業にも耐えるために、大型のキャップでリューズを保護して防水性を向上させた、このシリーズの特徴を忠実に再現している。また本物のアンティークを持っている人にも、普段使いできるものを目指し、当時の機械式からクオーツムーブメントへとバージョンアップした。

問モントルロロイ
☎03-5728-5321
montre-roroi.jp

PRODUCT

人気スーツケースの新色はフィヨルドをイメージ

ドイツのスーツケースブランドRIMOWA(リモワ)。耐久性の高いポリカーボネイト製の人気シリーズである「ESSENTIAL(エッセンシャル)」にアイスランドのフィヨルドから着想を得た新色が加わった。氷河をイメージした「グレイシャー」(写真)、そして草原に広がるベリーの深紫をイメージした「ベリー」。エレガントかつ爽やかなカラーリングで、これからの季節に持ち運びたくなるスーツケースだ。

問リモワ クライアントサービス
☎072-994-5522
rimowa.com

隠れ家通信

2020年
4月27日
発行

4月号では、下町のバーにまつわる物語の数々を特集。気軽な雰囲気はあるものの、強いこだわりを持つ本格的なバーの数々を紹介しました。「知ってるお店が載っていて良かった」「行ってみたい」という嬉しいお便りを、多くの読者よりいただきました。

今回の特集はとても面白かったです。時々バーに行くことがありますが、私は肩肘はらない下町のバーが良いので、とても楽しんで読めました。ぜひどれかに行ってみようと思います。

神奈川県・おたかさん

編…町によってバーの雰囲気が異なるのも面白いですよね。昔、富山でご高齢のバーテンダーさんが営まれている店を訪れ、アットホームな雰囲気に癒されたことを覚えています。（TS）

とても興味深かったので購入しました。バーにあまり行ったことがないのですが、地元のお店がかなり載っていたので、今度巡ってみたいと思います。また、日本のウイスキー蒸留所巡りもしてみたいと思っていたので、参考になりました。お酒の特集はとても嬉しいです。

静岡県・やなちんさん

編…参考になったのであれば嬉しい限りです。酒は多くの種類があるだけでなく、魅力的な店や製造元もたくさんあるので、これからも特集できたらと思います。（RK）

湯島のアベさんが載っていたので購入しました。折々の節目にアベさんと語れることがとても良いのです。こういう場所を持てたことは幸せです。取り上げたバーの一軒ごとにそんな思いの人々が訪れているのだと思いました。

千葉県・MoRoさん

編…ご購読いただきありがとうございます。バーでの愉しみは、その場所でいただく酒の味のほかに、バーテンダーの方々との語らいが大きいのかもしれませんね。（CH）

バーテンダーの所作を眺めたり、会話をしたり。たくさんの魅力がバーには詰まっている。

まさに「男の隠れ家」としてうってつけなバー特集、読んでいるだけで優雅な気分に浸れました。ルールやマナーについても詳しく取り上げて下さり、とても勉強になりました。東京へは出張でもプライベートでも年に数回行くことがあるので、紹介されたバーを巡ってみたいです。

福岡県・いぬまっしぐらさん

編…旅先、出張先で飲む酒はとても美味しいですよね。せっかくバーを訪ねるのですから、店ごとの魅力をゆっくりと愉しみながら巡ってみてください。（RK）

私は20代ですが、紹介されている昔ながらのお店やクラシックなスタイルに憧れて、誌面に心を踊らせながら読んでいます。今後も、大人格好良い特集を心待ちにしております。

栃木県・隠れ家の書生さん

編…年齢にかかわらずより良いモノ、場所、スタイルに触れていると、感性も磨かれていくかと思います。これからも読者の方にとって魅力的な記事をご紹介していきたいと思います。（RO）

楽しく読ませていただきました。バーのマナーについてのページと、地元密着型のバー特集がとても良かったです。ぜひ近所のお店に行ってみたいと思います！

東京都・ゆんさん

編…マナーを少し知るだけで心の余裕が持てますよね。あとは心配しなくても、多くの店は素敵なおもてなしをしてくださるはず。ぜひ足を運んでみてください。（CH）

知っているお店がいくつか載っていたので思わず買いました。同じ街でも知らないお店が結構ありました。この本を参考にして行ってみたいと思いました。

東京都・まりもさん

編…下町のバーの面白いところはオーセンティックな店もあれば、親しみやすい店もあるという、バラエティさでした。自分に合う店を探して愉しんでください。（TA）

編集部だより

クラシックカー好きに限らず、大人にとって少年時代、青年時代に存在したクルマが走っていたりすると気になってしまいます。それって、単なるノスタルジックな感情ではないと思います。懐かしいクルマに出会った瞬間、自分が過ごしてきた長い時間を振り返るからなのでしょう。そう、クラシックカーは個々の歴史なのです。（TA）

投稿募集！

編集部では読者の皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております。官製ハガキや封書にて紀行文などをお送りいただいても構いません。また、写真やイラストなどもお待ちしております。

〒160-0002　東京都新宿区四谷坂町2-18
株式会社プラネットライツ『男の隠れ家 6月号』編集部
TEL:03-5369-8780／FAX:03-5369-8783
e-mail:kakurega@kakurega-mag.com

お詫びと訂正
男の隠れ家5月号、P51大丸京都店の8階ファミリー食堂に関する記事を訂正いたします。（誤）日本一大きい→（正）日本一大きいといわれている／（誤）デザートと珈琲付き→（正）デザートとドリンク付き／（誤）唯一昔の→（正）今ではほぼ見なくなった昔の／（誤）営業時間／11:00~20:00→（正）~20:00（LO19:30）。読者並びに関係各所にご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

PRESENT

読者プレゼント
応募要項

Webアンケートにて必要事項と希望商品番号を記入の上ご応募ください。応募締め切りは5月26日。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

1. ペンネーム
(本誌の「隠れ家通信」にコメントを掲載させていただく場合に使用させていただきます)
2. 今号の表紙の印象を教えてください
3. 今号でおもしろかった記事とその理由を教えてください(いくつでも)
例:P22 クラシックカー拝見
4. 本誌を
①初めて買った
②毎回購入している
③興味のある号のみ買う
5. 今号を購入した動機は何ですか
①表紙に惹かれた
②特集・企画内容が気に入った
③情報の量・質
④ほかに欲しい雑誌がなかった
⑤その他
6. 日頃、定期的に購入している雑誌は何ですか(いくつでも)
7. 最近の旅行についてお伺いします
①行った場所
②日数
③人数
8. 今一番旅行したい場所を教えてください
9. 趣味を教えてください
10. 今一番欲しい物は何ですか
11. 本誌で取り上げてほしいテーマ、特集を教えてください(いくつでも)
12. 食べ物・お店・風景・道具などイチオシを教えてください
13. 本誌についてのご感想など、なんでもお書きください

ご協力ありがとうございます。

読者の皆様からのお声を受け、下記Webサイトより応募していただける形となりました。

左記QRコードからもご応募いただけます。官製ハガキでの応募もお待ちしております。

https://san-a.jp/form/pub/4/kakurega

※官製ハガキでご応募される際は、切手代をご負担いただく形となります。(ハガキの宛先はP119参照)

※ご記入いただいたお名前、ご連絡先、アンケートのご回答などの情報は、誌面作りの貴重なご意見として参考にさせていただくために利用し、その他の目的では一切使用いたしません。

NO.1 2名様

往年のクラシックカーをかたどった マニアにはたまらないスピーカー

Volkswagenの名車Beetleの「Ultima Edicion Bluetoothスピーカー」(5500円)が日本限定で登場。ライトの点滅やトランクの開閉などのギミックも。今回はブルー、イエローマットをそれぞれ1名様に(カラーは選べません)。

問CAMSHOP.JP
☎076-287-6593
camshop.jp

NO.2 1名様

ハンモックタイプの小銭入れで 使いやすさと薄さを実現した財布。

独自の構造を取り入れた「ハンモックウォレット ミニ」(1万3750円)。収納部が浮き上がることで収納面積が増えるだけでなく視認性も良くなり、小銭があふれるのを防ぐ。小型ながら見た目以上の収納力が心強い。

問cartolare(カルトラーレ)
☎03-6825-1888
cartolare.jp

NO.3 3名様

暑くなる季節の心配事を解消! 汗をかいても香りでリセット

汗をかくたび生まれる香りで頭皮臭をリセットする「サクセス24」シリーズから、夕方まで清潔感の香る「みずみずしいフルーティフローラルの香り」が登場。今回はシャンプーとコンディショナーのセットを。

問花王
☎0120-165-696
kao.com/jp/

NO.4 1名様

原料の米から自社栽培するという 一貫したこだわりが生み出した酒

老舗酒造がより良い日本酒を追求し、原料である酒米から独自開発して作り上げた「白鶴 翔雲 純米大吟醸 自社栽培白鶴錦」(5500円)。華やかな果実香に、甘みと酸味がマッチした芳醇な余韻が楽しめる。

問白鶴酒造
☎078-856-7190
hakutsuru.co.jp/

NO.5 1名様

カセットテープの音源をデータ化 懐かしの音をUSBへ保存

カセットテープの音源をUSBメモリへデジタル保存ができる「カセット変換プレーヤー」(6980円)が登場。搭載したスピーカーでカセットの中身を直接確認できるのも便利。簡単操作で片付け＆永久保存しよう。

問サンワダイレクト
☎086-223-5680
direct.sanwa.co.jp

NO.6 5組10名様

さらに横浜を楽しむコンテンツを導入 人気の展望フロアがリニューアル

横浜ランドマークタワー69F展望フロア「スカイガーデン」がリニューアル。みなとみらいを360°展望できるだけでなく、カフェやライブラリーなどの施設も充実している。今回はペア入場券をプレゼント。

問スカイガーデン事務局
☎045-222-5030
yokohama-landmark.jp/skygarden/

第92回アカデミー賞2部門ノミネート作品

CINEMA

それは人生のはじまり

ペイン・アンド・グローリー

©El Deseo.

「トーク・トゥ・ハー」で知られるスペインの巨匠、ペドロ・アルモバドル監督がメガホンをとったアカデミー賞ノミネート作品。長年にわたりタッグを組んできたアントニオ・バンデラスを主演に迎え、「あなたのママになるために」などに出演したアシエル・エチェアンディア、「エンド・オブ・トンネル」のレオナルド・スバラーリャ、ペネロペ・クルスらが共演する。

世界的な映画監督のサルバドールは脊椎の痛みから生きがいを見出せなくなり、心身ともに疲れ果てていた。サルバドールは母親のことや幼少期に引っ越したスペイン・バレンシアでの出来事など過去を回想するようになる。そんな彼のもとに32年前に手掛けた作品の上映依頼が届く。思いもよらなかった再会が、ふさぎこんだサルバトールを過去へと翻らせていく。主演のバンデラスは2019年・第72回カンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞。また、第92回アカデミー賞では主演男優賞、国際長編映画賞にノミネートされた今期注目の作品だ。

6月19日(金)より全国ロードショー
監督:ペドロ・アルモバドル
出演:アントニオ・バンデラス、ペネロ・ペクルス、アシエル・エチェアンディア、レオナルド・スバラーリャほか

CINEMA

イップ・マン有終の美

イップ・マン 完結

5月8日(金)より新宿武蔵野館
ほか全国ロードショー
監督:ウィルソン・イップ
出演:ドニー・イェン、ウー・ユエ、ヴァネス・ウー、スコット・アドキンスほか

© 2019 Mandarin Motion Pictures Limited All Rights Reserved

ブルース・リーがその生涯で唯一、師匠と呼んだ詠春拳の達人イップ・マン。激動の時代を誇りを貫いた彼の半生を描いた、アジアで驚異的な大ヒットとなった「イップ・マン」シリーズが遂に完結する。イップ・マンは、宣告された病を隠し、残された息子への思いを胸に最後の闘いへと進んでいく。

CINEMA

恋愛映画の金字塔

ひまわり 50周年HDレストア版

ヒューマントラストシネマ有楽町
ほか近日ロードショー
監督:ヴィットリオ・デ・シーカ
出演:ソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニ、リュドミラ・サベーリエワほか

© 1970 – COMPAGNIA CINEMATOGRAFICA CHAMPION(IT) – FILMS CONCORDIA(FR) – SURF FILM SRL, ALL RIGHTS RESERVED.

1970年公開の日本で大ヒットした恋愛映画。公開から50年、戦争で引き裂かれた男女の悲しい愛の物語が再びスクリーンに登場する。ソフィア・ローレン、マルチェロ・マストロヤンニの共演による哀愁に満ちた名作。カンヌ映画祭パルムドール、アカデミー賞外国語映画賞に輝く世界的巨匠が手掛ける。

CINEMA

辞書作りのために生きた人々の物語

マルモイ ことばあつめ

5月22日(金)よりシネマート新宿
ほか全国ロードショー　※予定
監督:オム・ユナ
出演:ユン・ゲサン、ユ・ヘジンほか

©2019 LOTTE ENTERTAINMENT All Rights Reserved.

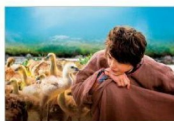
1940年代・京城(日本統治時代の韓国・ソウルの旧称)。盗みなどで生計をたてていたお調子者のパンスは、ある日息子の授業料を払うためにジョンファンのバッグを盗む。その盗んだバッグを巡ってふたりは出会い、そしてジョンファンの辞書作りを通してパンスは言葉の大切さを知ることになり……。

CINEMA

驚くべき実話に基づく奇跡の旅

グランド・ジャーニー

全国近日公開
監督:ニコラ・ヴァニエ
出演:ジャン=ポール・ルーヴ、メラニー・ドゥーテ、ルイ・バスケスほか

©2019 SND, tous droits réservés.

絶滅の危機に瀕する渡り鳥を救うため、研究者の父クリスチャンが進めているプロジェクト。それは軽量飛行機で共に飛び、鳥たちに安全な飛行ルートを教えるというもの。無謀だと言われた挑戦に息子トマが協力することに。しかしそれは彼や世界を変える偉大な旅のはじまりであった……。

※開館・開期情報は各HPにてご確認ください。

CINEMA

その男は、レコードを演奏する。

ジャズ喫茶ベイシー Swiftyの譚詩(Ballad)

アップリンク渋谷
ほかにて近日公開
監督:星野哲也
出演:菅原正二、島地勝彦、厚木繁伸、村上"ポンタ"秀一、坂田明ほか

©「ジャズ喫茶ベイシー」フィルムパートナーズ

世界中から客が集うという、岩手県一関市で50年間営業するジャズ喫茶「ベイシー」。マスターの菅原正二のインタビューを中心に、50年にわたってこだわり抜いた唯一無二の音と、「ジャズな生き様」を炙り出すドキュメンタリー。菅原が再生する極上の音が「ベイシー」の空気感も含めて収められている。

CINEMA

国家の嘘を暴く

オフィシャル・シークレット

TOHOシネマズ シャンテ
ほか全国ロードショーより近日公開
監督:ギャヴィン・フッド
出演:キーラ・ナイトレイ、マット・スミス、マシュー・グード AND レイフ・ファインズほか

©Photo by: Nick Wall © Official Secrets Holdings, LLC

2001年9月11日、同時多発テロ事件が発生して以降、米国政府は報復としてイラク戦争に向けあらゆる手段を講じていた。そんな中諜報機関GCHQに勤務するキャサリンは驚くべきメールを受け取ってしまう。2003年イラク開戦前夜、英米政府を揺るがせた衝撃の実話。国家権力に立ち向かったひとりの女性を描く。

ART

世界的に有名な浮世絵師

生誕260年記念 北斎の肉筆画 —版画・春画の名作とともに—

〜9月27日(日)　開館状況はHPにてご確認下さい
岡田美術館
☎0460-87-3931

葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》天保2〜4年(1831〜33) 岡田美術館蔵

葛飾北斎の画業70年のうち、40歳代から最晩年までの各時代を代表する珠玉の肉筆画11点を中心に、版画や版本、春画を含む全17点を展示。同館で収蔵する北斎の全作品を同時公開するのは今回初となる。そのほか北斎に影響を受けたガラス作家エミール・ガレの作品などを通じ、様々な角度から北斎に迫る。

ART

若冲作品の魅力とその背景

若冲誕生 〜葛藤の向こうがわ〜

〜6月21日(日)　※予定
福田美術館
☎075-863-0606

伊藤若冲《蕪に双鶏図》

初公開となる若冲30代の初期作品《蕪に双鶏図》をはじめ、初期から晩年までの作品と若冲に影響を与えた禅僧や画家たちを取り上げ、若冲作品の魅力とともにその背景に迫る。曾我蕭白や円山応挙など、同時代の画家の作品も展示。

ART

木梨憲武展 Timing —瞬間の光り—

※5月29日(金)〜6月21日(日)東京会場の開催は中止となりました。
詳しくは公式HPをご確認ください。

撮影:杉田裕一　©NORITAKE KINASHI

2018年7月の大阪会場を皮切りに、自身2度目となる全国美術館ツアー「木梨憲武展」。2015年のニューヨーク個展を契機に制作を始めた「OUCHIシリーズ」や「REACH OUTシリーズ」の最新作を中心に、絵画、ドローイング、映像、オブジェなど自由な発想と表現方法に富んだ作品150点を一挙に愉しめる。

ART

「バンクシーって誰?」展 —それはまるで、映画のセットのような美術展

8月29日(土)〜12月6日(日)
寺田倉庫 G1ビル
※開催情報は公式HPでご確認ください。

「Love Rat」2004年 個人蔵

イギリス出身の覆面アーティスト、バンクシー。謎に包まれた作家の活動の軌跡を、プライベートコレクター秘蔵の作品や体感型コンテンツで辿る東京初の展覧会。大阪、名古屋、郡山へ巡回予定。

BOOK

井上敏樹の初エッセイ

男と遊び

井上敏樹(著)
PLANETS
2420円

「スーパー戦隊」、「平成仮面ライダー」シリーズをはじめ、ヒーロー特撮番組の常識を覆し、人間の真実を暴き続けてきた脚本家・井上敏樹による初のエッセイ集。男と遊びのほか、男と女、男と酒など様々なテーマが描かれる。

BOOK

クルマを愛する人たちへ

クルマの本箱 〜絵本からミニカーまで〜

内野安彦(著)
郵研社
1980円

クルマ好きの元図書館員が手掛けた渾身の一冊には文字で、写真で、絵筆で表現された古今東西の愛しきクルマたちのドラマが詰め込まれている。「だから図書館めぐりはやめられない」の著者、内野安彦の最新作。

Staff

Publisher	星野邦久	Kunihisa Hoshino
In-company Producer	新井寿彦	Toshihiko Arai
Editorial-in-Chief	栗原紀行	Noriyuki Kurihara
Deputy Editor	末松敏樹	Toshiki Suematsu
Editor	大嶋里奈 塙　千春 紅林　怜 田村　巴	Rina Oshima Chiharu Hanawa Rei Kurebayashi Tomo Tamura
Art Director	丸山雄一郎 (SPICE DESIGN)	Yuichiro Maruyama
Designer	稲岡聡平 (稲岡聡平デザイン室) 久保田りん (NOEL DESIGN OFFICE) 高原真人 茂木亜由美 (Hiroshi Takahara Design Office)	Sohei Inaoka Rin Kubota Masato Takahara Ayumi Mogi
DTP	トラストビジネス株式会社	
Advertising Division	高橋正文	Masafumi Takahashi
Producer	三栄 遠藤和宏	Kazuhiro Endo

男の隠れ家

次号予告 NEXT ISSUE

2020年7月号は5月27日(水)発売です。
※内容は変更する場合があります。

【第一特集】
日本の原風景、素晴らしい景色
とにかく癒される! 山城・古戦場・歴史道の旅。

次号の小誌は男の隠れ家の人気企画、「歴史」テーマの大特集です。今回はその中でも特に人気のある山城と古戦場、そして歴史道をピックアップ。各所の史実はもちろんのこと、誌面を見ているだけでも癒される、そして、いつか行ってみたい! と思っていただけるような素晴らしいビジュアルでお届けします。どうぞご期待ください。そしてどうか、読者の皆さんに素敵な初夏が訪れますように…。

【第二特集】
昔の人ってこんな旅
旅道具、今昔物語。

【トピック】
大人気のアテ
酒によく合うお取り寄せ酒肴

男の隠れ家 2020年6月号（毎月27日発売）
定価 750円（本体682円）
第24巻第6号 通巻285号
発行　株式会社三栄　〒160-8461 東京都新宿区新宿6-27-30
新宿イーストサイドスクエア 7F
販売部　TEL：03-6897-4611　広告部　TEL：03-6897-4622
編集　株式会社プラネットライツ　〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町2-18
編集部　TEL：03-5369-8780
印刷　共同印刷株式会社

内容についてのお問い合わせは株式会社プラネットライツ(編集部)までお願い致します。

フェイスブック&ツイッターで情報発信中!!
月刊誌「男の隠れ家」
@otoko_kakurega
チェック、よろしくお願いします!

BACK NUMBER

「男の隠れ家」バックナンバーのご案内（本誌・毎月27日発売）

お求めは通販受注センター
TEL:03-5357-8802（平日10:00～17:30）　sun-a.com

男の隠れ家別冊（10月9日発売）

憧れのクラシックカー スタイル100
オースチンヒーレー100、プリンス グロリアS40型、いすゞ117クーペ など

19年11月号（9月27日発売）

DEEP沖縄。
もうひとつの那覇の顔、異国情緒が漂う街、琉球のはじまりの地など

19年12月号（10月26日発売）

昼呑みのススメ。
昼に呑める全国の名店50、燗酒を愉しむ、呑兵衛が愛する酒 キンミヤなど

20年1月号（11月27日発売）

お忍びの温泉宿。
誰にも邪魔されない隠れ家温泉38軒、BARのある湯宿など

20年2月号（12月27日発売）

奥・京都の名店
京都の美食20軒、老舗甘味処、京漬物、伏見の酒など

20年3月号（1月27日発売）

小さな秘密基地を造るアイデア。
狭小スペース活用術、家具&雑貨、ツリーハウス、木のガレージなど

20年4月号（2月27日発売）

TOKYO BAR STORY 2020
下町のBAR40軒、シングルモルトの基礎知識、BARのマナーなど

男の隠れ家別冊（3月16日発売）

日本の名城を訪ねて
現存十二天守を巡る旅、古写真で見る失われた名城、木造復元天守など

20年5月号（3月27日発売）

「昭和」をめぐる ひとり旅。2020
古き良き「昭和」スポット厳選10選、東京・横浜高架下物語など

大変申し訳ございませんが、ここに掲載されている号以外は全て完売となっております。バックナンバーについては通販受注センターへお問い合わせください。

MATSUDA T110

マツダ オート三輪 T110型

{1957-1978}

八百屋のシミズくんの三輪車

昭和30年代当時の東京風景を記録した写真集などを眺めていると、〝オート三輪〟と呼ばれた三輪スタイルの小型トラックがほぼ必ず写りこんでいるものだ。映画もヒットした西岸良平のマンガ「三丁目の夕日」でも〝バタバタバタ〟という粗野なエンジン音の吹き出しを添えてオート三輪の走るカットが当時の町景色の象徴のように描かれていた。

オート三輪が運送車として普及しはじめたのは大正時代、商業の盛んだった大阪から広がっていったと聞く。その草分けのダイハツも大阪が本拠だが、当初はアメリカのメーカーが主体で、あのハーレーダビットソンなんかも生産していた。もっとも、大正から昭和の戦前にかけてのオート三輪は、オートバイの後方に荷車をつなげたようなスタイルのものだった。

それに幌製の屋根が付き、両側に簡素な扉が設備され、段々と自動車っぽくなってくるのは戦後になってから。僕が物心つく昭和30年代中頃は、ダイハツとマツダがメーカーの双璧で3番手くらいに「くろがね」というメーカーがあったはずだ。

ダイハツはトンボみたいな顔をした大型車と大村崑(と佐々十郎)のCMで爆発的にヒットした小型のミゼットがよく町なかを走っていたけれど、僕にとってなじみが深いのはマツダの車。トンボ顔のダイハツよりもふくよかな丸顔に寄り目がちな2つ目(ライト)を付けたT110型(排気量によってT1100、1500、2000などがあった)というタイプだ。そう、このマツダのオート三輪のマスク、赤塚不二夫の「天才バカボン」によく出てきた〝つながり目のオマワリさん〟をふと連想させる。

ところでなぜ、なじみ深いかというと、わが実家の隣りの八百屋さんがこの車を使っていたのである。目白通りという幹線道路に面した店で、いまはコンビニになってしまったが、僕の幼少期は通りぬけのできるマーケットのようなつくりの店で、よく道端にオート三輪を停めて野菜の積みおろしをやっていた。

色はイラストにあるような、いかにも昭和30年代のブリキ玩具っぽい青色。マツダのオート三輪はこの青か、灰がかった緑色の車が大方だった。

八百屋にシミズくんという、御用聞きなんかでやってくる若い男がいて、よく遊んでもらっていた。野菜の青臭いニオイがするオート三輪に乗せてもらって近所を巡回した記憶がぼんやり残る。三輪ではないけれど、自転車の補助輪を取るための練習につきあってもらったのも、このシミズくんだった。

いずみ あさと
コラムニスト。1965年、東京都生まれ。東京ニュース通信社に入社し、「週刊TVガイド」の編集を行いながら「ポパイ」など雑誌への寄稿をはじめる。84年よりフリーに。最新刊はロングエッセー「1964 前の東京オリンピックのころを回想してみた。」。

イラスト◎小玉英章
1952年、岐阜県生まれ。イラストレーター、スーパーリアリズム作家。書籍の表紙や挿絵、企業広告のイラスト等を多く手がけるほか、個展、グループ展への出展も多数。第38回日本出版美術家連盟展大賞受賞、NYソサエティオブイラストレーターズ入選。